



スポーツ大好き
TAHARA

田原市スポーツ推進計画



平成28年3月
田原市教育委員会

はじめに

号砲とともに伊良湖の海に泳ぎ出し、すぶ濡れになったまま素早く自転車を走らせる選手たち。三河湾を後にしながら、太平洋のサイクリングコースをランで挑戦する苦しさの中にも笑顔も見せるアスリートたち。そして、必死で応援する住民やボランティア。毎年恒例になったこの光景とともに、伊良湖の夏は終わっていきます。

毎年9月初旬に行われるトライアスロン伊良湖大会もまもなく 30 年の節目を迎えます。この大会に向けて、最高のパフォーマンスに挑む選手たちと、おもてなしの心で応援や準備に熱心な地元関係者の人々。スポーツの魅力と美しい景観が折り重なって、長い歴史を築いてきました。まさしくスポーツの力があったからこそ続いている渥美半島の代表的な風物詩です。

このたび本市では「田原市スポーツ推進計画」を策定しました。この計画は市民がいつでも、どこでも、誰でもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するとともに、スポーツの力で地域社会を活性化することを目指し、その事業の方向性をまとめたものです。

2020 年には東京オリンピック開催も控え、我が国でスポーツが果たす役割は益々重要になってきています。教育委員会といたしましては、本計画を着実に推進し、スポーツの力で地域を活性化させていくべく精一杯努力してまいります。

計画を実現するためには、関係団体や民間事業者、地域コミュニティ、学校等社会全体が協働して取り組むことが必要不可欠となってまいります。皆様には「スポーツ大好き田原」のスローガンの下、本計画の推進により一層の御理解と御協力を賜りますようお願いを申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたり、御尽力いただいた策定委員会の皆様、調査に御協力いただいた市民や関係諸団体の皆様に心からの御礼を申し上げ、策定にあたっての御挨拶とさせていただきます。

平成 28 年 3 月

田原市教育委員会
教育長 花井 隆

目 次

第 1 章	計画の策定にあたって.....	1
1	計画の策定趣旨と背景	1
2	計画の位置づけ	2
3	計画の期間	3
第 2 章	田原市の現状.....	5
1	田原市の概況とスポーツの現状	5
2	田原市のスポーツの課題	21
第 3 章	計画の基本的な考え方.....	25
1	基本理念	25
2	スローガン	25
3	田原市が考えるスポーツの捉え方	26
4	基本施策	26
5	スポーツを推進するための視点	27
6	計画の体系	28

第4章 施策の展開..... 31

基本施策1 スポーツの機会の充実.....	31
1-1 子どものスポーツ活動の推進.....	31
1-2 成人のスポーツ活動の推進.....	38
1-3 シニア世代のスポーツ活動の推進.....	43
1-4 障がい者のスポーツ活動の推進.....	49
1-5 みる・支援するスポーツの推進.....	51
基本施策2 スポーツ組織・人材の充実.....	54
基本施策3 スポーツ施設の整備・充実.....	63
基本施策4 スポーツによる地域活性化.....	68
補助施策.....	75

第5章 計画の推進体制..... 79

1 計画の推進体制.....	79
2 各主体の役割分担.....	80

資料編..... 83

1 田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査報告.....	83
2 策定経過.....	112
3 田原市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱.....	113
4 委員名簿.....	115

第1章

計画の策定にあたって

1 計画の策定趣旨と背景

近年、少子高齢化の急速な進行、地域社会の空洞化や人間関係の希薄化、生活習慣病の増加など、国内を取り巻く社会環境や価値観が急激に変化している中、スポーツへの期待が高まっています。田原市においても、これらの課題への対応は急務であり、市民のスポーツ環境の充実や健康づくりは重要な課題となっています。

これまで田原市では、市民や地域団体の活動やスポーツイベントの実施により、スポーツの積極的な推進を図ってきましたが、スポーツ推進のための事業を体系的に示した計画は策定されていませんでした。

国においては、スポーツ界における新たな課題に対応していくため、平成 23 年には「スポーツ基本法」が制定され、平成 24 年には「スポーツ基本計画」が発表されました。「スポーツ基本法」では、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人の権利とするとともに、スポーツが国民生活において多面にわたる役割を担っていること、さらにスポーツが、体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足や楽しさ、喜びをもたらすという内在的な価値があることがうたわれています。

また、平成 23 年には「スポーツツーリズム推進基本方針」が策定され、地域が有する自然景観等の資源を活かして、スポーツによる地域づくりやスポーツ大会の開催等によって交流人口の増加を図り、地域活性化に繋げることが求められています。

このような背景を踏まえて、田原市では、本市が有する課題と本市が行うべきスポーツ推進のための事業を明らかにするとともに、市民・地域団体・民間事業者・行政が連携して事業を進めていくため、田原市スポーツ推進計画を策定することとしました。

2 計画の位置づけ

本計画は、「田原市総合計画」「教育大綱」「田原市教育振興基本計画」「緊急課題対応プラン」を上位計画とする個別計画で、これらの計画の方向性を踏まえて、本市のスポーツ推進のための事業を明らかにします。

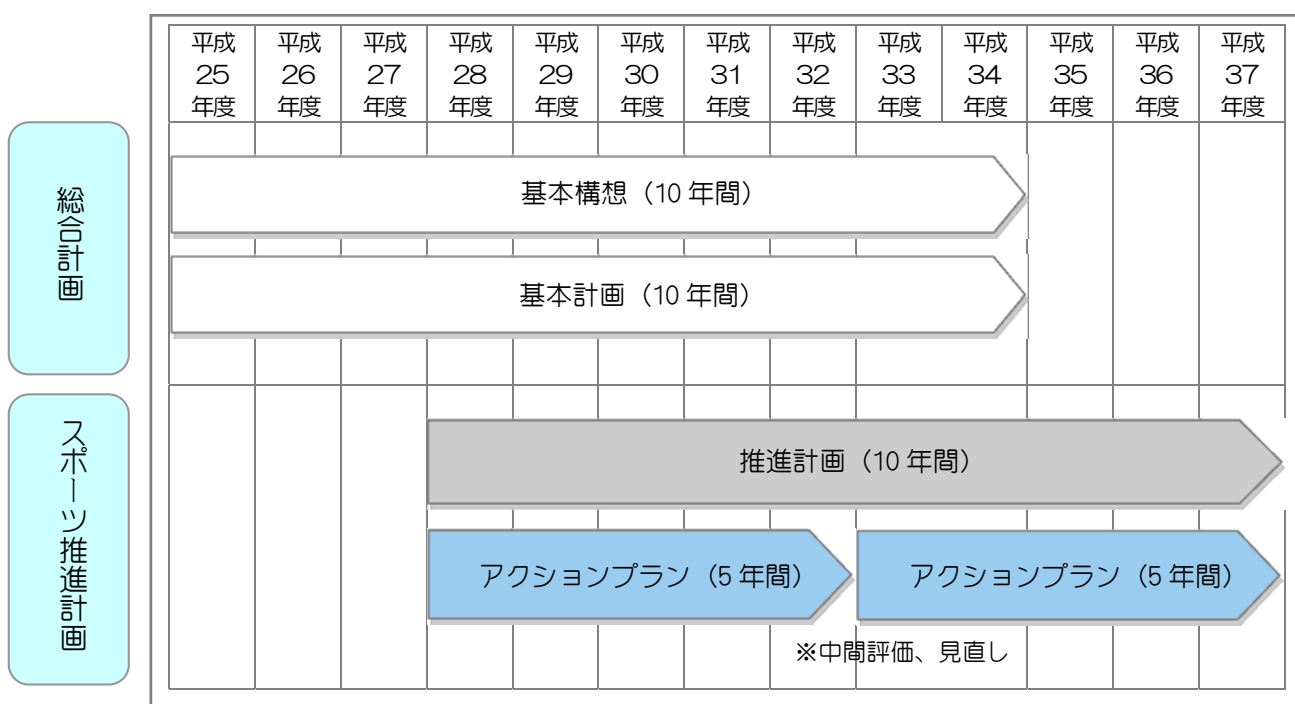
また、スポーツ基本法第10条第1項に規定する「地方スポーツ推進計画」に位置づけるものとし、国の「スポーツ基本計画」及び愛知県の「いきいきあいち スポーツプラン ～豊かなスポーツライフの創造～」を踏まえて策定します。



3 計画の期間

本計画の期間は、平成 28 年度から平成 37 年度までの 10 年間とします。

また、スポーツ環境の変化や計画の進捗具合などに対応するため、アクションプランは5年で中間評価を行うなど、状況に応じた見直しを行い、計画の実行性を高めます。



第2章

田原市の現状

1 田原市の概況とスポーツの現状

(1) 田原市の現状

図1 田原市の位置

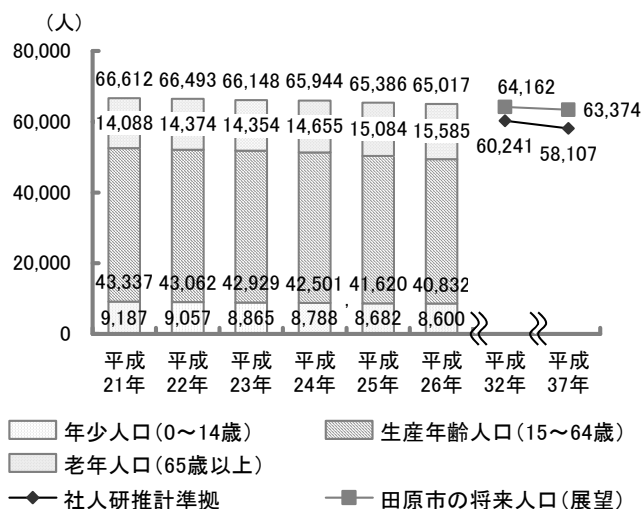


〔自然が豊富な半島〕

田原市は、愛知県の最南端にある渥美半島のほぼ全域に位置しています。

半島独特の細長い地形と、年間を通じて温暖な気候が特徴で、海や山などの多様な自然環境に恵まれた地域です。

図2 人口の推移と推計



資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

※平成32年、平成37年は推計値

〔少子高齢化の進行〕

本市の総人口は、平成26年で65,017人となっています。年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）の人口は年々減少していますが、一方老年人口（65歳以上）の人口は年々増加しています。

今後も人口は減少し、平成37年には総人口が58,107人と推計されますが、本市ではさまざまな戦略的な取組を行うことで、63,374人を維持することを目指しています。

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

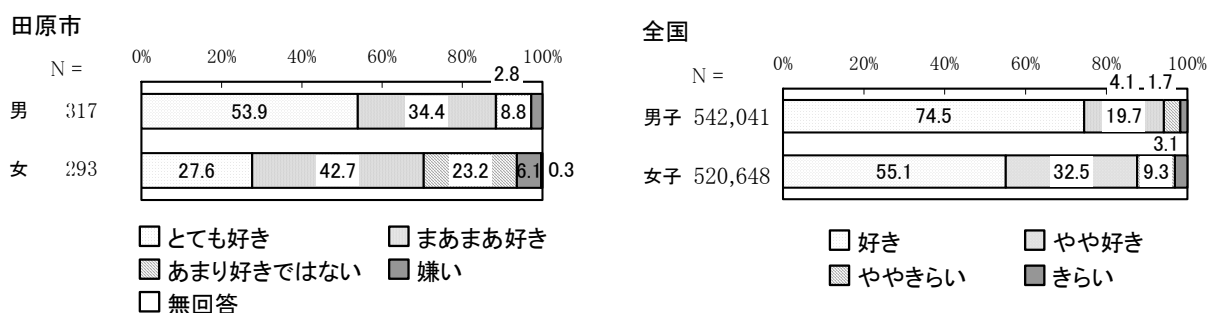
① 子どものスポーツの現状

スポーツが好きな小学生の割合は、全国より低い

スポーツ好きな中学生の割合は、男子は全国より低く、女子は全国同等程度

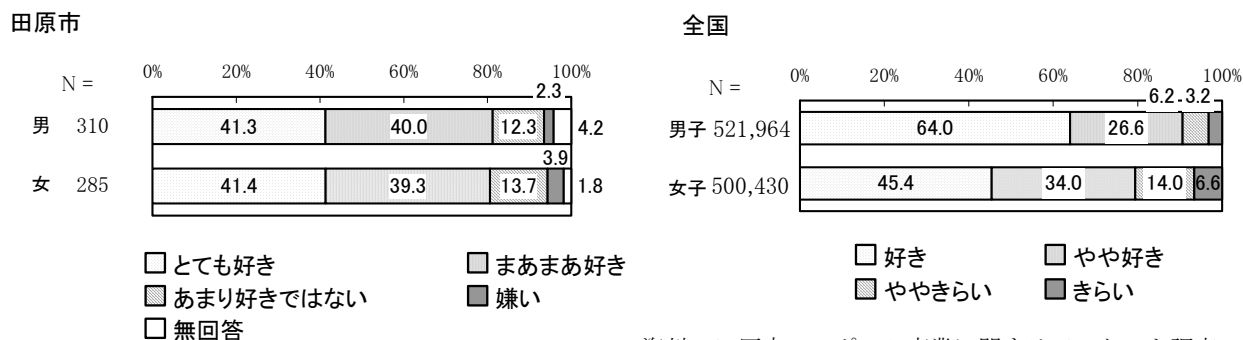
全国調査と比較すると、田原市の小学生の男子・女子は、「とても好き」と「まあまあ好き」をあわせた“スポーツが好き”と答えた割合が低くなっています。また、中学生男子では、“スポーツが好き”と答えた割合が全国と比較して低くなっていますが、女子はほぼ同じ傾向となっています。

図3 スポーツの好き・嫌いについて(小学5年生)



資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

図4 スポーツの好き・嫌いについて(中学2年生)



資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

〔学校の授業や部活動以外のスポーツの実施頻度は、年齢が上がるにつれ減少傾向〕

学校の授業や部活動以外のスポーツの実施頻度についてみると、小学生よりも中学生でスポーツを実施しなくなる傾向がみられます。

図5 学校の授業や部活動以外のスポーツの実施頻度について（小学5年生）

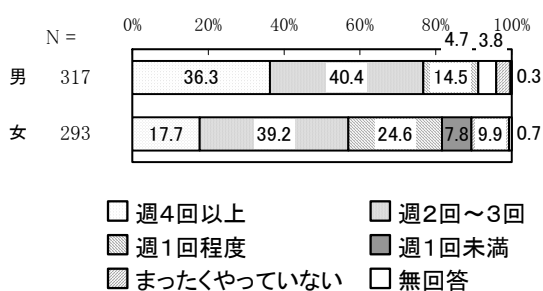
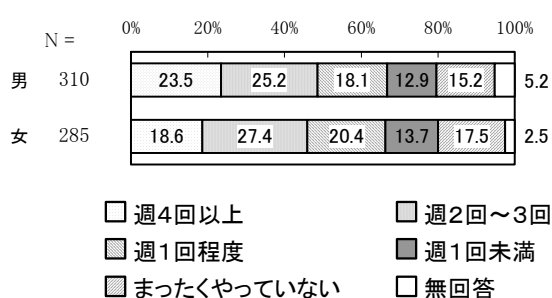


図6 学校の授業や部活動以外のスポーツの実施頻度について（中学2年生）



資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

〔体力合計点は、小学5年生の女子、中学2年生の女子で全国平均以上〕

体力合計点は、小学5年生、中学2年生ともに、女子は全国平均よりも高くなっていますが、男子では低くなっています。

また、ほとんど毎日運動している割合は、全国平均よりも高くなっています。

表1 体力合計点 平均値（点）

		田原市	愛知県	全国
小学5年	男	53.41	52.22	53.91
	女	55.60	53.46	55.01
中学2年	男	39.96	40.75	41.63
	女	48.70	48.60	48.55

資料：平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

表2 運動実施状況（ほとんど毎日する）

		田原市	愛知県	全国
小学5年	男	70.7%	57.9%	56.5%
	女	48.6%	33.4%	30.4%
中学2年	男	89.6%	82.9%	82.7%
	女	69.6%	60.6%	58.7%

資料：平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

〔 地域によっては部活動等で選択できる種目が限定される 〕

田原市の小中学生は部活動やスポーツ少年団、また地域のクラブ等のスポーツを行う場がありますが、地域によっては選択できる種目が少ない現状もあり、様々な種目に触れる機会が少なくなってしまう可能性があります。

小学校の部活動（平成 27 年 4 月現在）※学校教育課提供資料	
• 4～5 月：陸上競技	
• 6～7 月：水泳	
• 7～10 月：バスケットボール	

表 3 スポーツ少年団の種目と人数（平成 26 年度末）（単位：人）

地区	種目	バレーボール	軟式野球	ソフトテニス	剣道	バドミントン	サッカー	空手
中部		19	23	20		13	34	
衣笠			32	13		14		
神戸			21	25	16	17		
野田			34		17	9		
六連			8			14		
童浦			18	44	2	20		
南部			16			11		
東部			18			14		
赤羽根		13	14			18		
渥美			92			29		6

※スポーツ少年団提供資料

表 4 中学校の部活動と人数（平成 26 年度末）（単位：人）

種目			陸上		バレーボール		軟式野球	ソフトボール	ソフトテニス		卓球		バスケ		剣道	
中学校	生徒数	運動部	男	女	男	女	男女	女	男	女	男	女	男	女	男	女
東部	421	354	56	13		25	40	23	35	11	32	19	37	26	28	9
田原	600	466	50	26	30	35	46	21	37	21	50	37	36	32	24	21
野田	96	69				22	24								22	1
赤羽根	155	119			29	20	25	28							17	
福江	350	296			43	36	29	24	39	32	19	30	29		15	
岬	102	137	20	15		17	22		26	20		17				
泉	104	100				15	30			30			25			

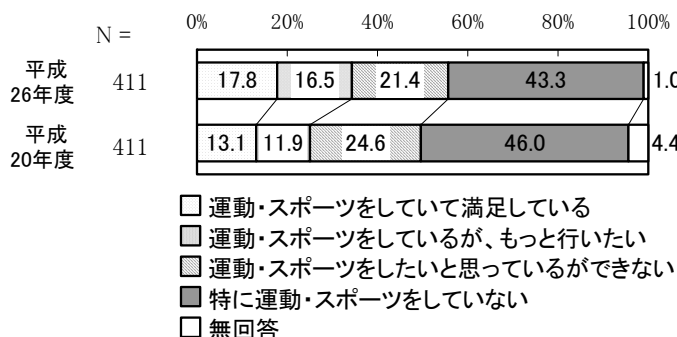
※庁内資料

【ヒアリングからの意見】

○ 子どものスポーツ環境について

- ・外で身体を動かすことが少なくなり、子どもの運動能力が非常に落ちていると感じる。
- ・女子中学生の運動離れが加速している。
- ・部活動の種類が少なく、子どもが多様なスポーツを楽しめないのは問題である。
- ・多様なスポーツに取り組むため、複数の学校が連携して部活動を行ってはどうかと思う。
- ・総合型地域スポーツクラブで、様々なスポーツに触れられるようになってほしい。
- ・放課後子ども教室などでスポーツ指導を行ってもよいのではと思う。
- ・子ども時代にスポーツが好きになれば、生涯スポーツに取り組むようになる。スポーツ好きの子どもをいかにに育てるかが、地域のスポーツの底上げには重要である。

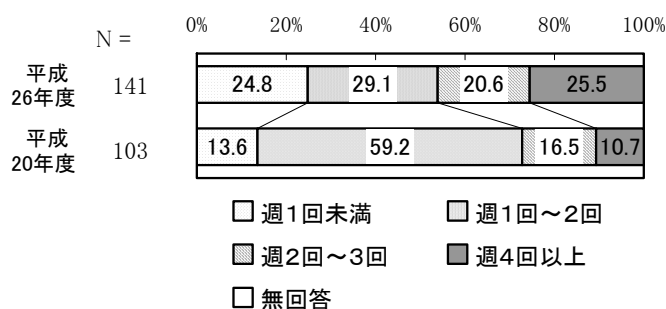
② 成人のスポーツの現状

図7 運動・スポーツの取り組み方について
(一般市民)

資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

【前回調査に比べ、スポーツをする人の割合が増加】

運動・スポーツの取り組み方についてみると、平成20年度調査と比べ、スポーツをする人の割合が高くなっています。

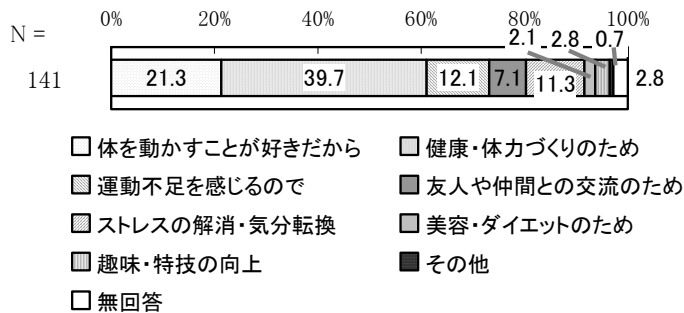
図8 運動・スポーツの実施頻度について
(一般市民)

資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

【スポーツをする人、しない人の二極化の進行】

運動・スポーツの実施頻度についてみると、平成20年度調査と比べ、スポーツをする人の中で、スポーツを積極的に行う人と、あまりスポーツを行わない人が増加し、二極化が進んでいます。

図9 スポーツを行う理由について（一般市民）

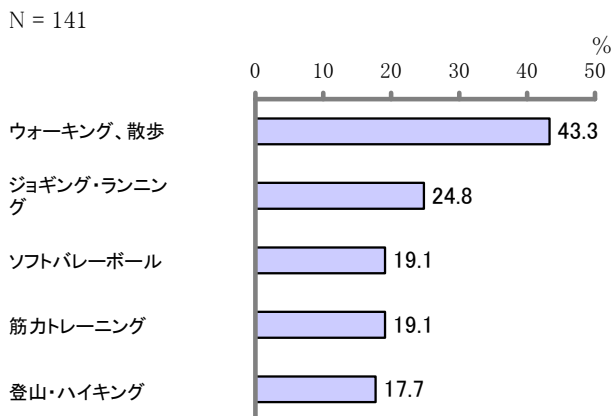


資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

健康・体力づくりのためスポーツに取り組んでいる人が多い

スポーツを行う理由についてみると、「健康・体力づくりのため」の割合が 39.7%、「体を動かすことが好きだから」が 21.3%、「運動不足を感じるので」が 12.1%となっています。

図10 実施しているスポーツの種類について（一般市民）※上位5つ



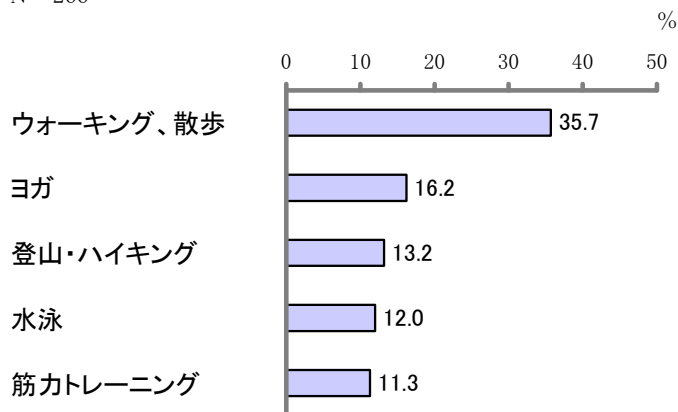
資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

多くの人が、ウォーキングや散歩、ジョギングに取り組んでいる

実施しているスポーツの種類についてみると、特に行われているスポーツは、「ウォーキング、散歩」が 43.3%、「ジョギング・ランニング」が 24.8%となっています。

図 11 今後取り組みたいスポーツの種類について（一般市民）※上位5つ

N = 266



資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

今後、ウォーキングや散歩をしたい人が約4割

スポーツに取り組んでいない人に今後取り組みたいスポーツの種類についてみると、「ウォーキング、散歩」が35.7%、「ヨガ」が16.2%、「登山・ハイキング」が13.2%となっています。

市及び教育委員会が主催するスポーツイベントやその他の主なイベントの開催状況は、下記のとおりとなっています。

表5 市・教育委員会主催のスポーツイベントの参加者数（平成26年度）

イベント名	開催時期	参加人数	主催
田原市スポーツフェスティバル	5～11月	3,385人	田原市・田原市教育委員会
初心者スポーツ教室	4～1月	630人	田原市教育委員会
中学生バスケットボール教室	8月	100人	田原市教育委員会
中学生バレーボール教室	8月	154人	田原市教育委員会
田原市スポーツギネス大会	10月	497人	田原市・田原市教育委員会
学童軟式野球大会	11月	26チーム	田原市・田原市教育委員会
ウォーキング大会	秋～春	—	田原市教育委員会
田原市ディスクドッチ大会	冬	205人	田原市教育委員会
田原市キンボールスポーツ大会	冬	122人	田原市・田原市教育委員会
中学生軟式野球教室	1月	144人	田原市教育委員会

資料：庁内資料

表6 その他の主なスポーツイベント（平成26年度）

イベント名	開催時期	参加人数	主催
校区交流スポーツ大会	6月	435人	田原市地域コミュニティ連合会
サーフィン世界大会	8月	—	実行委員会
トライアスロン伊良湖大会	9月	1,000人	実行委員会
ぐる輪サイクリング大会	10月	2,027人	実行委員会
中部・北陸実業団駅伝大会	11月	12チーム	実業団陸上競技連盟

資料：庁内資料

【ヒアリングからの意見】

○ スポーツイベントについて

- ・スポーツギネス大会がマンネリ化している。新種目を取り入れて、幅広い年代層が参加できる大会にしてほしい。
- ・有名人を招いての指導教室やトークショーを開催してほしい。

○ スポーツの実施について

- ・子育て世代は、スポーツ参加率が低い傾向がある。
- ・子どもの頃スポーツをやっていた人が、大人になってスポーツをするきっかけがあるとよい。
- ・渥美半島には農家が多いが、農家は日中にスポーツをやるための外出はしづらい。結果、夜のソフトバレーが盛んになる。
- ・農家は仕事で運動をしている、という自負があり、敢えてスポーツをやろうとしない。
- ・田原市のフィットネスクラブの会員は、他地域よりも人と人とのつながりが強い。

○ スポーツをする効果について

- ・仲間とスポーツの瞬間を共有し、仲間同士の繋がりを持てることが楽しい。
- ・体の健康、心の健康づくりにも繋がっている。
- ・（サーフィンにおいては）同じ波は二度とない。同じ景色もその時にしかない。自然の中で自分と向き合い、その瞬間を仲間と共有できる楽しさがある。

③ シニアのスポーツの現状

〔特にシニア世代でスポーツに取り組む人が増加〕

運動・スポーツの実施頻度について、特に 60 代、70 代以上で、平成 20 年度の調査に比べてスポーツに取り組む人が増加しています。

図 12 運動・スポーツの実施頻度について
(一般市民) <平成 20 年度調査>

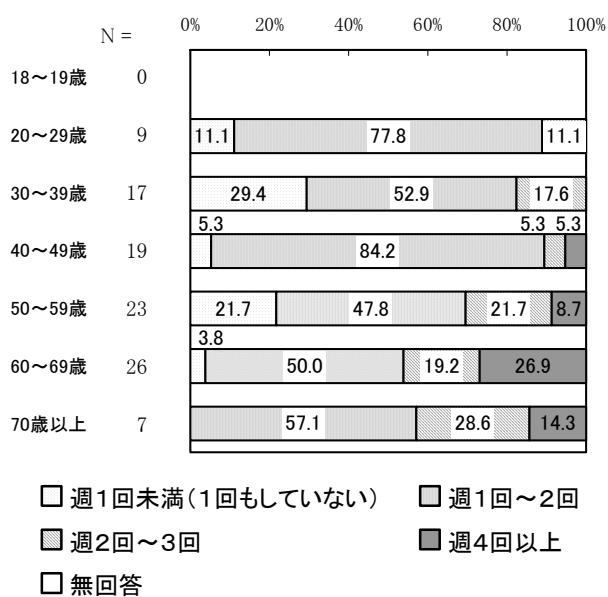
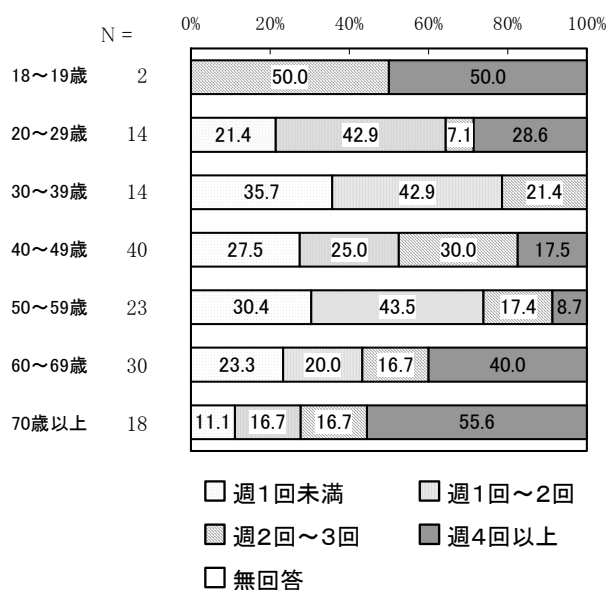


図 13 運動・スポーツの実施頻度について
(一般市民) <平成 26 年度調査>



資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

田原市では、シニア世代がスポーツや運動を行うための様々な機会を提供しています。

表 7 健康講座、スポーツ講座等の開催状況

事業	担当課
介護予防教室の開催	高齢福祉課
歩け歩け運動・軽スポーツの推進	高齢福祉課
あと 1,000 歩歩かまいキャンペーン	健康課

事業	担当課
民間スポーツクラブの利用助成事業	高齢福祉課
地域でのウォーキングキャンペーン（はつらつウォーキング教室）の開催	健康課
シェイプアップ教室（運動教室）	健康課

【ヒアリングからの意見】

- ・試合をしたり、チームの皆で戦術を練ったりしていると楽しく、頭の体操にもなっている。
- ・ゲートボールをしながら、仲間と歩いたりおしゃべりをしたりして楽しい時間を過ごすことで、健康づくりにも繋がっている。
- ・県外の大会に出場すると、全国に友人が広がりそれが楽しい。
- ・スポーツをすることで、毎日が充実している。
- ・小学生にスポーツ指導をするのが楽しい。
- ・3世代で取り組めるスポーツを進めてもらいたい。
- ・孫の運動会を応援に行くように、高齢者の大会も孫が応援に来てくれれば嬉しい。
- ・スポーツという言葉は、高齢者の方には、競技スポーツのイメージが強く、ハードルが高くなる。何かいい言葉で推進ができないか。
- ・スポーツクラブに通う人は、平均年齢が 50 代くらいで高齢者が増えている。スポーツというよりも健康づくり、という点をPRして集客を行っている。

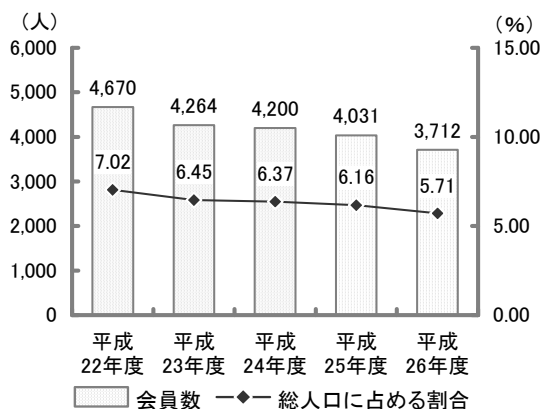
④ 障がい者スポーツの現状

○ 激励金支給実績

- ・平成 25 年：1 件（ろうあ者のソフトボール）
- ・平成 26 年：2 件（ろうあ者のソフトボール、知的障がい者のバスケットボール）

⑤ 組織・人材の現状

図 14 体育協会会員数の推移



〔 体育協会会員数は、年々減少 〕

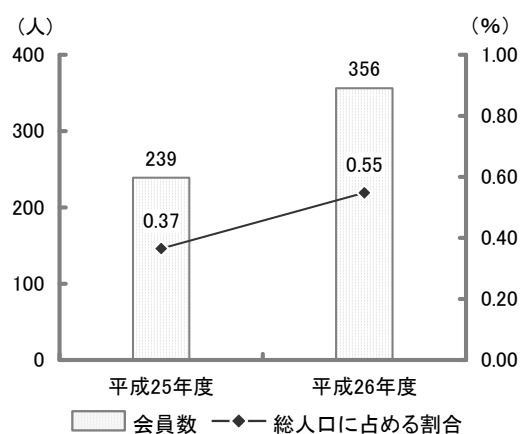
体育協会加入者数の推移をみると、平成 26 年度で 3,712 人となっており、平成 22 年度に比べ 958 人減少しています。

表8 田原市体育協会加盟団体（平成26年度）

加盟団体				
軟式野球	剣道	ソフトテニス	空手	弓道
卓球	柔道	バレーボール	バドミントン	ソフトボール
テニス	硬式空手道	サッカー	陸上競技	ゲートボール
グラウンドゴルフ	サーフィン	空手道	ビーチバレー	ミニバレーボール
ソフトバレーボール	ゴルフ	少林寺拳法	バスケットボール	スポーツ少年団

資料：庁内資料

図15 なのはなスポーツクラブ会員数の推移

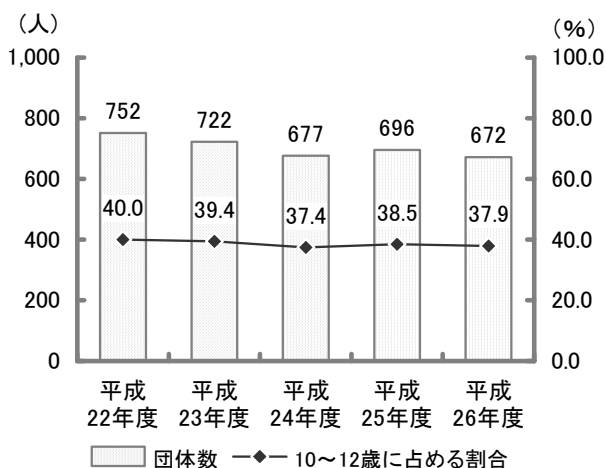


資料：庁内資料

〔 なのはなスポーツクラブ会員数は増加 〕

なのはなスポーツクラブ会員数の推移をみると、平成26年度で356人となっており、平成25年度に比べ117人増加しています。

図16 スポーツ少年団団員数の推移



資料：庁内資料

〔 スポーツ少年団団員数は減少傾向 〕

スポーツ少年団団員数の推移をみると、平成26年度で672人となっており、平成22年度に比べ80人減少しています。

【ヒアリングからの意見】

○ 体育協会等の団体について

- ・会員の減少が進んでいる。
- ・新たな事業を計画しても、運営スタッフ（ボランティア）が集まらず事業計画を立てることが難しい。
- ・若手世代は仕事などで忙しく、指導者の世代交代が進まない。
- ・各協会を横断的に取りまとめる行事などの機会があればよい。
- ・各競技協会が、持ち回りの一定規模の事業を企画し、その支援を体育協会が行うなどの事業を実施してはどうか。

○ スポーツ少年団について

- ・団員数が減少しており、種目も減少が進んでいる。
- ・スポーツを教えるだけでなく、青少年の健全育成が大きな役割でもある。スポーツを教えることで、礼儀や社会の規範等も教えている。
- ・スポーツ少年団で育った人が、将来は指導者として地域で活躍してくれるような循環を生み出したい。

○ 総合型地域スポーツクラブについて

- ・まだまだ認知度が低いので、積極的にPRして会員を増やしていきたい。
- ・競技性が強い体育協会と、楽しみながら取り組むなのはなSCという住み分けの中で、指導者と会員の循環の仕組みを作りたい。
- ・子どもたちが多様な競技を楽しめる仕組みを、総合型スポーツクラブの中で実現できないかと考えている。

○ 指導者について

- ・指導員資格を取るための支援を市にお願いしたい。有資格者がいないと試合に出場できず、練習も出来なくなってしまう。
- ・指導者のプロ化が必要と感じる。

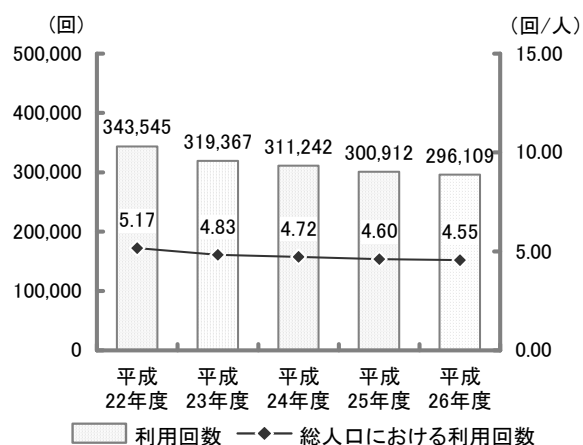
⑥ 施設の現状

表9 主なスポーツ施設の一覧表

施設名	建築年	主なスポーツ施設
田原市総合体育館	1978	競技場、第1武道場、第2武道場
渥美運動公園	1982	体育館、柔道場、剣道場、野球場、テニスコート、弓道場、多目的広場
赤羽根文化広場	1978	ふれあい会館、多目的運動広場、テニスコート、パターゴルフ場
赤羽根文化会館	1979	農業者トレーニングセンター
白谷海浜公園陸上競技場	1995	トラック、フィールド、サッカーコート
緑が浜公園	1983	センターハウス、野球場、多目的広場、テニスコート、パターゴルフ場
滝頭公園	1972	野球場、多目的広場、センターハウス、テニスコート
中央公園	2002	テニスコート、弓道場、遊水地スポーツ広場
田原東部運動公園	—	多目的広場
神戸運動公園	—	多目的広場

資料：庁内資料

図17 スポーツ施設利用回数の推移



資料：庁内資料

〔 スポーツ施設利用回数は、年々減少 〕

スポーツ施設利用回数の推移をみると、平成26年度で296,109回となっており、平成22年度に比べ47,436回減少しています。

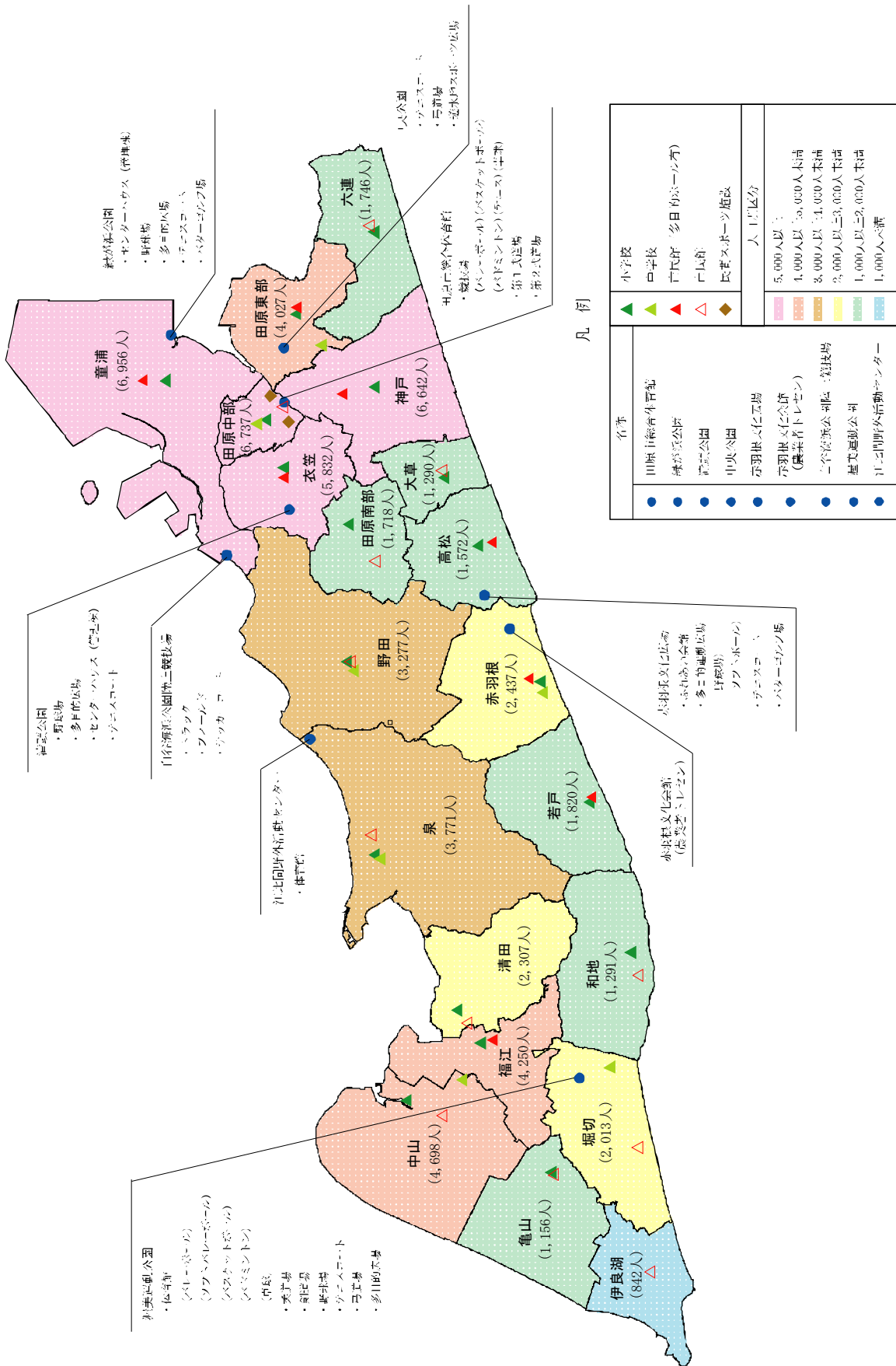
表10 人口当たりの延べ床面積 (㎡/人)

	田原	豊橋	豊川	蒲郡	新城
体育施設	0.23	0.14	0.13	0.18	0.17
総面積	6.10	3.26	3.46	4.73	4.71

資料：庁内資料（平成24年3月末）

公共施設の延べ床面積は、東三河5市の中で最も多く、過剰傾向にあります。将来の維持管理費を考え、計画的な施設配置が求められます。

図18 主なスポーツ施設のー覧地図



【ヒアリングからの意見】

○ 施設について

- ・県外から人を呼び大会を開催できるような、適当な会場がない。駐車場スペースも不足している。
- ・公認大会を開催できるよう、機材の整備などを実施してもらいたい。
- ・交通の利便性がよい場所に、核となるスポーツ施設を配置してもらいたい。半島の特性から、点在施設では魅力が半減してしまう。地域毎の小規模な施設と、核となる拠点施設を戦略的に位置づける事を検討してもらいたい。
- ・中央公園の整備を進めてもらいたい。
- ・施設使用後の片づけの指導や管理をしっかりしてほしい。
- ・早期の利用など、施設のソフト面で融通をきかせてほしい。
- ・効率的な施設の運営のため、指定管理者制度の採用も検討できるのではないか。

⑦ スポーツによる地域の活性化の現状

田原市は、温暖な気候に恵まれ、年間を通してスポーツ活動を行うのに適した地域で、様々なスポーツ大会やイベントが行われています。

またヤクルトスワローズの小川泰弘投手、世界的プロクライマーの尾川とも子選手、プロボクサーの第44代日本スーパーフェザー級王者の金子大樹選手など、全国的に活躍する選手を輩出していることも特徴です。

スポーツを自ら行うだけでなく、こうした一流の選手たちの姿を称賛する風土も田原市のスポーツ振興につながっています。



【ヒアリングからの意見】

○ 地域の活性化について

- スポーツで、地域間の交流を深めるための取組が必要である。
- 市民マラソンを開催し、全国から田原市にきてもらいたい。（交通規制、駐車場、トイレ、更衣室の確保等課題が有る。）
- 伝統ある渥美半島駅伝を復活させたい。県外からの参加も多く、応援者の来場で半島が盛り上がる。
- 田原市の表浜は世界に誇れる海なので、サーフィン競技や大会を通じて少しでもその魅力を様々な人に知ってもらい、海に親しんでももらいたい。
- 大会に、市外の団体や学校等の受入れをすることで、スポーツによる交流が深まると思う。
- 小川投手（野球）、尾川選手（ロッククライミング）、金子選手（ボクシング）など、田原市出身で活躍するトップアスリートの力を地域の活性化につなげることが必要である。



2 田原市のスポーツの課題

(1) スポーツの機会の充実に関する課題

① 子どものスポーツの課題

- ・スポーツが嫌いな子どもや苦手とする子どもの割合が全国より高くなっている。スポーツ嫌いの子どもの減らす取組を行わなければならない。
- ・子どもの人数が減少し、地域によっては多様なスポーツに触れられる機会が減ってきているため、対策を講じなければならない。

② 成人のスポーツの課題

- ・成人でスポーツをする人とならない人の二極化が進んでおり、スポーツをしない層への効果的なアプローチを検討しなければならない。
- ・成人になると時間がないためスポーツに取り組めない、という意見が多い。反対に「身近で」「気軽に」「一人で」できるスポーツがあれば取り組む、という意見もあるため、ニーズに応じたスポーツの機会を生み出していかなければならない。
- ・スポーツの実施効果（充実感、楽しさ、仲間作り、健康・体力づくり等）が、広く認知されていない。

③ シニア世代のスポーツの課題

- ・シニア世代でもスポーツをする人とならない人の二極化が進んでおり、スポーツをしない層に、健康づくり、生きがいづくり、仲間づくり、といったスポーツの効果を周知していく必要がある。
- ・今後益々高齢化が進むと予測されるため、高齢者の多様な状況やニーズに対応したプログラムの提供をしなければならない。
- ・気軽に取り組めるウォーキングや散歩などのニーズが高いが、周辺環境やルートが整っていない場所もあるため、整備を進めたり、安全なコースを設定したりしていかなければならない。

④ 障がい者のスポーツの課題

- ・障がいのある人も、スポーツを楽しむことができる環境づくりが求められている。

⑤ みる・支援するスポーツの課題

- ・スポーツを応援したり、支援する場面からスポーツに関わる人を増やしていく工夫が必要である。
- ・ボランティアとしてスポーツに関わったことがある人は少ないため、今後も積極的な活用が求められる。

(2) スポーツ組織・人材の充実に関する課題 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

- ・体育協会、スポーツ少年団などのスポーツ団体の規模が少しずつ縮小しており、組織基盤の強化が急務である。
- ・組織運営を担うための次世代の人材育成が課題である。
- ・より高度なスポーツ技術の習得を目指す人材に対して、質の高い指導が行える体制づくりを行わなければならない。
- ・市内の有望選手、スポーツ振興に取り組む企業の支援等を行い、その力を地域のスポーツの発展に活かしていくことが求められる。

(3) スポーツ施設の整備・充実に関する課題 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

- ・半島という地形に人口が点在しているため、拠点的なスポーツ施設までの距離が遠く、施設を利用しづらい住民も多い。地域のスポーツの現状と施設利用の状況、将来的な管理費等を踏まえた適正な施設配置を検討していくことが求められる。
- ・公共のスポーツ施設の整備充実だけでなく、学校施設や市民館等の活用や民間スポーツ施設との連携事業等の方法を模索していかなければならない。
- ・既存の施設についても利用者の満足度を向上させ、利用率を上げていかなければならない。
- ・今後より一層スポーツを振興していくため、戦略的な新しい施設の整備等も検討していく必要がある。

(4) 地域の活性化に関する課題

- 地理的環境に恵まれており、アウトドアスポーツなどで市外から人を呼びこめる可能性があるが、受け入れ環境が整備されておらず、その可能性を活かしきれていない。関係団体と連携しながら地域を活性化させる事業を展開していく必要がある。
- サーフィンや駅伝、トライアスロンや自転車など、これまでに開催されている大会の実績を活かし、より魅力ある大会にしていく方策を講じなければならない。
- 企業や大学などのスポーツ合宿の受け入れ体制が構築されていないため、官民が連携して受け入れ体制を整備し、施設を有効的に利用していく必要がある。
- 地域の人口が減少し、活力も失われていく恐れがあるため、スポーツの力で地域や世代の交流を深めていくための事業を考えていかなければならない。
- 2020年に開催される東京五輪や地域で開催される国際大会などの機運を活かし、地域のスポーツを盛り上げるための事業を講じていかなければならない。



第3章

計画の基本的な考え方

1 基本理念

スポーツは、人間が“身体を動かすこと”を自らの楽しみとして求めることによって育まれた人類共通の文化です。私たちは、スポーツが人生をより豊かにし生きる喜びをもたらすだけでなく、社会的な力を育む上でも重要な役割を果たすことを知っています。また、現代社会において、スポーツは健康増進や地域との交流、地域の活性化にも寄与するものとして期待されています。

田原市では、市民がスポーツを通じて豊かな心を育み、健康で幸せに暮らせるよう、いつでも、どこでも、誰でもスポーツに親しむことができるような生涯スポーツ社会を実現していきます。また、スポーツの力で市民の交流を活発化させて地域に活力を生み出すとともに、本市の有する海や山などの恵まれた地域資源を活かしたスポーツに力を入れることで、スポーツを目的に市外から訪れる人を増やし、地域の交流人口を増加させて、地域社会の活性化に繋げることを目指します。

2 スローガン

田原市民や田原市を訪れる人々が、みんなでスポーツを楽しむ街を目指すため、「スポーツ大好き 田原」をスローガンに掲げて、計画を推進します。



3 田原市が考えるスポーツの捉え方

田原市では、運動競技だけではなく、広く自身の健康増進のために行う身体運動もスポーツとして捉えます。具体的には、日常生活の中で行われるストレッチやウォーキング、あるいは余暇時間を使って楽しむハイキングやキャンプ、海水浴などもスポーツの範疇として捉えます。また、私たちの健康や体力に効果をもたらすと思われる日常生活の中での身体を使った農作業等の諸作業についても、その効果に着目し、スポーツ活動と同様に尊重していきます。

4 基本施策

基本理念を実現するため、以下の基本施策を掲げて事業を推進していきます。計画の達成度を把握する際は、基本施策の達成状況について様々なデータから把握し、計画全体の進捗状況を把握することとします。

基本施策1 スポーツの機会の充実

- 1-1 子どものスポーツ活動の推進
- 1-2 成人のスポーツ活動の推進
- 1-3 シニア世代のスポーツ活動の推進
- 1-4 障がい者のスポーツ活動の推進
- 1-5 みる・支援するスポーツの推進

基本施策2 スポーツ組織・人材の充実

基本施策3 スポーツ施設の整備・充実

基本施策4 スポーツによる地域活性化

5 スポーツを推進するための視点

本計画は、基本理念の実現に向けてスポーツを推進するための3つの視点のもと、それぞれの取組を進めていきます。



**スポーツを
はじめよう**

スポーツに取り組んでいない人や苦手な方を対象に、スポーツを始めるきっかけとなる事業を行います。具体的には、体験教室や参加しやすいイベントの実施、見て応援することの推進、スポーツ実施の効果のPR等の事業です。



**スポーツを
楽しもう、
広めよう**

既にスポーツに取り組んでいる人が、更に様々なスポーツを将来に渡し、継続して楽しんだり、広めたりすることができるような事業を行います。具体的には、各スポーツ団体の活動の充実や、指導者の育成、継続してスポーツに取り組める環境の整備等です。



**スポーツを
高めよう**

それぞれのスポーツのクオリティが高められる機会を提供し、主体的にスポーツのレベルを高めようとする方を支援する事業を行います。具体的には、トップアスリートとの交流機会の創出、より高いステップへの橋渡し、練習環境の充実や奨励金事業等です。

6 計画の体系

【基本理念およびスローガン】

【基本施策】

スポーツ大好き
田原

1 スポーツの機会の充実

1-1. 子どものスポーツ活動の推進

1-2. 成人のスポーツ活動の推進

1-3. シニア世代のスポーツ活動の推進

1-4. 障がい者のスポーツ活動の推進

1-5. みる・支援するスポーツの推進

2 スポーツ組織・人材の充実

3 スポーツ施設の整備・充実

4 スポーツによる地域活性化

補助施策

【事業】	スポーツを はじめよう	スポーツを 楽しもう・広めよう	スポーツを 高めよう
(1) スポーツに繋がる“運動遊び”に取り組める場づくり	○		
(2) 様々なスポーツを経験できる場づくり		○	
(3) スポーツを通して自己実現できる場づくり			○
(4) スポーツの環境づくりを目指した、行政と教育機関との連携	○	○	○
(1) 気軽にスポーツを始めるためのプログラムの提供	○		
(2) 様々なスポーツを楽しめる場づくり		○	
(3) スポーツを高めることができる場づくり			○
(1) 気軽にスポーツを始めるためのプログラムの提供	○		
(2) 様々なスポーツを楽しめる場づくり		○	
(3) スポーツを高めることができる場づくり			○
(1) 障がい者のスポーツ活動の推進	○	○	○
(1) みるスポーツの場づくり	○	○	
(2) 支援するスポーツの場づくり	○	○	
(1) 体育協会の充実・支援		○	○
(2) 総合型地域スポーツクラブの充実・支援	○	○	
(3) スポーツ少年団活動の充実・支援	○	○	○
(4) その他の団体の支援	○	○	○
(5) アスリートの育成・支援			○
(6) スポーツ指導者の育成・支援	○	○	○
(7) スポーツ活動支援者、ボランティアの確保・充実	○	○	
(8) スポーツ推進委員、スポーツ普及員の活動の充実	○	○	
(1) スポーツ施設の整備・充実	○	○	○
(2) アウトドアスポーツ施設の整備・充実	○	○	○
(3) 全ての人が使い易いよう施設の利用環境を整える	○	○	○
(1) 地域資源を生かしたスポーツの推進	○	○	○
(2) スポーツ合宿の誘致	○	○	○
(3) コミュニティ意識を高め、地域間交流を深める事業の推進	○	○	
(4) 競技者、団体の好循環による地域活性化	○	○	○
(5) オリンピック等、国際大会を契機としたスポーツの普及啓発事業	○	○	○
(1) 的確な情報発信			
(2) 安全なスポーツ環境の確保			
(3) 必要な予算、人員の配置を決める			

基本施策1

スポーツの機会の充実

1-1 子どものスポーツ活動の推進

始めよう！楽しもう！あんなスポーツ、こんなスポーツ

方向性

子どもの頃からスポーツに取り組むと、身体が鍛えられるだけでなく、社会性も育むことができます。また、子どもの頃にスポーツを好きになると、生涯を通じてスポーツに取り組む地盤を作ることができます。

しかし、田原市内の子どもは全国と比べて、スポーツを好きな割合が低くなっています。また、愛知県の子どもの体力テストの合計点も全国と比べて低い水準に留まっており、対策が急がれています。

そのため、スポーツに繋がる“運動遊び”に親しめる環境づくりから始め、様々なスポーツを楽しみ、高めることができる環境を作り、子どものスポーツの場を充実させます。

事業1 スポーツに繋がる“運動遊び”
に取り組める場づくり

はじめ
よう楽しもう
広めよう

高めよう

子どもの頃は、脳や神経系が急激に発達します。そのため、この時期に運動遊びを通して楽しみながら身体を動かすことで、スポーツに必要な基本的な動作や感覚を培っておくことができます。

そこで、子どもの頃から身体を動かす楽しさを知り、スポーツに親しむことができるよう、多種多様な運動遊びに取り組める場づくりを行います。

取組例
行政や各団体が連携して子どもの運動遊びの場を作るとともに、親子や3世代、地域で楽しめるイベントなどを開催します。 【市、スポーツ推進委員、体育協会、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団、コミュニティ協議会】
スポーツへの苦手意識を軽減させる講座を実施します。 【市、総合型スポーツクラブ、民間事業者】
学校や保育園に働きかけ、休み時間などにおける運動遊びを奨励していきます。 【市、学校】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
体育協会・なのはなSC／スポーツ課・子育て支援課	保育園・幼稚園での出張講座、巡回指導を開催する。 （目標：開催回数）	21回	29回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ推進委員／スポーツ課・生涯学習課	子ども会や児童クラブにおけるスポーツ講座を実施する。 （目標：実施地域）	12地域	20地域	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課／体育協会・スポーツ推進委員	スポーツギネス大会の宣伝を強化し、種目を更新して実施する。 （目標：参加人数）	497人	550人	600人	650人	700人	750人 評価 ・検討
スポーツ課／民間事業者	子ども向け運動能力開発プログラムを実施する。（目標：参加者数）	—	60人	評価 ・検討	→	→	評価 ・検討
スポーツ課／子育て支援課・学校教育課	学校や保育園等に顧問アドバイザーを派遣し、運動遊びを奨励する。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討



はじめ
よう楽しもう
広めよう

高めよう

事業2 様々なスポーツを経験 できる場づくり

子どもの頃から多様なスポーツを経験し、その中で自らの新たな可能性を見出していくことは、生涯に渡ってスポーツに取り組む地盤を作り、人生を豊かに充実させます。しかし、スポーツを始めるきっかけがあっても、そこに楽しさや喜びがないと長続きしません。そのためには、子どもが多種目に取り組める環境と、多様な選択が出来る環境を整備し、スポーツによる心と身体の充実を図っていくことが必要です。

そのため、行政、コミュニティ協議会、民間事業者等が連携して、多様なスポーツ環境を子どもに提供する手立てを講じる必要があります。

取組例

- 子ども達が参加するスポーツサークル等の活動を活発にし、スポーツによる仲間づくりを奨励していきます。

【市、市民】

- 子どもが参加しやすいスポーツ教室や大会に加え、3世代でも楽しめる大会も開催します【市、スポーツ推進委員、体育協会、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団、民間事業者】

- 子どものスポーツ環境づくりのため、施設を積極的に開放していきます。

【市、コミュニティ協議会、学校】

〔アクションプラン〕

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
健康課	あと1,000歩歩かまいキャンペーンを実施する。	59人	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・スポーツ推進委員	ニュースポーツの教室や大会を開催する。（目標：種目数）	4種目	5種目	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／体育協会	各競技の初心者教室を開催する。（目標：種目数）	21種目	23種目	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／体育協会	3世代交流スポーツ大会を開催する。（目標：種目数）	—	1種目	→	→	→	評価 ・検討
なのはなSC	子ども向けの教室を開催する。（目標：子ども向け教室数）	4種目	4種目	→	→	5種目	評価 ・検討

〔アクションプラン〕

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ少年団	子どもが様々なスポーツを経験できる環境を提供する。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／学校教育課・学校	学校施設開放を子どもの利用について優先的に実施する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討



事業3 スポーツを通して自己実現 できる場づくり



スポーツに取り組む子どもたちにとって、今より高いレベルを目指すことは、自己実現に繋がりスポーツの最大の継続要因となり得ます。そのため、子どもたちがより高いレベルを目指すように働きかけたり、その挑戦を後押ししたりすることは重要な意味を持ちます。

そこで、スポーツに取り組む子どもたちが、それぞれのレベルに応じて質を高めることができる機会を提供していきます。

取組例
・アスリートによる実技指導やレベルが高いスポーツ教室を開催する等の機会を設けます。 【市、体育協会、スポーツ少年団、民間事業者】
・より高いレベルを目指す子どもに対し、次のステップへの情報提供や橋渡しを行います。 【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団、民間事業者】
・全国大会や県大会等に出場する選手に対し、遠征費等の支援を行います。 【市、体育協会】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課・体育協会・民間事業者	トップアスリートによる実技指導の教室を開催する。 （目標：種目数）	4 種目	5 種目	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	優秀選手に激励金を支給し、広く情報を発信する。 （目標：交付者数）	44 人	50 人	→	→	→	評価 ・検討
体育協会	優秀選手の表彰を行い、遠征への派遣費を支給する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

事業4 スポーツの環境づくりを目指した 行政と教育機関との連携



子どものスポーツを推進する役割のうち、教育機関が担う役割は非常に大きく重要です。

そこで、子どもがスムーズにスポーツに親しみはじめ、楽しみ、高めていける環境を作るために、教育機関と行政、民間団体などとの協力体制を構築して取り組んでいきます。

取組例
- 部活動の在り方の検討会議の開催や、総合型地域スポーツクラブとの連携の模索を行います。 【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、学校】 - 体育授業や部活動の支援や充実を図るため、学校にスポーツ専門のアドバイザーを派遣します。 【市】 - 外部講師の活用について、学校現場とのヒアリングを行い、優秀な人材の活用方法を検討していきます。 【市、学校】

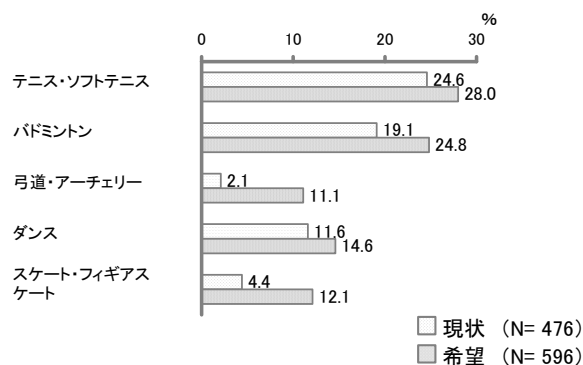
〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課 ／学校教育課・学校・なのはなSC	部活動の在り方の検討の場を設け、検討結果を事業に活かす。	—	ニーズ把握 ・検討	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／学校教育課・学校	スポーツ顧問アドバイザーを派遣し、体育授業や部活動の充実を図る。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

～コラム～ やりたいスポーツはできている？

図 学校の授業や部活動以外で行ったスポーツについて（現状と希望）（中学生）

上位5項目



資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

市内の中学生の「やっているスポーツ」と「今後やってみたいスポーツ」を比較すると、需要が大きいにも関わらず取り組めていない競技として、「テニス・ソフトテニス」、「バドミントン」、「弓道・アーチェリー」、「ダンス」、「スケート・フィギアスケート」等があります。

～コラム～ 愛知県の小学男子は全国最下位！？



平成 27 年 11 月に発表された「全国体力・運動能力習慣等調査」で、愛知県内の小中学生とも実技調査の合計点が全国平均を下回り、中でも小学男子は2年連続最下位となってしまいました。

田原市の小中学生の体力テストの結果は、概ね全国平均よりも高くなっていますが、スポーツ好きな子どもは少ない、というデータもあります。

愛知県も田原市も運動好きな子どもを増やす対策が急がれます。

1-2 成人のスポーツ活動の推進

スポーツでかなえる、理想の自分！

方 向 性

成人期にスポーツに取り組むと、仕事や家庭生活だけでは得られない豊かな経験が加わり、生活に潤いが生まれます。また身体機能も高まり、健康で暮らせることにも繋がります。

そのため、ライフスタイルの異なる全ての市民が、それぞれのスタイルでスポーツを楽しめるような環境づくりを行っていきます。

事業1 気軽にスポーツを始めるためのプログラムの提供

はじめ
よう

楽しもう
広めよう

高めよう

成人がスポーツに取り組むことで、生活に充実感が加わります。また、健康効果も高まり、社会的交流も活発になるなど、地域の活性化にも繋がります。

アンケートでは、スポーツに取り組んでいない人のうち、一人で気軽にできたり、近所で取り組めたりするのであれば、スポーツを始めてもよい、という人が多くいました。

そこで、スポーツを始めるきっかけを提供するため、気軽にできるスポーツプログラムを提供していきます。

取組例

- ・ウォーキング、ヨガ、ニュースポーツ等、手軽に取り組めるスポーツを推進します。
【市、スポーツ推進委員、体育協会、総合型スポーツクラブ】
- ・初心者教室や体験イベント等、スポーツ人口を増やす取組を行います。
【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、民間事業者】
- ・市内企業や事業所と連携し、従業員に向けたスポーツの推進活動を行います。
【市、民間事業者】
- ・健康診断の結果に応じて、スポーツイベント等の機会を紹介します。
【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、健康づくりリーダー】
- ・スポーツの健康効果等をわかりやすく情報提供していきます。
【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、健康づくりリーダー】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
健康課 ／スポーツ課	ラジオ体操の指導員を養成し、コミュニティ協議会での講習会を行う。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・スポーツ推進委員	出前講座やニュースポーツ教室を開催する。（目標：種目数）	4 種目	5 種目	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・スポーツ推進委員 ／健康課・健康づくりリーダー	ウォーキング大会を開催する。（目標：開催回数）	1 回	2 回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課／健康課・スポーツ推進委員・健康づくりリーダー	ノルディックウォーキング教室を開催する。（目標：教室開催数）	—	3 回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ推進委員 ／コミュニティ協議会	健康講座を開催する。（目標：実施地域）	9 地域	各地域で1回以上	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／体育協会・スポーツ推進委員	スポーツギネス大会の宣伝を強化し、種目を更新して実施する。（目標：参加人数）	497 人	550 人	600 人	650 人	700 人	750 人 評価 ・検討
健康課	母子を対象にベビーピクス教室を開催する。（目標：年間参加組数）	95 組	100 組	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／体育協会	各競技の初心者教室を開催する。（目標：種目数）	21 種目	23 種目	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／体育協会	3世代交流スポーツ大会を開催する。（目標：種目数）	—	1 種目	→	→	→	評価 ・検討
健康課	スポーツや健康づくりを目的とした健康マイレージの取組を推進する。（目標：達成者数）	39 人	100 人	拡充 →	拡充 →	拡充 →	1,000 人 評価 ・検討
なのはなSC	無料体験イベントを開催する。（目標：開催数）	2 回	2 回	→	→	→	評価 ・検討
健康課	サポーター企業との連携事業を進める。（目標：登録企業数）	15 社	20 社	→	→	→	50 社 評価 ・検討
健康課 ／スポーツ課	保健指導の対象者へスポーツイベント情報を発送する。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	手軽にできるスポーツやイベントを広報で紹介する。（目標：紹介回数）	月 1 回	月 1 回	→	→	→	評価 ・検討

はじめ
よう

楽しもう
広めよう

高めよう

事業2 様々なスポーツを楽しめる場づくり

スポーツを始めた人が継続していくためには、楽しさを味わうことが大切です。また、仲間を広げることで、更に「はじめる」人を増やすことにも繋がります。

しかし、働き盛りの世代は忙しく、継続してスポーツに取り組むことが難しい状況であることも少なくありません。

そのため、スポーツの楽しさを味わい、継続してスポーツに取り組みたくなる環境を整える必要があります。

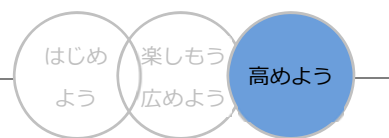
取組例

- 様々なスポーツを推進し、楽しみながらチャレンジできる大会を開催します。
【市、スポーツ推進委員、体育協会、総合型スポーツクラブ】
- 行政や地域団体、民間事業者が連携し、出張教室等、各地域で魅力的なスポーツ教室を開催します。
【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、健康づくりリーダー、民間事業者】
- スポーツ大会やスポーツサークルの情報を提供します。
【市、スポーツ推進委員、体育協会、総合型スポーツクラブ】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
健康課	あと 1,000 歩歩かまいキャンペーンを実施する。	59 人	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・スポーツ推進委員	ニュースポーツ大会を開催する。 （目標：開催数）	2 回	3 回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／体育協会	各種目によるスポーツフェスティバル大会を開催する。 （目標：種目数）	21 種目	21 種目	→	→	→	評価 ・検討
なのはなSC ／スポーツ課	魅力ある教室を開催する。 （目標：種目数）	10 種目	14 種目	15 種目	16 種目	17 種目	18 種目 評価 ・検討
スポーツ課・体育協会・なのはなSC・スポーツ推進委員	ホームページやチラシ、口コミ等でスポーツの大会やサークルの情報を紹介する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

事業3 スポーツを高めることができる場づくり



成人においても、スポーツのレベルを高めていくことで、自己実現を図ることができます。近年は、様々な種目でのマスターズの大会も、メジャーなものとして定着してきました。そのような場所を目指すなど、自らのスポーツのレベルを高める市民を増やすことで、継続してスポーツに取り組む人口を増やしていくことができます。

そこで、スポーツに親しむ成人が、各レベルに応じてより高いレベルへと挑戦ができる場づくりを行います。

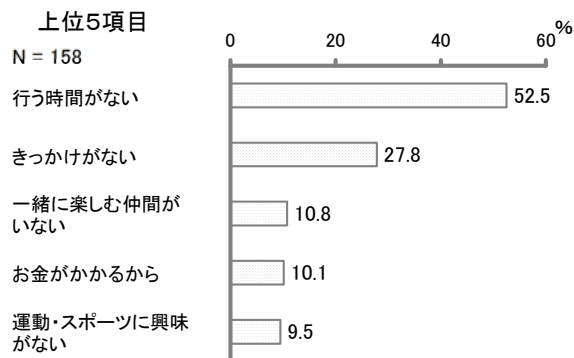
取組例	
・目標となり得るスポーツ大会の開催、誘致を進めます。	【市、体育協会】
・全国大会や県大会等、レベルが高い大会への出場を後押しします。	【市、体育協会】
・次のステップへの情報提供や橋渡しを行います。	【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、民間事業者】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課・体育協会	全国レベルの大会を誘致、開催する。（目標：開催回数）	1回	1回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	優秀選手に激励金を支給し、広く情報を発信する。（目標：交付者数）	44人	50人	→	→	→	評価 ・検討
体育協会	優秀選手の表彰を行い、遠征への派遣費を支給する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

～コラム～ どうしてスポーツをしていないの？

図 運動・スポーツをしていない理由（成人）



資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

成人で運動・スポーツをしていない理由をみると、「行う時間がない」「きっかけがない」「一緒に楽しむ仲間がいない」等があります。

このことから、対象に適した情報を提供してスポーツに取り組む動機付けを行うことや、短い時間で取り組めて、効果を感じやすいスポーツプログラムを提供することが必要と考えられます。



1-3 シニア世代のスポーツ活動の推進

健康・充実！スポーツで、理想のシニアライフ！

方 向 性

シニア世代にとって、スポーツは健康増進や生きがいづくり、地域とのコミュニケーションの手段などとして重要な役割を果たします。本市ではシニア世代のスポーツ参加率は上昇傾向にありますが、固定層だけではなく幅広い参加者を取り込む必要があります。

そのため、スポーツの楽しさや健康効果をわかり易くPRしながら、それぞれの運動能力に合わせてスポーツに取り組める環境づくりを行っていきます。

事業1 気軽にスポーツを始めるためのプログラムの提供

はじめ
よう楽しもう
広めよう

高めよう

スポーツをしていないシニアの方のうち、「体力や健康面に不安がなくなれば」、「通いやすい場所でできれば」、「一人で気軽にできれば」、「一緒にやる仲間がいれば」スポーツに取り組むと答える人がいます。このような要望に応え、一人でも多くの方がスポーツを始めることができるよう、シニア世代が気軽に取り組みやすいスポーツの機会を提供します。また、スポーツを行うことでの健康効果等の情報も併せて提供し、スポーツを行う動機付けをしていきます。

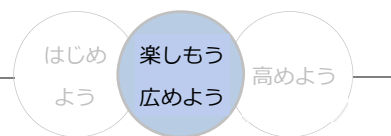
取組例

- ・ニュースポーツやウォーキング、介護予防教室等、手軽に取り組めるスポーツの教室を開催します。
【市、スポーツ推進委員、体育協会、総合型スポーツクラブ、健康づくりリーダー、民間事業者】
- ・初心者教室や体験イベント等、スポーツ競技者を増やす取組を行います。
【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、健康づくりリーダー】
- ・健康診断の結果に応じて、スポーツイベント等の機会を紹介します。
【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、健康づくりリーダー】
- ・スポーツの健康効果等をわかりやすく情報提供していきます。
【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、健康づくりリーダー】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
健康課 ／スポーツ課	ラジオ体操指導士を養成し、コミュニティ協議会での講習会を行う。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討
高齢福祉課	介護予防教室を開催し、運動の習慣づくりを行う。 （目標：開催地域数）	20 地域	20 地域	→	→	→	評価 ・検討
高齢福祉課	老人クラブに委託し、シニア世代の軽スポーツの推進事業を行う。 （目標：歩け歩け運動の表彰者数）	80 人	90 人	→	100 人	→	評価 ・検討
スポーツ課・スポーツ推進委員	出前講座やニュースポーツ教室を開催する。（目標：種目数）	4 種目	5 種目	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課／健康課・スポーツ推進委員・健康づくりリーダー	ノルディックウォーキング教室を開催する。（目標：教室開催数）	—	3 回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・スポーツ推進委員 ／健康課	ウォーキング大会を開催する。 （目標：開催回数）	1 回	2 回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／体育協会・スポーツ推進委員	スポーツギネス大会の宣伝を強化し、種目を更新して実施する。（目標：参加人数）	497 人	550 人	600 人	650 人	700 人	750 人 評価 ・検討
健康づくりリーダー	市民の自主的なスポーツ活動の効果が高まるような出張講座を開催する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
健康課	スポーツや健康づくりを目的とした健康マイレージの取組を推進する。（目標：達成者数）	39 人	100 人	拡充 →	拡充 →	拡充 →	1,000 人 評価 ・検討
スポーツ課 ／体育協会	各競技の初心者教室を開催する。 （目標：種目数）	21 種目	23 種目	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／体育協会	3世代交流スポーツ大会を開催する。（目標：種目数）	—	1 種目	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ推進委員 ／コミュニティ協議会	健康講座を開催する。 （目標：開催回数）	9 地域	各地域 で1回 以上	→	→	→	評価 ・検討
なのはなSC	無料体験イベントを開催する。 （目標：開催数）	2 回	2 回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	手軽にできるスポーツやイベントを広報で紹介する。 （目標：紹介回数）	月 1 回	月 1 回	→	→	→	評価 ・検討
健康課 ／スポーツ課	保健指導の対象者へスポーツイベント情報を発送する。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討

事業2 様々なスポーツを楽しむ 場づくり



スポーツを行うきっかけを作っても、楽しさや広がりがないと続かないのは、子どもや成人世代と同様です。

昨今は「人生90年時代」とも言われ、シニア世代に入ってからからの人生の充実のさせ方を考える時代に突入しました。しかし、シニア世代だからと言って、健康のためだけにスポーツに取り組むのは味気ないものです。

そこで、シニア世代もスポーツを大いに楽しみ、その結果健康効果も高まるような仕組みを作る必要があります。

取組例
- 様々なスポーツを推進し、楽しみながらチャレンジできる大会を開催します。 【市、スポーツ推進委員、体育協会、総合型スポーツクラブ】 - 健康講座等、シニア世代が取り組みやすいスポーツ教室や、民間事業者が連携した出張教室等、運動の機会を増やします。 【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、健康づくりリーダー】 - スポーツ大会やスポーツサークルの情報を提供します。 【市、スポーツ推進委員、体育協会、総合型スポーツクラブ】

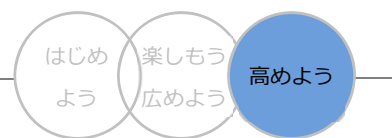
〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
健康課	あと1,000歩歩かまいキャンペーンを実施する。	59人	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／体育協会	各種目によるスポーツフェスティバル大会を開催する。 （目標：種目数）	21 種目	21 種目	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・スポーツ推進委員	ニュースポーツ大会を開催する。 （目標：開催数）	2回	3回	→	→	→	評価 ・検討
高齢福祉課	老人クラブに委託し、シニア世代のスポーツ大会を実施する。 （目標値：大会参加者数）	359人	380人	→	→	→	評価 ・検討

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
高齢福祉課	民間スポーツクラブの会費の助成 を行い、きっかけづくりをする。 （目標値：助成人数）	277人	280人	→	→	→	評価 ・検討
なのはなSC ／スポーツ課	魅力ある教室を開催する。 （目標：種目数）	10 種目	14 種目	15 種目	16 種目	17 種目	18種目 評価 ・検討
健康づくりリーダ ー	市民の自主的なスポーツ活動の効 果が高まるような出張講座を開催 する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・体育 協会・なのはなS C・スポーツ推進 委員	ホームページやチラシ、口コミ等 でスポーツの大会やサークルの情 報を紹介する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

事業3 スポーツを高めることができる場づくり



スポーツに取り組むことで、自己実現を図ることができるのは、シニア世代も同様です。昨今のシニア世代の活躍は、スポーツ界でも目覚ましいものがあります。より高いレベルにチャレンジしようという姿勢は、生きがいや目標を作ることができ、人生を充実させることにも繋がります。

スポーツに取り組むシニア世代が、より上のレベルに挑戦したり、技を高めたりすることができるような場づくりを行います。

取組例	
・ 目標となり得るシニアスポーツ大会の開催、誘致を進めます。	【市、体育協会】
・ 全国大会や県大会等、レベルが高い大会への出場を後押しします。	【市、体育協会】
・ 次のステップへの情報提供や橋渡しを行います。	【市、体育協会、民間事業者】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課・体育協会	全国レベルの大会を誘致、開催する。（目標：開催回数）	1回	1回	→	→	→	評価 ・ 検討
スポーツ課	優秀選手に激励金を支給し、広く情報を発信する。（目標：交付者数）	44人	50人	→	→	→	評価 ・ 検討
体育協会	優秀選手の表彰を行い、遠征への派遣費を支給する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・ 検討

～コラム～ スポーツで医療費削減！？

スポーツをすると、健康効果も高まると言います。では、一体どれくらい健康によいのでしょうか。

文部科学省が発表している、「平成 26 年度スポーツ政策調査研究（スポーツの経済効果に関する調査研究）調査報告書」によると、特定の健康増進活動や、健康支援プログラムを実施した場合には、1 割～2 割程度の医療費削減効果が認められた、という結果が出ているようです。

楽しみながらスポーツをすることで、健康的な生活が手に入るだけでなく、お財布にも優しく、家族や仲間との会話も広がるなど、一石何鳥にもなりそうです。

スポーツで、いくつになっても充実した毎日を送りたいものですね！



1-4 障がい者のスポーツ活動の推進

スポーツで、広がる仲間、広がる明日！

方 向 性

田原市は、「第2期田原市障害者計画」において、「障害のある人もない人も文化芸術活動やスポーツに親しめる環境を整備し、交流を通じた障害の理解と障害のある人の社会参加の促進を図ります」との方針を示しています。

このような方針に基づき、障がいがある人も、皆同じように様々なスポーツを楽しめるような環境づくりを行っていきます。

事業1 障がい者スポーツ活動の推進

はじめよう 楽しもう
広めよう 高めよう

障がい者が、スポーツに親しみ始め、楽しみ広めあい、スポーツレベルを高めることができるような環境づくりを行います。

また、誰もが一緒に楽しめるスポーツの魅力を活かし、障がいがある人となない人との相互理解を深め、ノーマライゼーションを推進します。

※ノーマライゼーション：高齢者や障がい者等を施設に隔離せず、健常者と共に支えあいながら暮らしていくのが正常な社会であるとする考え方。

取組例

- ・既存のスポーツ事業について、障がい者も参加でき、皆と一緒に楽しめる環境づくりを行います。
【市、スポーツ推進委員、社会福祉協議会】
- ・障がい者スポーツの競技者が、よりレベルが高い大会に出場できるような支援を行います。
【市、社会福祉協議会】
- ・アダプテッドスポーツ等の障がい者スポーツが実施できるような環境を整えます。
【市、スポーツ推進委員、社会福祉協議会】

※アダプテッドスポーツ：障がい者や高齢者、子どもあるいは女性等が参加できるように修正された、または新たに作られたスポーツのこと。

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
地域福祉課	福祉サービス事業所の活動に、スポーツの普及を取り入れる。	—	依頼	実施	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／地域福祉課・スポーツ推進委員	「障害者スポーツ指導員」の資格者を育成し、活用する。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	各イベントに障がい者の方も受け入れられる体制を整備する。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討
地域福祉課 ／社会福祉協議会	スペシャルオリンピックスの普及について検討を行う。	—	ニーズの把握	実施 検討	→	→	評価 ・検討

1-5 みる・支援するスポーツの推進

支えるスポーツなら、あなたも一緒に楽しめる！

方 向 性

スポーツは参加するだけでなく、応援などの目的で観戦したり、スポーツを教えたりすることで、楽しさや興奮をその場にいる人たちと共有することができます。

そのため、スポーツを見たり支援したりする機会を創出し、スポーツが好きな気持ちを市内に広めます。

事業1 みるスポーツの場づくり

はじめよう 楽しもう 広めよう 高めよう

市内のスポーツに関連する情報を発信し、市民が大会を見たり、応援できる機会を増やします。また、パブリックビューイング等の機会を創出し、スポーツを見て楽しむ機会を増やします。

取組例

- ・スポーツ大会やイベントの情報を、様々な媒体を使い広く提供していきます。
【市、体育協会、スポーツ少年団、民間事業者】
- ・パブリックビューイング等のスポーツを見る機会を創出します。
【市、民間事業者】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課 ／広報秘書課	ホームページ、広報誌等を使い、スポーツ大会の情報を提供する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	地元選手・団体の活躍する大会等のパブリックビューイングを実施する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

事業2 支援するスポーツの場づくり

はじめ
よう楽しもう
広めよう

高めよう

スポーツ指導者や審判員等の資格を有している人材が市内にいても、その人材を活用できなければ意味がありません。

そのため、市内で大会や試合を行う際には有資格者に広く協力を呼びかけたり、持っている資格に応じたイベントを紹介したりする、といったコーディネートを行い、人材を有効活用していきます。

取組例

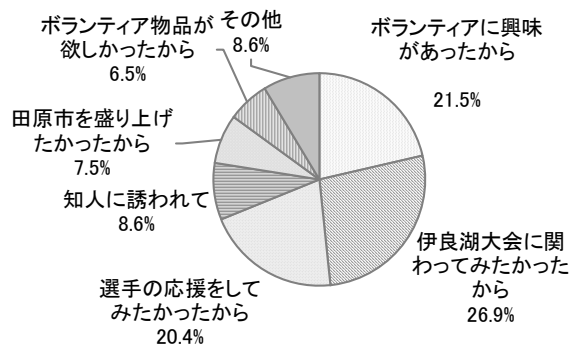
- 大会や試合を行う場合、指導者や審判員の有資格者に呼びかけ、人材の活用に努めます。
【体育協会、スポーツ少年団】
- 有資格者の登録制度やリストを作成し、スポーツや部活動の指導等に人材を活用できる仕組みを整えます。
【市、体育協会】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
体育協会 ／スポーツ課	有資格者の把握と活用を進める。	—	リスト 作成	活用	→	→	評価 ・検討

～コラム～ スポーツボランティアは楽しい！！

図 トライアスロン伊良湖大会でボランティアに参加した理由



資料：2015 トライアスロン伊良湖大会
ボランティアアンケート結果

トライアスロン伊良湖大会のボランティアに、参加した理由を聞くと「ボランティアに興味があった」「大会に関わってみたかった」「選手の応援をしてみたかった」等の声が多く聞かれました。

「次回も参加してよい」という割合も8割と高く、「他世代と触れ合えて楽しかった」「選手から感動をもらった」という意見も多く寄せられました。

このように、スポーツは自らが「する」だけでなく、「応援して」楽しむこともできるのです。



基本施策2

スポーツ組織・人材の充実

支える力、育てる力は、地域の財産

方向性

スポーツを推進する要となる団体の活動を地域が支え、充実させていくことは、スポーツの発展にとって重要な意味を持ちます。ですが、人口の減少に伴い、組織の規模が少しずつ縮小してきています。そのため、各団体が活動内容の見直しと充実を図るとともに、活動内容を積極的に発信して、会員数を維持し組織の充実を図る必要があります。

また、アスリートから指導者まで、地域の人材を育成する事も重要な施策です。市内の各団体と連携し、質の高い指導者の育成を行って、スポーツ振興の基盤を整えます。

事業1 体育協会の充実・支援

はじめ
よう楽しもう
広めよう

高めよう

田原市体育協会は、市の競技スポーツ及びレクリエーションスポーツの普及と振興を図り、市民のスポーツ活動をけん引する役割を果たす重要な組織です。今後更なる運営の充実を図るため、組織内での事業の見直しや行政からの運営支援等を行い、活動の充実と組織の強化を図ります。

※平成27年3月現在 加盟団体数26団体、加入者数：3,712人

取組例

- 市内のスポーツを推進するための事業を継続して実施します。

【体育協会】

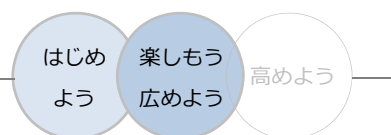
- 体育協会が充実した運営を継続できるよう事業の支援と組織の強化を支援していきます。

【市】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
体育協会 ／スポーツ課	事業内容を充実させ、会員数を維持する。（目標：会員数）	3,720 人	4,000 人	4,300 人	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	事業費を支援する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

事業２ 総合型地域スポーツクラブの 充実・支援



総合型地域スポーツクラブは、多世代の市民が、それぞれの興味関心・競技レベルに合わせて、多種目のスポーツに触れる機会を提供する、地域密着型のスポーツクラブです。

本市で活動するクラブが、さらなる運営の充実を図ることができるよう、クラブ活動の拡大等、必要な事業や支援を行っていきます。

※平成 27 年 3 月現在 設立 1 クラブ

・なのはなスポーツクラブ

教室：12 教室（卓球、バドミントン、ヨガ、空手、スポーツ吹き矢、エアロ、ソフトテニス、ストレッチ、親子運動教室）

会員：356 名

取組例	
・教室の見直しや新たな教室の開催等、活動内容の充実を図り、会員を増やします。 【総合型スポーツクラブ】	
・既存のクラブが充実した運営を継続できるよう、利用料免除や活動内容のPR等における支援を行います。	【市】
・市内に複数のクラブが創設されるよう、支援を行います。	【市】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
なのはなSC	教室の数を増やし、活動内容を充実させる。（目標：教室の種類）	12 種類	14 種類	15 種類	16 種類	17 種類	18種類 評価 ・検討
なのはなSC	会員数を増やす。 （目標：会員数）	356人	370名	390名	410名	430名	450名 評価 ・検討
スポーツ課	事業のサポートを行う。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

事業3 スポーツ少年団活動の充実・支援



スポーツ少年団は、スポーツを通じた青少年の健全育成を目的として創設した社会教育団体です。

しかし、少子化の影響もあり、会員数は徐々に減少しています。

そのような中でも活動の充実を図り、会員数を維持していくため、事業内容の見直しや、行政の支援等、必要な施策を行っていきます。

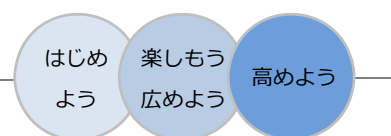
※平成27年3月現在 団体数32団（7種目）、団員数672人

取組例	
・活動内容の見直しや改善を行い、事業の充実を図り、団員を維持します。	【スポーツ少年団】
・スポーツ少年団の事業に必要な支援を行います。	【市】
・指導者の確保と質の向上を図ります。	【スポーツ少年団】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ少年団 ／スポーツ課	事業内容を充実させ、団員数を維持する。（目標：団員数）	672人	維持	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ少年団	活動内容の充実を図る。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	事業費の支援を行う。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ少年団 ／スポーツ課	指導者の育成を行う。（審判員研修、母集団研修、種目毎の技術研修等）（目標：研修の回数）	2回	2回	3回	4回	5回	6回 評価 ・検討

事業4 その他の団体の支援



市内のスポーツを推進する様々な団体の活動を支援します。

取組例
市のホームページで、様々なスポーツ団体の紹介を行っていきます。
【市】
大会への共催・後援承認などを通して、各団体のスポーツ活動を支援していきます。
【市】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
各団体 ／スポーツ課	ホームページでの情報発信を行う。（目標：スポーツ情報ページへのアクセス数を向上させる）	—	実施	→	→	→	評価 ・検討
各団体 ／スポーツ課	スポーツ事業への共催・後援事業を行う。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討



事業5 アスリートの育成・支援

国内や海外で活躍する選手が本市から生まれることは、多くの人に夢や希望を与え、地元への誇りを醸成するとともに、市内のスポーツ振興にも繋がります。

そのため、将来のトップアスリートの候補となる人材を発掘し、可能な限り支援をするとともに、市外へ羽ばたく際にはその後押しを行うなど、優秀な選手が市内から生まれるための支援を行います。

取組例
・全国大会や県大会に出場する選手に対して支援を行います。 【市、体育協会、スポーツ少年団】 ・優秀な成績を修めた選手は表彰を行い、その結果を広く情報発信していきます。 【市、体育協会、スポーツ少年団】 ・優秀な選手の中で、田原市に住みたいという選手がいれば受け入れを積極的に行います。 【市】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課	優秀選手に激励金を支給し、広く情報を発信する。 （目標：交付者数）	44人	50人	→	→	→	評価 ・検討
体育協会	優秀選手の表彰を行い、遠征への派遣費を支給する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

事業6 スポーツ指導者の育成・支援

はじめ
よう

楽しもう
広めよう

高めよう

スポーツ活動には、それを支えるための指導者の存在が不可欠です。指導者は、適切な専門知識と指導力を有していることが求められます。また、スポーツの世界は常に変遷していくため、絶えず最新の知識を更新していくことも必要となります。

そこで、適切な指導ができる人材を育成する事業や支援を行い、地域のスポーツの発展を支えます。

取組例

- スポーツの指導者を養成する事業を実施します。
【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団】
- 指導者の能力を向上させるための事業を実施します。
【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団】
- 指導者のネットワークを作り、情報交換ができる場を提供します。
【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
健康課 ／スポーツ課	健康づくりリーダーやラジオ体操指導士の養成を行う。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ少年団・ 体育協会 ／スポーツ課	指導員を養成するための支援を行い、人材を活用する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
なのはなSC	各教室の指導員の育成を行う。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

はじめ
よう楽しもう
広めよう

高めよう

事業7 スポーツ活動の支援者、 ボランティアの確保・充実

ボランティアとしてスポーツに携わることも、スポーツの楽しみ方の一つです。ボランティア自身は、地域のスポーツ活動を支えることで、やりがいや充足感を得られます。大会運営側にとっても、地域ボランティアの存在は欠かせません。

ボランティアがやりがいを持って活動できる仕組みを作り、地域の人材が活躍する場を増やしていきます。

取組例

- ・トライアスロン大会や駅伝大会等の大会運営に地域のボランティアを活用します。
【大会主催者】
- ・スポーツ活動を支える地域の支援者を育成するため、講習会等を開催します。
【市、体育協会】
- ・スポーツ指導の経験者が、地域のスポーツ活動に活躍できる仕組みを作ります。
【スポーツ推進委員、体育協会、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
大会主催者 ／スポーツ課	トライアスロン大会でのボランティアの活用 （目標：ボランティアの人数）	897名	900名	→	→	→	評価 ・検討
大会主催者 ／スポーツ課	駅伝大会でのボランティアの活用 （目標：ボランティアの人数）	860名	860名	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	ボランティアの募集をHPでPRし、人材を有効に活用する。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討
なのはなSC	教室の支援者としてスポーツ活動経験者を迎え、活用する。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討

はじめ
よう楽しもう
広めよう

高めよう

事業8 スポーツ推進委員、スポーツ 普及員の活動の充実

スポーツ推進委員は、市民のスポーツの振興に関して、実技指導やスポーツの行事運営の協力等を行っています。また、スポーツ普及員は、コミュニティ協議会及び地域におけるスポーツ行事を企画、立案、運営するために組織されています。

推進委員と普及員の育成を行うとともに、活躍の場を作り、地域のスポーツ活動の充実を図っていきます。

取組例

- ・推進委員、普及員の研修や技術の習得の機会を作り、実技指導力を向上させます。
【市】
- ・推進委員や普及員からのアイディアや意見を取り入れ、スポーツ推進事業に反映させたり、活動の場を広げたりしていきます。
【市、スポーツ推進委員、スポーツ普及員】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課	スポーツ普及員の育成研修を行う。（目標：研修回数）	1回	1回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ推進委員 ／スポーツ課	推進委員の技術の向上を図り、活動を充実させる。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ普及員 ／スポーツ課	コミュニティ協議会でのスポーツ行事を企画、立案、運営する活動を推進する。（目標：地域での活動回数）	実施	各地域 1回以上	→	→	→	評価 ・検討

～コラム～ スポーツ指導者って何で重要ななの？



スポーツの指導者は、プレーヤー自身が目指す姿に近づくために、プレーヤーの活動をサポートし、スポーツの意義と価値を社会に発信し、望ましいスポーツ推進社会の実現に貢献する役割があります。

また、子どもの育成を行う指導者の役割は特に重要です。子どもの心身の発育に合わせた指導はもちろんのこと、スポーツを通して、社会のマナーや他者への思いやりの気持ちを育む指導も求められます。

地域のスポーツを育てることは、適切な指導力を持った指導者を確保するところから始まる、といっても過言ではありません。

基本施策 3

スポーツ施設の整備・充実

皆で使う、皆で支える、スポーツ施設

方 向 性

スポーツ活動には、それを行うための適切な施設が必要となります。また、本市は海や山などアウトドアスポーツができる自然環境も充実していますが、自然の中で楽しむスポーツであっても周辺環境の整備は必要です。

しかし、そのようなスポーツ施設は建設・設置費用はもちろん、将来的な維持管理費用も必要となってくるため、安易に設置するということにはいきません。

そのため、本市のスポーツを推進するために必要な施設環境を見極め、計画的に整備・充実を図っていく必要があります。

事業 1 スポーツ施設の整備・充実



市民が身近な場所でスポーツを楽しむことができるよう、必要な施設の整備・充実を図ります。

公共施設は既存の施設を有効活用するとともに、広く公平に市民や関係団体の声を聞き、施設の複合化も視野に入れながら、将来の施設配置計画を検討していきます。

また、学校、コミュニティ協議会、民間事業者等と連携し、社会体育施設以外の施設も有効活用する仕組みを整え、市民のスポーツ環境を充実させていくこととします。

取組例

- ・市民や関係団体からの声を公平に評価し、既存のスポーツ施設の機能の充実を図ります。
【市】
- ・身近な場所にある学校施設や市民館等のスポーツへの活用を進めます。
【市、コミュニティ協議会、学校】
- ・スポーツ施設を有する民間事業者とも連携し、事業を検討していきます。
【市、民間事業者】
- ・市民や地域の声を広く公平に聞きながら、将来的な施設配置計画を検討していきます。
【市】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課	機能充実箇所を検討し、整備を実施する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	学校施設開放のため、備品の充実や施設の整備を行う。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／企画課 ・街づくり推進課	施設の将来配置を検討する検討会議を開催する。	—	検討会議開催	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／生涯学習課	市民館施設のスポーツへの活用について、可能性調査を行う。	—	調査	実施	→	→	評価 ・検討

事業2 アウトドアスポーツ施設の 整備・充実

はじめ
よう楽しもう
広めよう

高めよう

田原市は、サイクリングやハイキング等のアウトドアスポーツやサーフィン等のマリンスポーツに適した自然環境を有しています。このポテンシャルを最大限に活かしていくため、それぞれのスポーツが安全に楽しめるルートの整備や施設環境の整備を進めていきます。

併せて、気軽に楽しめるスポーツとして市民から人気が高いウォーキングを推進していくため、ルートの整備も進めていきます。

取組例	
・ウォーキング、ハイキング、ジョギング等のルートを利用し易いように整備し、利用促進事業を進めます。	【市】
・自転車道の整備を県に要請するとともに、市内の道路における自転車利用の促進について検討、実施していきます。	【市】
・サーファー等マリンスポーツの集客に繋がる設備を整備していきます。	【市】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
農政課・土木課・ スポーツ課 ／健康課	ウォーキングコースとジョギングコースの整備を行う。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／土木課	自転車ルートを紹介する看板を設置し、活用を促進する。	—	検討	実施	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・土木課 ／県	自転車道の整備について県に要請する。	—	要請	→	→	→	評価 ・検討
商工観光課・スポーツ課	ロングビーチ・ロコポイントにWi-Fiや電源、シャワー等の設備の充実を図る。	—	実施	→	→	→	評価 ・検討



事業3 全ての人が使い易いよう施設の 利用環境を整える



利用者や利用団体の声を把握し、施設の利用環境を整えます。また、利用料や予約方法の見直しを行い、全ての人が使い易い利用方法を検討していきます。

そして、施設の有効活用手段の一つとして、指定管理者制度の導入も視野に入れて施設管理の方法を検討していきます。

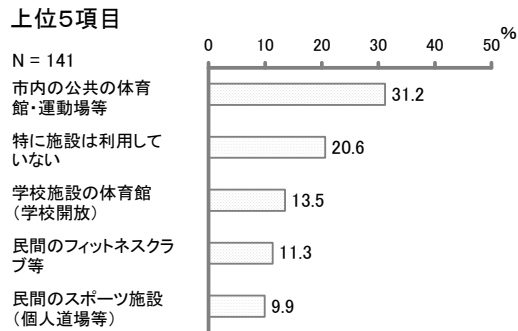
取組例	
・利用者や利用団体の声を吸い上げ、施設の整備事業に活用します。	【市】
・付帯設備の見直しや改善、利用料金や予約方法の見直しなどを行います。	【市】
・指定管理者制度導入のメリットやデメリットを整理し、導入について検討を行います。	【市】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課	利用者の声を把握し、整備・改善を行い利用者が利用し易い施設にする。 （目標：体育施設利用者数）	29万人	実施	40万人	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	指定管理者制度の導入を検討する。	—	検討	→	→	→	評価 ・検討

～コラム～ どこでスポーツをしていますか？

図 主にスポーツ活動をどこで行うか



資料：田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

アンケート調査によると、スポーツ活動を行う主な場所は、「市内の公共の体育館・運動場等」「特に施設は利用していない」「学校施設の体育館（学校開放）」となっています。

このことから公共施設の整備はもちろん、学校施設や市民館のスポーツへの開放を積極的に進めることや、ウォーキングやサイクリング等に使えるコースの整備を進めていく必要があることが推測されます。



基本施策4

スポーツによる地域活性化

スポーツで発信、田原の魅力！

方向性

半島特有の細長い地形の田原市は、三方を海に囲まれ、里山などの自然にも恵まれており、アウトドアスポーツやマリンスポーツを目的とした観光客を呼び込める資源が豊富です。また、サーフィン世界大会や、トライアスロン大会、半島全体を駆け抜ける駅伝大会等、参加するだけでなく、応援して楽しめるスポーツイベントも多く開催されています。また近年では、本市ゆかりの選手が全国的に活躍することも増えてきました。

これら本市が有する自然環境や大会開催実績、人材を活かし、市内外の人的交流を盛んにして、スポーツの力で地域を活性化させることを目指します。

事業1 地域資源を活かしたスポーツの推進

はじめ
よう楽しもう
広めよう

高めよう

本市が有する自然環境を活かしたスポーツを積極的に推進し、市外からも誘客を図ります。また、大会を積極的に開催・誘致して、地域のスポーツ振興を図ります。誘客や大会開催・誘致にあたっては、より多くの人々が市内を訪れ、買い物や宿泊をする仕掛けを作り、地域内での消費効果を高めて、地域の活性化に繋がっていきます。

取組例

- ・駅伝や、サーフィン、サイクリング、トライアスロン等、本市の魅力を活かしたスポーツの大会を積極的に開催・誘致します。

【市、体育協会、民間事業者、大会主催者】

- ・サイクリング、ウォーキング、ハイキング等の環境整備とコースのPRを行い、市民や市外の愛好者の利用を促進します。

【市、民間事業者、大会主催者】

取組例
・エクストリームスポーツやマリンスポーツ等、本市ならではのスポーツを推進します。 【市、民間事業者、観光ビューロー】 ・スポーツを楽しめる観光イベントを開催し、市外・海外から誘客します。（親子向けスポーツイベント、ハイキング・ウォーキング大会、インバウンド事業等） 【観光ビューロー】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
大会主催者 ／スポーツ課・観光ビューロー	サーフィン世界大会を開催する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
大会主催者 ／スポーツ課・観光ビューロー	全日本サーフィン大会を開催する。 （全日本大会の4種類の大会を誘致する）※1	—	誘致 ・開催 （1,000人規模）	誘致 ・開催 （500人規模）	誘致 ・開催 （500人規模）	→	評価 ・検討
大会主催者 ／スポーツ課・商工観光課	トライアスロン大会の開催と内容の充実を進める。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
大会主催者 ／スポーツ課	中部北陸実業団駅伝大会を開催する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
大会主催者 ／スポーツ課・豊橋市	渥美半島駅伝大会の再開に向けて、関係者と協議を進める。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
大会主催者・東三河広域連合 ／スポーツ課	サイクリング大会の開催や誘致を進める。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ・商工観光課	トライアスロン、サーフィン等を活用し、スポーツによる街の活性化を図る。	—	検討	実施	→	→	評価 ・検討
観光ビューロー ／商工観光課	サイクリングやウォーキング、サーフィン体験等を活用したインバウンド事業を実施する。	—	誘客活動	ツアー招致	→	→	評価 ・検討
観光ビューロー ／商工観光課	マリンスポーツ、ハイキング、ウォーキング等の観光スポーツイベントを実施する。 （目標：実施回数）	6回	7回	→	→	→	評価 ・検討

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課・土木課・商工観光課	サイクリングマップの作成、看板、サイクルラック等の設置を進める。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
健康課・商工観光課 ／スポーツ課	ウォーキングマップの作成と周知を行う。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

※1：全日本サーフィン選手権大会（1,000 人規模）、全日本ジュニアオープンサーフィン選手権大会・全日本マスターズオープンサーフィン選手権大会（500 人規模）、ALL JAPAN SURFING GRAND CHAMPION GAMES（500 人規模）の各大会の誘致を目指す。全日本サーフィン級別選手権については、平成 26 年に田原市にて開催。

事業2 スポーツ合宿の誘致

はじめよう 楽しもう 広めよう 高めよう

本市が有する施設や自然環境を有効に活用していくため、観光事業者や企業等と連携して、大学や企業等によるスポーツ合宿の誘致を進めます。

取組例

- ・スポーツチームの合宿受け入れ体制の整備と、誘致PR活動を進めます。
（施設の整備、施設予約や利用方法の整備、宿泊施設との連携、補助制度の整備等）
【市、観光ビューロー、民間事業者】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課 ／民間事業者	合宿受け入れのため、施設整備と受け入れ体制を整える。	—	利用制度整備	実施	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・企画課・商工観光課・観光ビューロー・民間事業者	市内企業や民間事業者と連携し、大学・企業への合宿の誘致活動を行う。	—	補助制度創設・PR	→	→	→	評価 ・検討

はじめ
よう楽しもう
広めよう

高めよう

事業3 コミュニティ意識を高め、 地域間交流を深める事業の推進

スポーツは共に競技をする人との連帯感を高め、競い合う相手との交流を生み出します。子どもからお年寄りまで様々なライフステージの人が一緒になって楽しむことができるスポーツの魅力を活かし、地域内や地域間の交流を生み出すための事業を実施します。

取組例

- ・コミュニティ協議会内で交流を深めたり、地域対抗で競い合ったりするスポーツ大会を実施します。

【市、スポーツ推進委員、スポーツ普及員、コミュニティ協議会】

- ・周辺市町とスポーツを通じて交流を深めるための大会を開催します。

【市、体育協会、スポーツ少年団、各団体】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
コミュニティ協議会 ／市民協働課・スポーツ課・スポーツ推進委員	地域の交流スポーツ大会を開催する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／コミュニティ協議会・スポーツ推進委員	市民体育祭の開催を検討する。	—	ニーズ 把握・ 検討	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ推進委員 ／コミュニティ協議会	健康講座を開催する。 （目標：開催回数）	9 地域	各地域 で1回 以上	→	→	→	評価 ・検討
政策推進課・スポーツ少年団・スポーツ課	交流野球大会を開催する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
東部太平洋岸総合整備促進協議会 ／政策推進課・スポーツ課	「表浜自然ふれあいフェスティバル」において、スポーツイベントを実施する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

事業4 競技者、団体の好循環による 地域活性化



本市は、全国的に活躍している有名選手を輩出しており、本市を拠点に活躍する企業チームも有しています。スポーツに真剣に取り組む選手の考え方に触れることは、子ども達や市民にとって大きな刺激となり、スポーツ推進への効果も期待できます。また、そのような選手が引退後も活躍できる場を設けることで、地域の人材を地元のスポーツ振興に活用していくことができます。

そのような、競技者、団体の好循環を生み出して人材を活用し、地域を活性化させていきます。

取組例

- ・有名選手による講演会の開催や、プロ選手による競技指導教室を開催します。
【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団、民間事業者】
- ・地元から輩出した選手が、引退後地元で活躍できるようUターンの仕組みを検討します。
【市】

〔アクションプラン〕

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課	スポーツへの理解を深め、選手の考え方等に触れる講演会を開催する。（目標：開催回数）	—	1回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・体育協会・民間事業者	トップアスリートによる実技指導の教室を開催する。（目標：開催種目数）	4種目	5種目	→	→	→	評価 ・検討

事業5 オリンピック等、国際大会を 契機としたスポーツの普及啓発事業

はじめ
よう

楽しもう
広めよう

高めよう

国際大会の開催を契機として高まるスポーツへの熱気を、本市のスポーツ推進の活力としていくため、大会開催を契機としたスポーツの普及啓発の取組を実施します。

取組例
- 国際大会の会場誘致、合宿誘致を検討して、誘致活動を実施します。 【市、体育協会、観光ビューロー】 - 市内や市外で開催される国際的な大会開催を契機として、スポーツ普及事業を進めていきます。 【市、体育協会、観光ビューロー】 - スポーツへの関心を高めるため、渥美半島産の花を活用したPRを行います。 【市、民間事業者】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課・政策推進課	国際大会の会場誘致、合宿誘致活動を行う。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	サーフィンやその他の国際的な大会の開催に合わせ、スポーツの普及PRを行う。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・農政課	国際大会を視野に渥美半島産のピクトリーブーケを活用し、スポーツをPRする。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

～コラム～ 大自然の魅力を体感しよう！

雄大な自然や温暖な気候に恵まれ、自然相手のスポーツが楽しめるのも、本市の大きな魅力の一つです。

「一度として同じ波はない。二度とない瞬間を、仲間と共有し、仲間同士繋がることのできるのが魅力」とは、地元サーファーの声。

大自然の中で行うスポーツは、その場所、その瞬間でしか味わえない、他には代え難い魅力があるようです。様々なスポーツシーンを提供できる、本市の環境を大切にしていきたいものです。



補助施策

計画の基本施策が的確に推進されるよう、以下の補助施策を行っていきます。

補助施策 1 的確な情報発信

様々な事業を推進するだけでなく、的確な情報発信をしていくことでその効果が倍増します。そこで、様々な媒体を使った情報発信に力を入れ、スポーツの推進を図ります。

取組例

- ・ホームページや情報誌等で、積極的にスポーツの情報を発信していきます。

【各団体】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課	広報誌で積極的にスポーツ情報を発信する。（目標：特集回数）	—	年1回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	ホームページでの情報発信を行う。（目標：スポーツ情報ページへのアクセス数を向上させる）	—	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課	市内のモニター等を使い、スポーツで頑張る選手を紹介する。（目標：年間の紹介回数）	—	20件	→	→	→	50件 評価 ・検討
スポーツ推進委員／スポーツ課	スポーツ推進員だよりを発行し、活動内容をPRする。（目標：機関紙発行回数）	年1回	年1回	→	→	→	年2回
体育協会	機関紙やホームページで活動情報を発信する。（目標：機関紙発行回数）	年2回	年2回	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ少年団	機関紙やホームページで、活動情報を発信する。（目標：機関紙発行回数）	年2回	年2回	→	→	→	評価 ・検討
なのはなSC	パンフレットやホームページでクラブの内容をPRする。（目標：パンフレット発行回数）	年2回	年2回	→	→	→	評価 ・検討

補助施策2 安全なスポーツ環境の確保

スポーツ活動に伴う事故や障害などの防止や軽減を図ることは、スポーツ活動を行う上で欠かせません。また、屋外のスポーツに関しては、気候や自然環境の影響を受けた事故の可能性もあり、これらもできる限り防いでいく必要があります。安全にスポーツを行うための教育や、指導者の知識向上、事故防止のための施設環境の整備を行い、安全なスポーツ環境の確保に努めます。

取組例	
スポーツ施設や用具の安全性を確保するため、管理者による定期的な点検や保守管理の徹底を図ります。	【市】
指導者を対象に、スポーツ中の外傷の予防や対処法、熱中症等の予防の知識を身に付ける講習の場を設けます。	【市、体育協会、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
スポーツ課	安全な利用ができるよう、施設の定期点検や保守管理を徹底する。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課・体育協会	スポーツ安全保険の加入促進を図る。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討
スポーツ課 ／体育協会・スポーツ少年団	指導者講習会等を通じて、安全なスポーツ環境の確保に関する知識を広める。（目標：講習回数）	年1回	年1回	→	→	→	評価 ・検討

補助施策3 必要な予算、人員の配置を求める

事業を推進するためには、必要な予算や、人員・組織の配置が不可欠です。事業を的確に推進するため、財政機関への要望や補助事業を活用し、予算等を確保していきます。

取組例
必要な予算や人員を確保するように努める。
【各団体】

〔アクションプラン〕（→：前年通りに事業を継続）

実施主体 ／連携	内容	実績 H26	H28	H29	H30	H31	H32
各団体	・必要な予算や人員の確保を進める。	実施	実施	→	→	→	評価 ・検討

～コラム～ スポーツのすすめ

スポーツをすると、何が良いのでしょうか？

この計画を作る策定委員会では、次のような様々な意見が交わされました。

「スポーツは、人間の生きがい、心の栄養になるものだ。」

「スポーツをすることは健康づくり、地域づくりに繋がる。」

「スポーツは強制してやるものではない。自分で楽しんで出来るスポーツが広まっていくとよい。」

「スポーツをすることで、ピンピンコロリを全うできる。」

「病院に通うのではなく、スポーツジムに通って健康になろう！」

「スポーツをするとキレイになれる！」

スポーツとの関わりは人それぞれで違います。でも、心と身体を健康にする効用があるスポーツ取り組まない手はない！と策定委員会では考えます。

皆さんが、自分なりのスポーツとの関わりを見つけて、毎日の生活の中に少しでも取り入れていただけることを願っています。

第5章

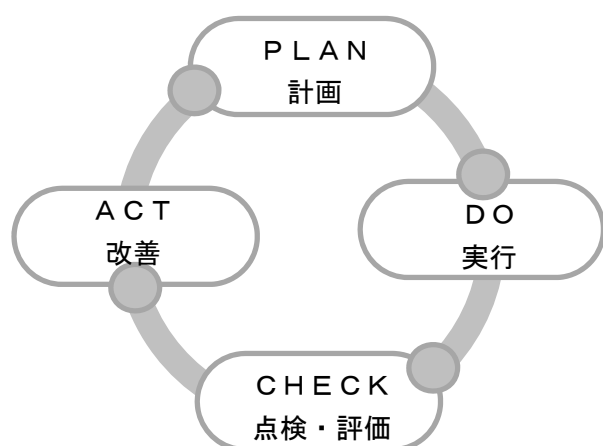
計画の推進体制

1 計画の推進体制

本計画を推進していくためには、計画の進捗状況を把握し、計画的に取組を進めていく必要があります。

計画の実現のため、スポーツ関係諸団体の連絡調整会議とスポーツ関係所管課の連絡調整会議を実施し、計画の進捗状況などについて総合的評価を行います。また、必要に応じて計画の見直しを行い、柔軟に計画の推進を図ります。

計画を効果的かつ着実に推進するために、「PDCAサイクル」[計画（Plan）→実行（Do）→点検・評価（Check）→改善（Act）]を確立し、継続的に計画の進行管理を実施していきます。



このサイクルは、P→D→C→Aと回り、事業の改善点を把握し、新たなサイクルを回していくことにより、継続的な計画の推進を図ります。

2 各主体の役割分担

計画の基本理念の実現に向けては、「市民」、「民間事業者」「スポーツ・健康づくり関係の地域団体」、「行政」が役割分担をしながら、協働して取組を進める必要があります。

市民の役割

基本理念の実現に向け、市民が生活の中に積極的にスポーツを取り入れ、主体的に健康づくりをしていくことが必要です。

そのため、各種スポーツ教室やイベントへの積極的な参加、スポーツ・健康づくりに関する情報の収集、指導者や支援者としての参画、大会やイベントの応援など、様々な場面で、スポーツに携わっていくことが期待されます。

民間事業者の役割

民間のスポーツクラブ等の事業者には、市民が気軽に親しめるスポーツや運動メニューを開発し、提供していく役割が期待されます。

一般企業では、従業員向けのスポーツ活動に関するサービスの提供、従業員の健康管理、グラウンドや体育館の開放等が期待されます。また、実業団選手やプロチームの活躍や、選手による指導講習会の開催等も期待されるところです。

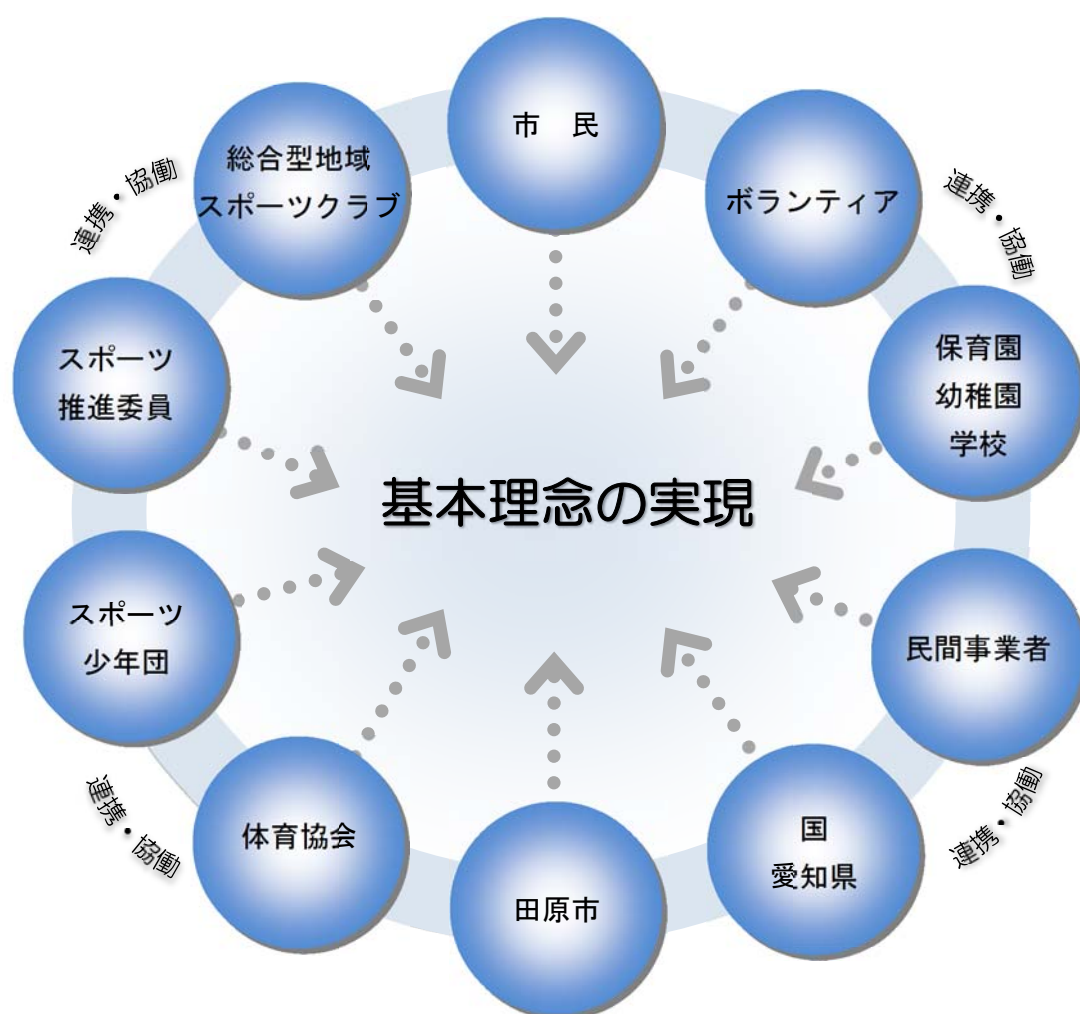
スポーツ・健康づくり関係の地域団体の役割

スポーツ・健康づくり関係の地域団体には、各種教室・イベントを行政や市民と連携して企画・運営し、地域のスポーツ事業を活性化させることが求められます。また、様々なライフスタイルの市民が利用しやすい、身近なスポーツ環境づくりも期待されます。

行政の役割

健康づくりへの関心の高まりとともに、スポーツ・レクリエーション活動に対する市民ニーズは高くなっています。

ニーズを的確に捉え、必要な事業を実施するとともに、地域団体のスポーツ活動の支援や民間事業者との連携、スポーツ活動の拠点となる施設の適正な運営等を通じ、全ての市民がスポーツを楽しみ、スポーツを通じて健康で幸せに過ごすことができる街づくりを実現していきます。



資料編

1 田原市のスポーツ事業に関するアンケート調査

(1) 調査の概要

1 調査の目的

本市では、地域におけるスポーツの振興を積極的に進めていくため「田原市スポーツ振興計画」を策定することとなり、そのためのアンケート調査を実施することになりました。

本調査は、市民のスポーツ活動の現況や課題に加え、スポーツ施設の使いやすさや、市のスポーツ施策に関する意見を聞き、計画策定の基礎資料とすることを目的としています。

2 調査対象

一般市民に対するアンケート：市内在住の18歳～80歳までの男女を無作為抽出

小中学生に対するアンケート：市内在住の小学校20校の5年生、中学校7校の2年生

3 調査期間

一般市民に対するアンケート：平成27年1月6日から平成27年1月31日

小中学生に対するアンケート：平成26年12月8日～12月19日

4 調査方法

一般市民に対するアンケート：郵送による配布・回収

小中学生に対するアンケート：直接配布、直接回収

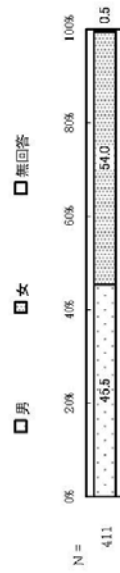
5 回収状況

	配 布 数	回収数	有効回収率
一般市民	1,000 通	411 通	41.1%
小学5年生	618 通	610 通	98.7%
中学2年生	624 通	596 通	95.5%

I 調査結果（一般市民対象）

問1 あなたの性別をお答えください。（○はひとつ）

「男」の割合が45.5%、「女」の割合が54.0%となっています。



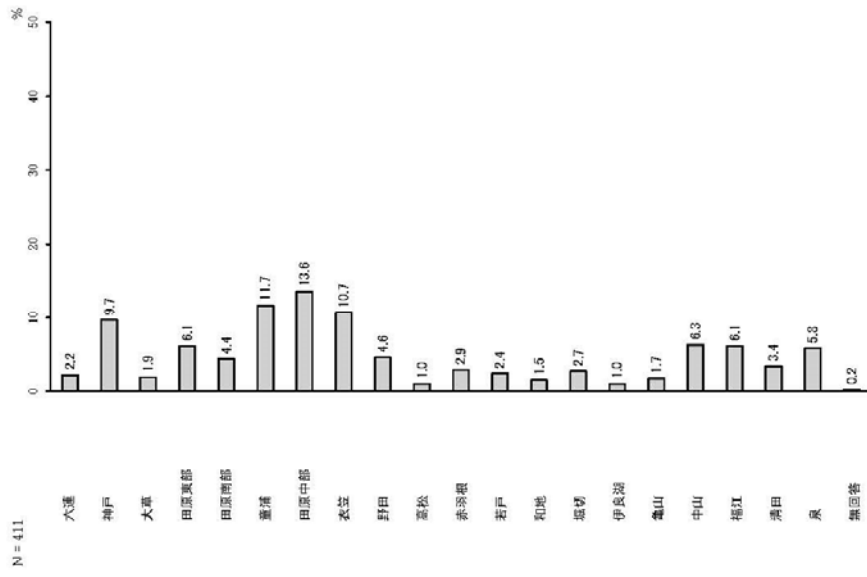
問2 あなたの年齢をお答えください。（○はひとつ）

「40～49歳」の割合が23.4%と最も高く、次いで「60～69歳」の割合が23.1%、「50～59歳」の割合が18.7%となっています。



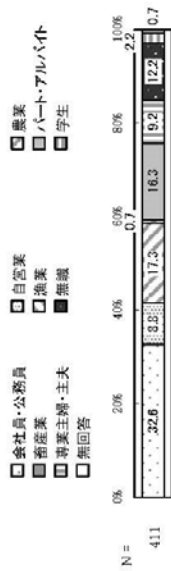
問3 あなたのお住まいの校区をお答えください。（○はひとつ）

「田原中部」の割合が13.6%と最も高く、次いで「蟹浦」の割合が11.7%、「衣笠」の割合が10.7%となっています。



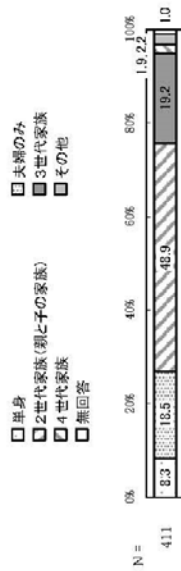
問4 あなたのご職業をお答えください。(○はひとつ)

「会社員・公務員」の割合が32.6%と最も高く、次いで「農業」の割合が17.3%、「パート・アルバイト」の割合が16.3%となっています。



問5 あなたの家族構成をお答えください。(○はひとつ)

「2世代家族(親と子の家族)」の割合が48.9%と最も高く、次いで「3世代家族」の割合が19.2%、「夫婦のみ」の割合が18.5%となっています。



問6 あなた自身のこの1年間における運動・スポーツの取り組み方についてお聞かせください。あなたの取り組み方に最も近いものを選んでください。(○はひとつ)

「特に運動・スポーツをしていない」の割合が43.3%と最も高く、次いで「運動・スポーツをしたいと思っているが、できない」の割合が21.4%、「運動・スポーツをしていて満足している」の割合が17.8%となっています。



【前回調査との比較】

「運動・スポーツをしていて満足している」という人の割合は17.8%で、前回調査の13.1%よりも増加しています。

「運動・スポーツをしていないが、もっと行いたい」という人の割合も、16.5%と、前回の11.9%よりも増加しています。

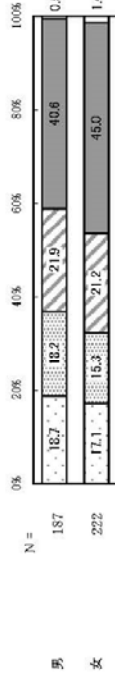
反対に「特に運動・スポーツをしていない」という人の割合は43.3%と、前回調査の46.0%よりも若干減っています。

- ☐ 運動・スポーツをしていて満足している
- ☐ 運動・スポーツをしたいと思っているが、もっと行いたい
- ☐ 運動・スポーツをしていないが、もっと行いたい
- ☐ 特に運動・スポーツをしていない
- ☐ 無回答



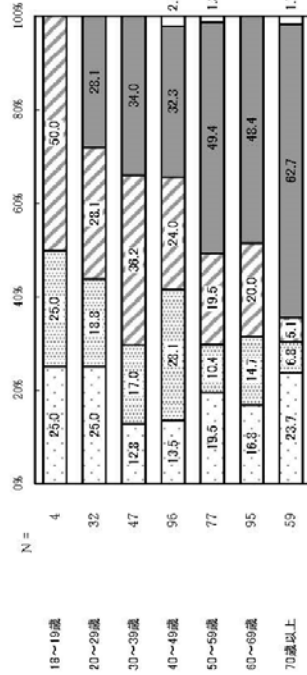
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【年齢別】

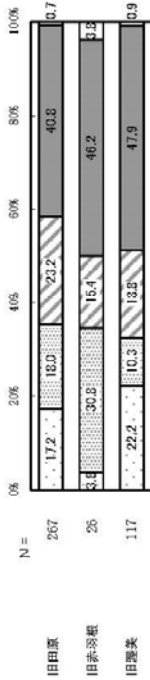
年齢別で見ると、40～49歳で「運動・スポーツをしているが、もっと行いたい」の割合が高く、約3割となっています。



【地域別】

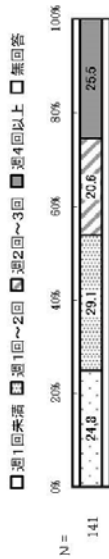
地域別で見ると、旧赤羽根で「運動・スポーツをしているが、もっと行いたい」の割合が高く、約3割となっています。

- ☐ 運動・スポーツをしていて満足している
- ☐ 運動・スポーツをしているが、もっと行いたい
- ☐ 運動・スポーツをしたいと思っているができない
- ☐ 特に運動・スポーツをしていない
- ☐ 無回答



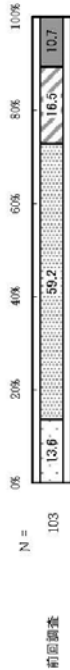
問6ー1 問6で「1、2」を選んだ方にお伺いします。この1年間で、運動・スポーツを平均してどれくらいの頻度で実施をしていますか。（○はひとつ）

「週1回～2回」の割合が29.1%と最も高く、次いで「週4回以上」の割合が25.5%、「週1回未満」の割合が24.8%となっています。



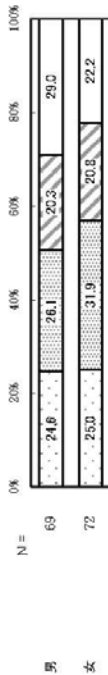
【前回調査との比較】

週1未満の人は24.8%で、前回調査の13.6%よりも増加しています。
 週2～3回の人は、20.6%で、前回調査の16.5%よりも増加しています。
 週4回以上の人は、25.5%で、前回調査の10.7%よりも、かなり増加しています。
 全体的に見て、スポーツに取り組む人と取り組まない人の二極化が進んでいる傾向がみられます。



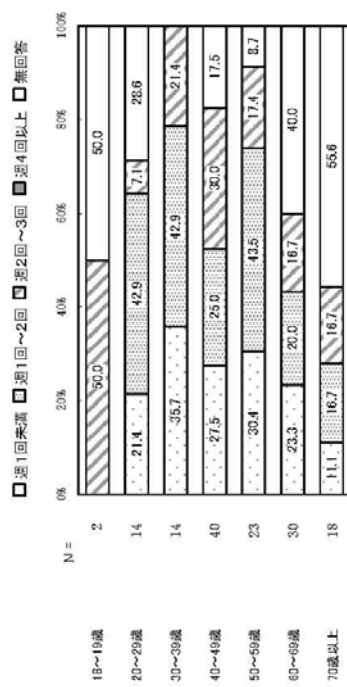
【性別】

性別で見ると、女で「週1回～2回」の割合が高く、3割を超えています。



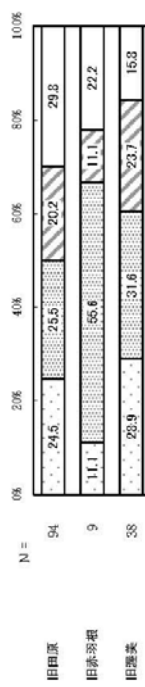
【年齢別】

年齢別で見ると、40～49歳で「週2回～3回」の割合が高く、3割となっています。



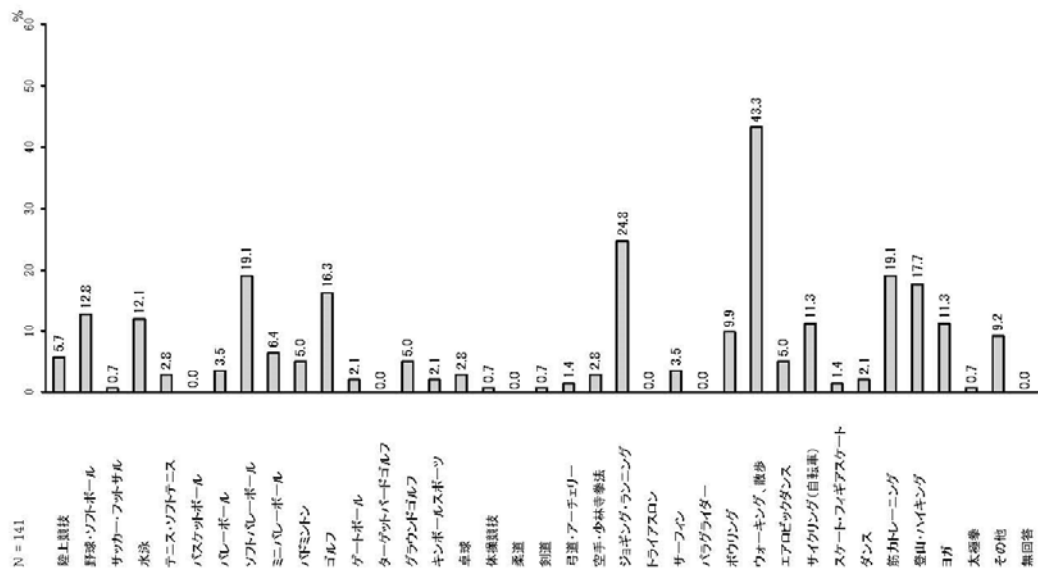
【地域別】

地域別で見ると、大きな差異はみられません。



問6-2 問6で「1、2」を選んだ方にお伺いします。あなたがこの1年間に行ったスポーツは何ですか。(〇はいくつでも)

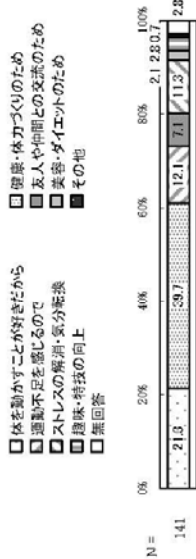
「ウォーキング、散歩」の割合が43.3%と最も高く、次いで「ジョギング・ランニング」の割合が24.8%、「ソフトバレーボール」、「筋力トレーニング」の割合が19.1%となっています。



- ・現在取り組んでいるスポーツは、ジョギングやウォーキング、筋力トレーニング、登山等、場所をあまり選ばず、道具も使わずにできるスポーツが人気である。
- ・その他の人気があるものとして、野球、ソフトバレー、水球、ゴルフ、ボウリング、サイクリング、ヨガ等がある。

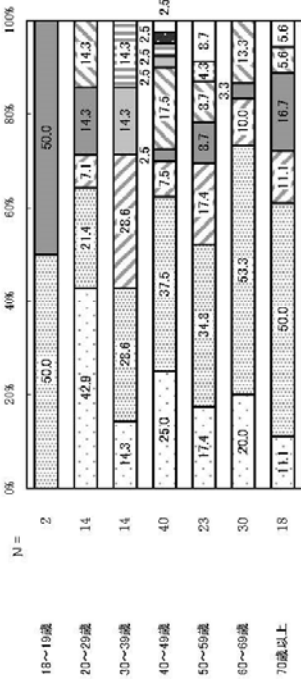
問6-3 問6で「1、2」を選んだ方にお伺いします。あなたがスポーツを行う理由は何ですか。(〇はひとつ)

「健康・体力づくりのため」の割合が39.7%と最も高く、次いで「体を動かすことが好きだから」の割合が21.3%、「運動不足を感じるので」の割合が12.1%となっています。



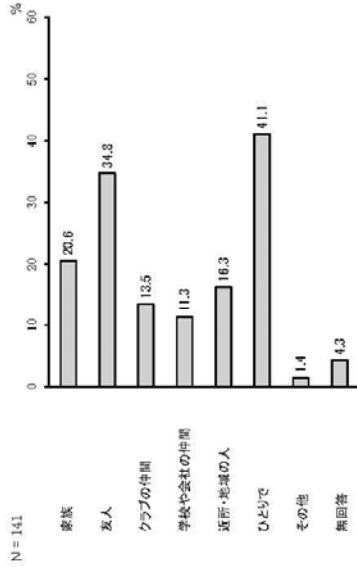
【年齢別】

年齢別で見ると、20~29歳で「体を動かすことが好きだから」の割合が高く、4割を超えています。



問6-4 問6で「1、2」を選んだ方にお伺いします。あなたは主に誰とスポーツを行いますか。(〇は2つ)

「ひとりで」の割合が41.1%と最も高く、次いで「友人」の割合が34.3%、「家族」の割合が20.6%となっています。



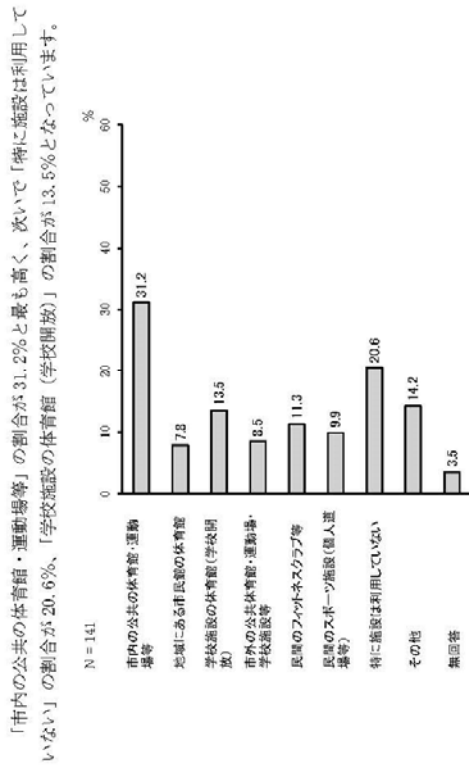
【年齢別】

年齢別で見ると、20~29歳で「学校や会社の仲間」の割合が高く、3割半ばとなっています。一方、60~69歳、70歳以上で「友人」の割合が低く、2割未満となっています。

区分	有効回答数(件)	家族	友人	クラブの仲間	学校や会社の仲間	近所・地域の人	ひとりで	その他	無回答
18~19歳	2	—	—	50.0	50.0	—	—	—	—
20~29歳	14	—	64.3	7.1	35.7	7.1	21.4	—	7.1
30~39歳	14	28.6	57.1	7.1	—	14.3	28.6	—	—
40~49歳	40	27.5	32.5	7.5	17.5	12.5	50.0	—	2.5
50~59歳	23	30.4	47.8	13.0	13.0	—	30.4	4.3	4.3
60~69歳	30	23.3	16.7	20.0	—	30.0	53.3	3.3	—
70歳以上	18	—	16.7	22.2	—	33.3	44.4	—	16.7

単位：%

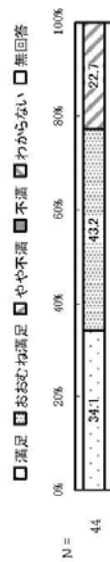
問6-5 問6で「1、2」を選んだ方にお伺いします。あなたは主にどこでスポーツを行いますか。(〇は2つまで)



- ・行っているスポーツは、問6-2にある通り、ウォーキングやジョギング等「施設を利用しない」スポーツが多かったため、特に施設を利用しないと答えている人が多いようである。
- ・その他施設を利用する場合は、「市内の公共の体育館や運動場」を利用する人が多いようである。

問6-6 問6-5で「1」を選んだ人にお伺いします。あなたは市内の公共体育館や運動場等を使用する際の使い勝手についてどのようにお考えですか。(〇はひとつ)

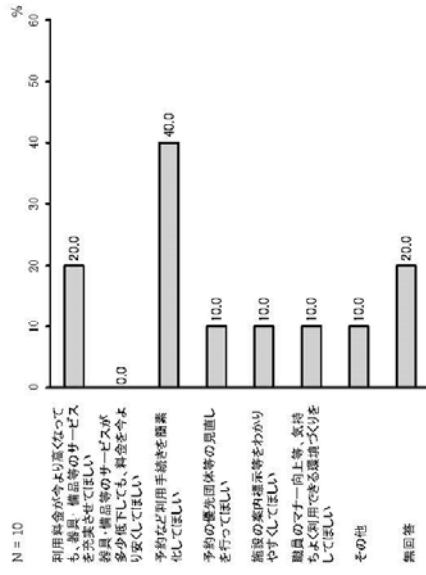
「満足」と「おおむね満足」をあわせた「満足」の割合が77.3%、「やや不満」の割合が22.7%となっています。



- ・市内の公共体育館や運動場を使っている人は、概ねその使い勝手について満足しているようである。

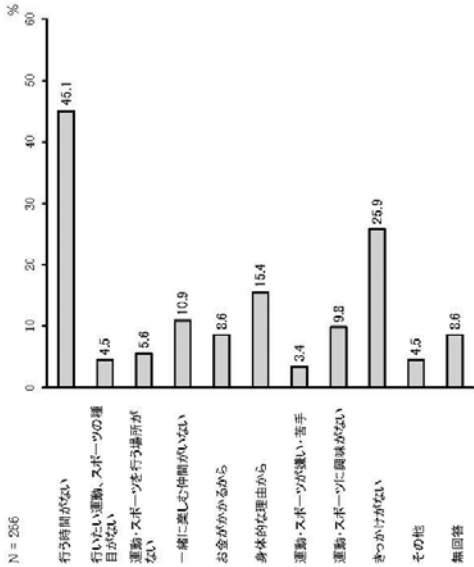
問6-7 問6-6で「3～5」を選んだ方にお伺いします。市内の公共のスポーツ施設に求める事はなんですか。(〇は2つまで)

「予約など利用手続きを簡素化してほしい」の割合が40.0%と最も高く、次いで「利用料金が今より高くなって、器具・備品等のサービスを充実させてほしい」の割合が20.0%、「予約の優先団体等の見直しを行ってほしい」、「施設の案内表示等をわかりやすくしてほしい」、「職員のマナー向上等、気持ちよく利用できる環境づくりをしてほしい」の割合が10.0%となっています。



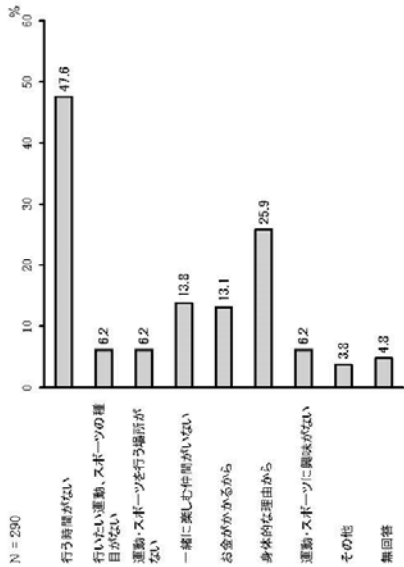
問6-8 問6で「3、4」を選んだ方にお伺いします。現在、運動・スポーツをしていない理由は何か。(〇は2つまで)

「行う時間がない」の割合が45.1%と最も高く、次いで「きつかけがない」の割合が25.9%、「身体的な理由から」の割合が15.4%となっています。



【前回調査との比較】

前回のアンケートと同様に、「時間がない」ことを理由にあげる人が一番多くなっています。新たな選択肢として追加した「きつかけがない」が2番目に多く、前回2番目に多かった「身体的な理由から」という意見が3番目に多くなっています。



【年齢別】

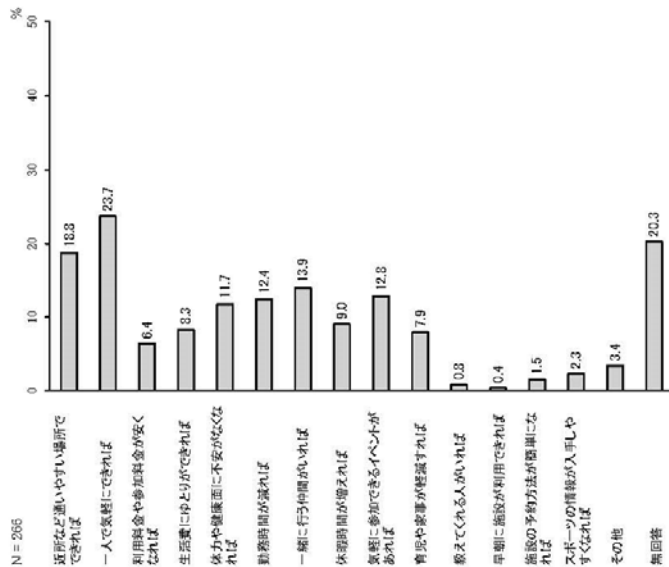
年齢別で見ると、30～39歳で「行う時間がない」の割合が高く、7割を超えています。また、70歳以上で「身体的な理由から」の割合が高く、3割となっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	行う時間がない	行いたい運動・スポーツの種類がない	運動・スポーツを行う場所がない	一緒に楽しむ仲間がない	お金がかかるから	身体的な理由から	運動・スポーツが嫌い、苦手	運動・スポーツに興味がない	きつかけがない	その他	無回答
18～19歳	2	50.0	—	—	50.0	—	50.0	—	—	50.0	—	—
20～29歳	18	61.1	—	11.1	—	5.6	—	—	16.7	33.3	—	5.6
30～39歳	33	75.8	3.0	6.1	18.2	15.2	—	—	9.1	12.1	12.1	3.0
40～49歳	54	55.6	7.4	1.9	5.6	11.1	14.8	5.6	5.6	31.5	—	7.4
50～59歳	53	32.1	9.4	7.5	15.1	7.5	11.3	3.8	11.3	32.1	5.7	7.5
60～69歳	65	41.5	—	6.2	10.8	9.2	21.5	6.2	10.8	30.8	3.1	7.7
70歳以上	40	20.0	5.0	2.5	12.5	2.5	30.0	—	10.0	10.0	7.5	20.0

問6-9 問6で「3、4」を選んだ方にお伺いします。どのような点が変われば、現よりもスポーツに取り組むようになりますか。(〇は2つまで)

「一人で気軽に行ければ」の割合が23.7%と最も高く、次いで「近所など通いやすい場所であれば」の割合が18.8%、「一緒にやる仲間がいれば」の割合が13.9%となっています。



- ・「一人で気軽に行ければ」や「気軽に参加できるイベントがあれば」というように、「気軽なスポーツ参加の機会が欲しい」という傾向が見られる。
- ・「一人で～」という意見がある一方で、「一緒にやる仲間がいれば」という「交遊をしながらスポーツを楽しみたい」という意向も窺える。

【年齢別】

年齢別で見ると、30～39歳で「利用料金や参加料金が安くなれば」の割合が高く、2割を超えています。また、70歳以上で「体力や健康面に不安がなくなれば」の割合が高く、2割を超えています。

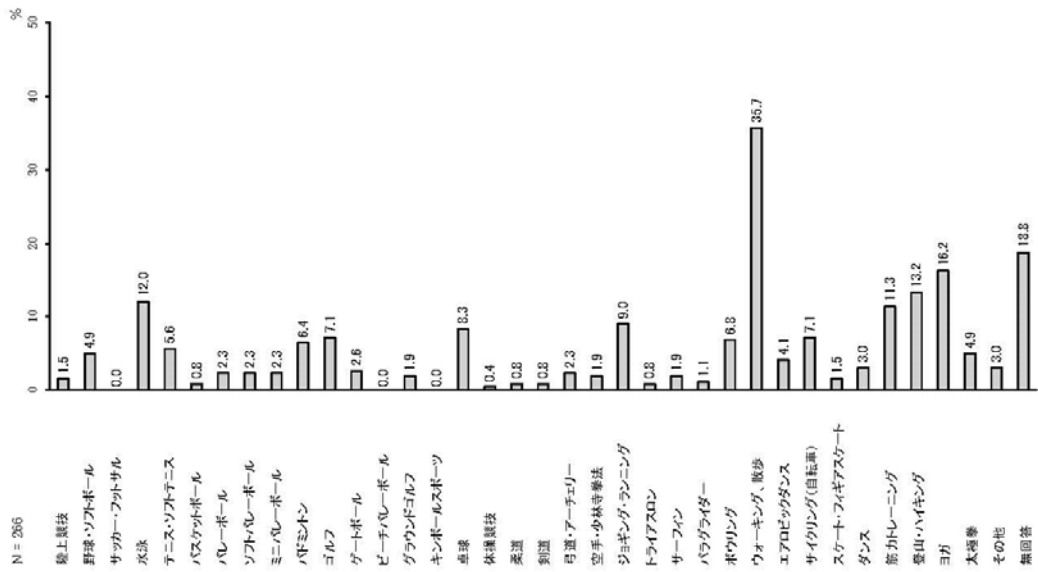
単位：％

区分	有効回答数(件)	近所など通いやすい場所であれば	一人で気軽に行ければ	利用料金や参加料金が安くなれば	生活費にゆとりができれば	体力や健康面に不安がなくなれば	運動時間が減れば	一緒にやる仲間がいれば	休演時間が増えれば	気軽に参加できるイベントがあれば	有休や家事が軽減すれば	暇までくれる人がいれば	早期に施設が利用できれば	施設の予約方法が簡単にすれば	スポーツの情報が入手しやすければ	その他	無回答
18～19歳	2	—	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	18	33.3	16.7	5.6	5.6	5.6	22.2	11.1	16.7	—	—	—	—	—	—	—	—
30～39歳	33	15.2	27.3	21.2	6.1	—	15.2	15.2	12.1	—	—	—	—	—	—	—	—
40～49歳	54	20.4	20.4	7.4	11.1	9.3	18.5	13.0	16.7	—	—	—	—	—	—	—	—
50～59歳	53	18.9	32.1	3.8	7.5	9.4	15.1	15.1	9.4	—	—	—	—	—	—	—	—
60～69歳	65	18.5	24.6	4.6	9.2	15.4	7.7	12.3	3.1	—	—	—	—	—	—	—	—
70歳以上	40	12.5	17.5	—	7.5	22.5	2.5	17.5	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—

区分	有効回答数(件)	近所など通いやすい場所であれば	一人で気軽に行ければ	利用料金や参加料金が安くなれば	生活費にゆとりができれば	体力や健康面に不安がなくなれば	運動時間が減れば	一緒にやる仲間がいれば	休演時間が増えれば	気軽に参加できるイベントがあれば	有休や家事が軽減すれば	暇までくれる人がいれば	早期に施設が利用できれば	施設の予約方法が簡単にすれば	スポーツの情報が入手しやすければ	その他	無回答
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	5.6	11.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16.7
30～39歳	—	42.4	—	3.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12.1
40～49歳	13.0	3.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16.7
50～59歳	20.8	3.8	1.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.4
60～69歳	20.0	—	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	26.2
70歳以上	5.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40.0

問6-10 問6で「3、4」を選んだ方にお伺いします。今後、運動・スポーツを始めるとしたら主にどのようなものを行いたいですか。(〇は3つまで)

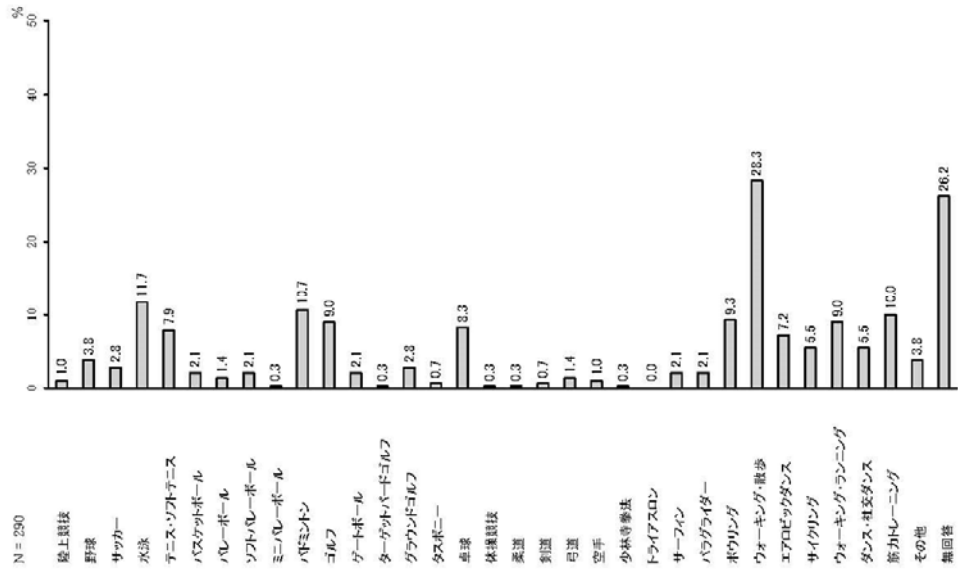
「ウォーキング、散歩」の割合が35.7%と最も高く、次いで「ヨガ」の割合が16.2%、「登山・ハイキング」の割合が13.2%となっています。



・気軽に道具を使わずにできる、ウォーキングをあげる人が多い。
・ウォーキングに次いで、筋力トレーニング、登山、ヨガ、ジョギング、卓球を上げる人が多い。
・ウォーキングをあげる人が多いのは、前回のアンケートと同様の傾向である。

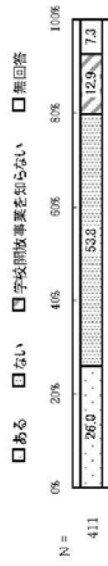
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、ウォーキング、散歩に取り組みたいという意見が増加しています。



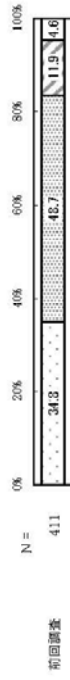
問7 田原市では、スポーツを行う一般の方に対して、小中学校の体育館やグラウンドを
利用していただける「学校施設開放」のサービスを行っています。あなたはこのサー
ビスを活用したことがありますか。(○はひとつ)

「ない」の割合が53.8%と最も高く、次いで「ある」の割合が26.0%、「学校開放事業を知ら
ない」の割合が12.9%となっています。



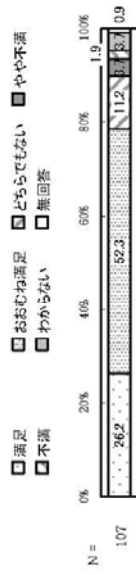
【前回調査との比較】

前回アンケートとはほぼ同様の内容となっていますが、「ある」が26.0%と、前回の34.8%から
減っており、「事業を知っているが利用していない人」の割合が増えていると言えます。



問7-1 問7で「1」を選んだ人にお伺いします。あなたは「学校施設開放」のサービ
スについて、どのようにお考えですか。(○はひとつ)

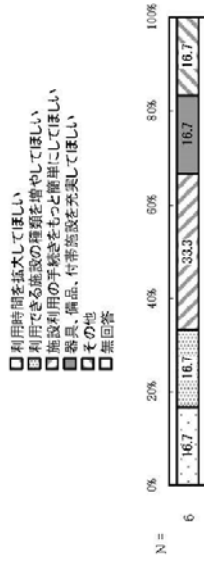
「満足」と「おおむね満足」をあわせた「満足」の割合が78.5%、「やや不満」と「不満」を
あわせた「不満」の割合が5.6%となっています。



・利用者は、おおむね学校施設開放事業について、概ね満足しているようである。

問7-2 問7-1で「4、5」を選んだ人にお伺いします。あなたは今後「学校施設開
放」のサービスに対して何を望みますか。(○はひとつ)

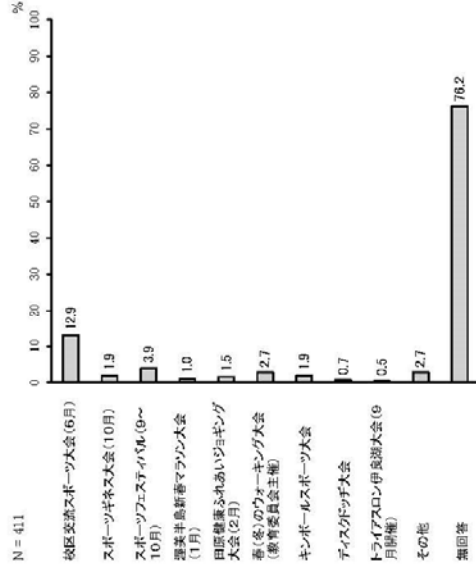
「施設利用の手続きをもっと簡単にしてほしい」が2件、「利用時間を拡大してほしい」、「利
用できる施設の種類の増やしてほしい」、「施設利用の手続きをもっと簡単にしてほしい」、「利
用できる施設の種類の増やしてほしい」、「器具、備品、付帯施設を充実してほしい」が1件とな
っています。



・利用者の中では、「器具・付帯施設を充実してほしい」、「手続きを簡単にしてほしい」、という意見が
ある。

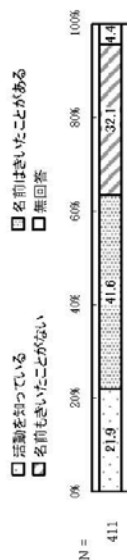
問8 田原市では、年間を通じて様々なスポーツ事業を行っています。市教育委員会が主
催している主なスポーツイベントの中で、過去5年間にあなたが参加したことのある
イベントを教えてください。(○はいくつでも)

「校区分交流スポーツ大会(6月)」の割合が12.9%と最も高くなっています。



問9 田原市では、スポーツ技術の向上とレクリエーション競技の普及に努めることを目的とする「田原市体育協会」が様々なスポーツ活動を行っています。あなたはこの団体を知っていますか。(○はひとつ)

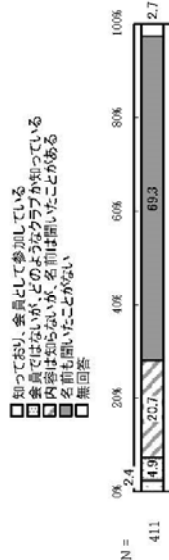
「名前を知っている」の割合が41.6%と最も高く、次いで「名前も聞いたことがある」の割合が32.1%、「活動を知っている」の割合が21.9%となっています。



- ・活動内容を知っている人が2割と、その活動内容があまり知られていないことがわかる。
- ・名前の認知度は6割程度で、4割の人は名前も聞いたことがないと回答している。

問10 田原市には、文部科学省が推奨している総合型地域スポーツクラブ「なのはなスポーツクラブ」があります。このスポーツクラブをあなたは知っていますか。(○はひとつ)

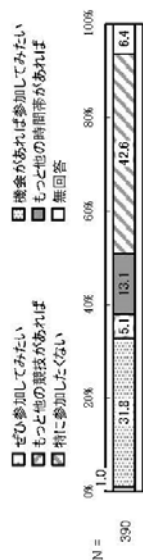
「名前も聞いたことがない」の割合が69.3%と最も高く、次いで「内容は知らないが、名前は聞いたことがある」の割合が20.7%となっています。



- ・なのはなスポーツクラブは、樟樹路を年2回全戸配布しているが、認知度はまだ低いようである。(平成24年度末の設立で、現在2年目)

問10-1 問10で「2～4」を選んだ方にお伺いします。「なのはなスポーツクラブ」が行っている教室は、下記のとおりです。あなたは、このクラブに参加してみたいと思いますか？(○はひとつ)

「特に参加したくない」の割合が42.6%と最も高く、次いで「機会があれば参加してみたい」の割合が31.8%、「もっと他の時間帯があれば」の割合が13.1%となっています。



- ぜひ参加してみたい
- もっと他の教室があれば
- 特に参加したくない
- 機会があれば参加してみたい
- もっと他の時間帯があれば
- 無回答

問11 田原市では、誰でも気軽に楽しめる「ニュースポーツ」の推進を行っています。あなたは以下のニュースポーツについて知っていますか。また行ったことがありますか。各スポーツごとにあてはまる所にひとつ○をつけてください。

キンボールスポーツでは、「どのようなスポーツが知らなかった」の割合が44.0%と最も高く、次いで「あまり興味がでない」の割合が27.3%となっています。

ディスクドッジでは、「どのようなスポーツが知らなかった」の割合が35.3%と最も高く、次いで「あまり興味がでない」の割合が29.9%、「知っておりやっていたことがある」の割合が10.9%となっています。

フライングディスクゴルフでは、「どのようなスポーツが知らなかった」の割合が38.4%と最も高く、次いで「あまり興味がでない」の割合が29.0%となっています。

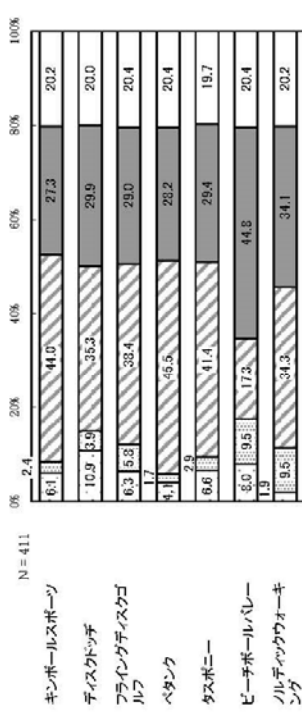
ベタンクでは、「どのようなスポーツが知らなかった」の割合が45.5%と最も高く、次いで「あまり興味がでない」の割合が28.2%となっています。

タスポニーでは、「どのようなスポーツが知らなかった」の割合が41.4%と最も高く、次いで「あまり興味がでない」の割合が29.4%となっています。

ビーチボールバレーでは、「あまり興味がでない」の割合が44.8%と最も高く、次いで「どのようなスポーツが知らなかった」の割合が17.3%となっています。

ノルディックウォーキングでは、「どのようなスポーツが知らなかった」の割合が34.3%と最も高く、次いで「あまり興味がでない」の割合が34.1%となっています。

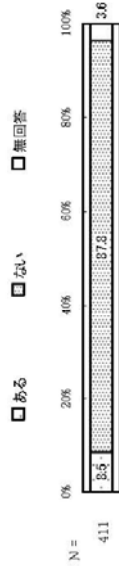
- 知っておりやっていたことがある
- やってみたいが、方法がわからない
- どのようなスポーツが知らなかった
- あまり興味がでない
- 無回答



- ・やったことがある人が多い競技は「ディスクドッジ」、「ビーチバレー」で、「やってみたいが方法がわからない」という意見が多い競技は、「ビーチバレー」と「ノルディックウォーキング」である。
- ・全体的に、ニュースポーツについては1割程度の人しか内容が知られておらず、認知度が低いことがわかる。

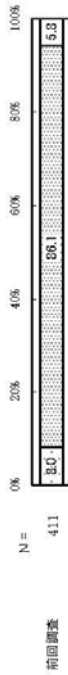
問 12 あなたは、この一年間に何らかのスポーツに関わるボランティア活動を行ったことがありますか。(○はひとつ)

「ある」の割合が8.5%、「ない」の割合が87.5%となっています。



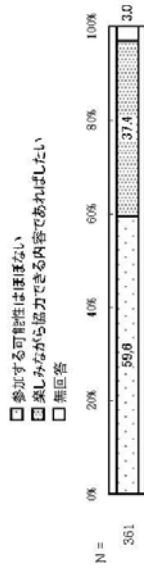
【前回調査との比較】

何らかのスポーツに関わるボランティア活動の経験がある人の割合は、前回調査と比較すると大きな変化はみられません。



問12-2 問12で「2」を選んだ方にお伺いします。今後、活動に参加する可能性はありますか。

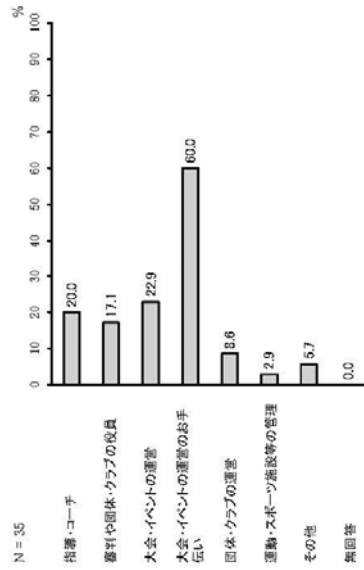
「参加する可能性はほぼない」の割合が59.6%、「楽しみながら協力できる内容であればいい」の割合が37.4%となっています。



・約半数の人が、「可能性はほぼない」としているが、37%の人が「楽しみながらできる内容であれば協力したい」と答えている。

問 12-1 問12で「1」を選んだ方にお伺いします。それは主にどのようなボランティア活動ですか。(○はいくつでも)

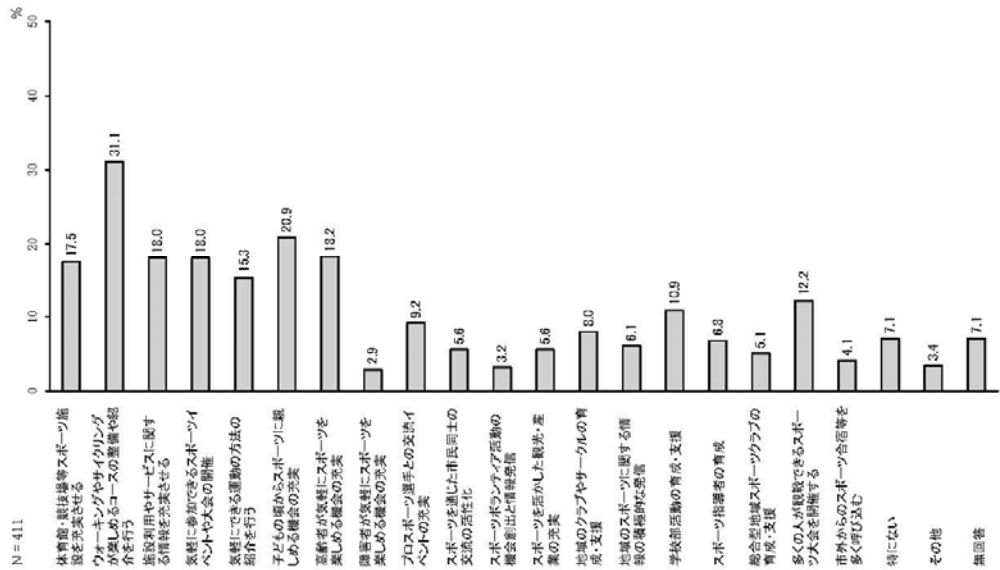
「大会・イベントの運営のお手伝い」の割合が90.0%と最も高く、次いで「大会・イベントの運営」の割合が22.9%、「指導・コーチ」の割合が20.0%となっています。



・大会・イベントの運営サポートに関わった経験を持つ人が一番多い。

問 13 田原市を今よりもっとスポーツが盛んな街にするためには、どのようなことが必要だと思われますか。特に必要と感じることにについて、3つまで○をつけてください。

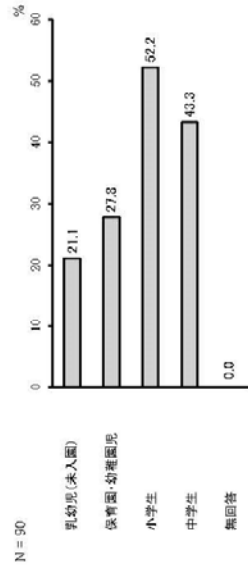
「ウォーキングやサイクリングが楽しめるコースの整備や紹介を行う」の割合が31.1%と最も高く、次いで「子どもの頃からスポーツに親しめる機会の充実」の割合が20.9%、「高齢者が気軽にスポーツを楽しめる機会の充実」の割合が18.2%となっています。



【問 14～16 は、3～15才までのお子さんがいる方にお伺いします。】

問 14 あなたのお子さんは次のどれに該当しますか。(複数回答可)

「小学生」の割合が52.2%と最も高く、次いで「中学生」の割合が43.3%、「保育園・幼稚園」の割合が27.8%となっています。



問 15 園児、小中学生のお子さんがある方へお伺いします。あなたのお子さんの現在の運動・スポーツの取り組み方についてお聞かせください。(○はひとつ)

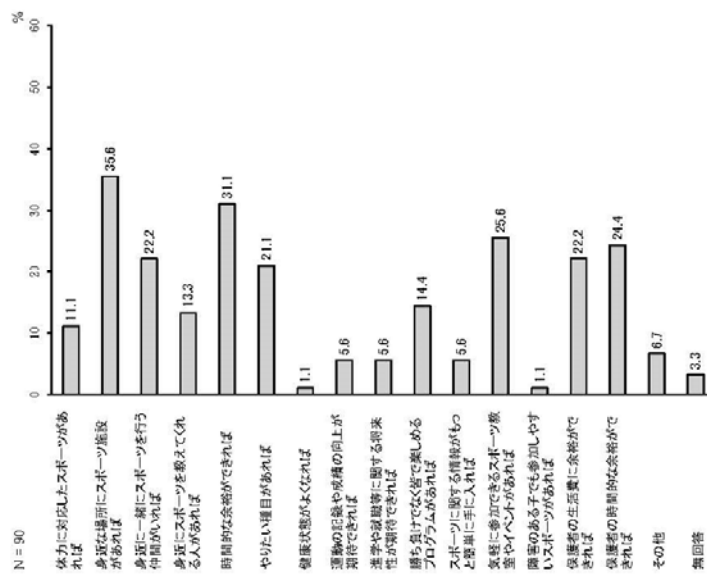
「運動・スポーツをさせたいと思うが、できていない」の割合が32.5%と最も高く、次いで「運動・スポーツを行っているが、もっと行わせたいと思っている」の割合が28.9%、「運動・スポーツを行っている、その実施状況に満足している」の割合が26.5%となっています。



・8割を超える保護者が、子どもにスポーツをさせたいと感じていることがわかるが、その約8割が現状に満足しておらず、「もっと行わせたい」、「行わせたいのにできていない」と感じることがわかる。

問 16 あなたのお子さんはどのような条件が整えば、今以上にもっとスポーツを行う、もしくはスポーツを始められると思いますか。(〇は3つまで)

「身近な場所にスポーツ施設があれば」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「時間的な余裕ができれば」の割合が 31.1%、「気軽に参加できるスポーツ教室やイベントがあれば」の割合が 25.6%となっています。

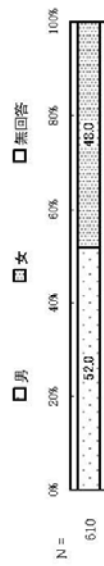


Ⅱ 調査結果（小・中学生対象）

1 小学5年生調査

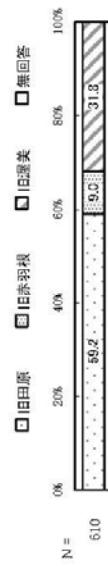
問1 あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

「男」の割合が52.0%、「女」の割合が48.0%となっています。



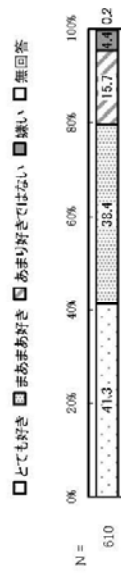
問1-1 お住まいの地域を教えてください。

「旧田原」の割合が59.2%と最も高く、次いで「旧徳美」の割合が31.8%となっています。



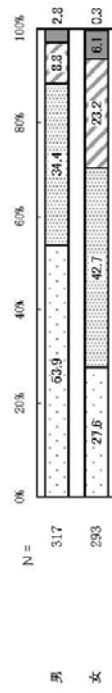
問2 あなたはスポーツ・運動を見たり、行ったりすることが好きですか。(○はひとつ)

「とても好き」の割合が41.3%と最も高く、次いで「まあまあ好き」の割合が38.4%、「あまり好きではない」の割合が15.7%となっています。



【性別】

性別で見ると、女より男で「とても好き」の割合が高くなっています。一方、女で「あまり好きではない」の割合が高くなっています。これは全国調査と同様の傾向となっています。



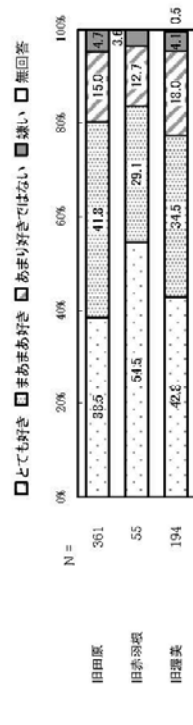
【全国調査との比較】

全国平均と比較すると、男女ともに、全国平均よりもスポーツについて「好き」「まあまあ好き」と答える割合が低くなっています。



【地域別】

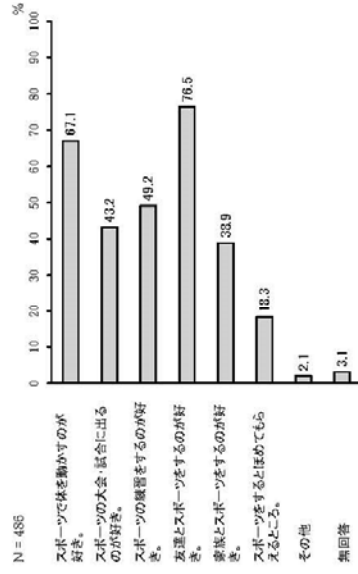
地域別で見ると、旧赤羽根で「とても好き」の割合が高く、5割半ばとなっています。



問3 問2で「1、2」を選んだ方にお伺いします。スポーツのどんなところが好きですか。(○はいくつでも)

【行う（やる）スポーツ】

「友達とスポーツをするのが好き。」の割合が76.5%と最も高く、次いで「スポーツで体を動かすのが好き。」の割合が67.1%、「スポーツの大会・試合に出るのが好き。」の割合が43.2%、「スポーツの練習をするのが好き。」の割合が49.2%、「友達とスポーツをするのが好き。」の割合が33.9%、「友達とスポーツをするのが好き。」の割合が18.3%、「スポーツをするとはかてもらえぬところ。」の割合が2.1%、「その他」の割合が3.1%となっています。



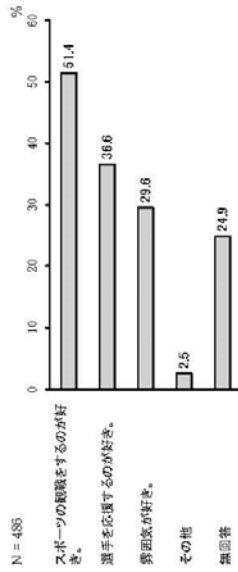
【性別】

性別で見ると、女より男で「スポーツで体を動かすのが好き。」「スポーツの大会・試合に出るのが好き。」「スポーツの練習をするのが好き。」の割合が高くなっています。

区分	有効回答数(件)	スポーツで体が動かしやすいのが好き。	スポーツの大会・試合に出るのが好き。	スポーツの練習をするのが好き。	スポーツで体を動かすのが好き。	スポーツの大会・試合に出るのが好き。	スポーツの練習をするのが好き。	スポーツで体を動かすのが好き。	その他	無回答
男	280	71.4	52.9	53.6	76.4	35.7	18.9	2.5	1.4	
女	206	61.2	30.1	43.2	76.7	43.2	17.5	1.5	5.3	

【見る(観戦する)スポーツ】

「スポーツの観戦をするのが好き。」の割合が51.4%と最も高く、次いで「選手を応援するのが好き。」の割合が36.6%、「雰囲気が好き。」の割合が29.6%となっています。



【性別】

性別で見ると、女より男で「スポーツの観戦をするのが好き。」の割合が高くなっています。

区分	有効回答数(件)	スポーツの観戦をするのが好き。	選手を応援するのが好き。	雰囲気が好き。	その他	無回答
男	280	58.2	36.1	31.4	2.1	23.2
女	206	42.2	37.4	27.2	2.9	27.2

問4 あなたは、現在運動部に所属していますか。(○はひとつ)

「現在、入っている。」の割合が60.5%と最も高く、次いで「今年、入っていたことはない。」の割合が18.2%となっています。



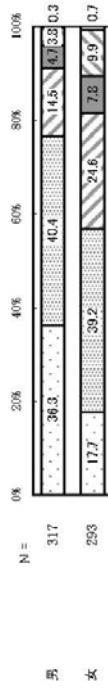
問5 あなたは、この1年間に学校の授業や部活動以外でスポーツをどれくらい行いましたか。(○はひとつ)

「週2回～3回」の割合が39.8%と最も高く、次いで「週4回以上」の割合が27.4%、「週1回程度」の割合が19.3%となっています。



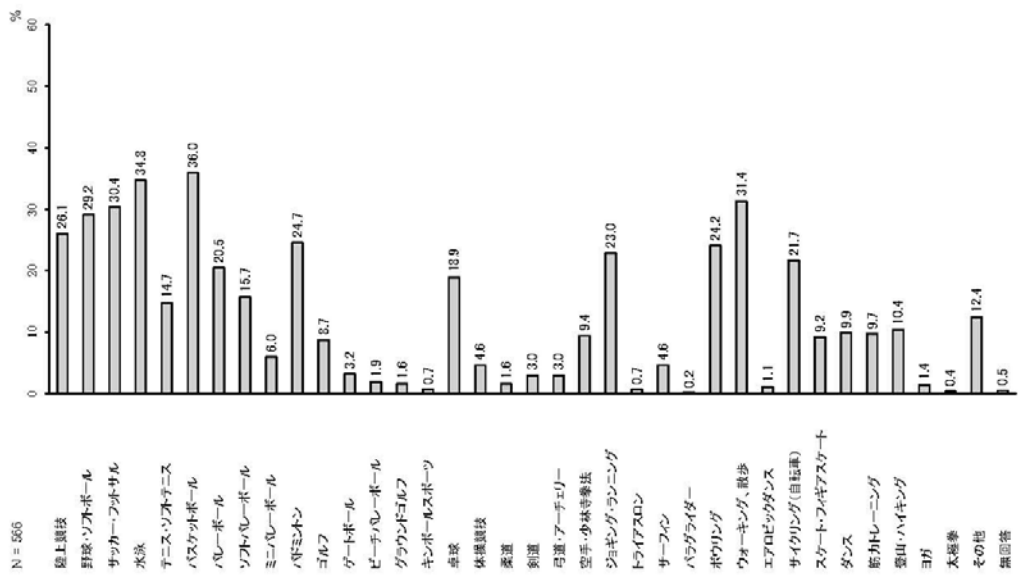
【性別】

性別で見ると、女より男で「週4回以上」の割合が高くなっています。一方、男より女で「週1回程度」の割合が高くなっています。



問5-1 問5で「1～4」をえらんだ人に聞きます。学校の授業や部活動以外で行ったスポーツはなんですか。(〇はいくつでも)

「バスケットボール」の割合が36.0%と最も高く、次いで「水泳」の割合が34.8%、「ウォーキング、散歩」の割合が31.4%となっています。



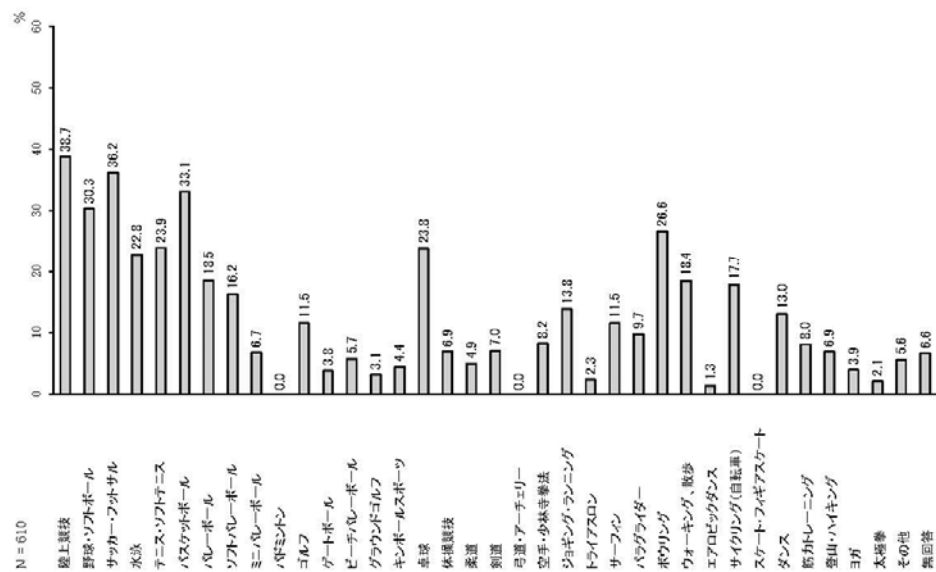
問5-2 問5で「5」をえらんだ人に聞きます。その理由はなんですか。(〇はひとつ)

「運動・スポーツが苦手だから」の割合が22.0%と最も高く、次いで「自分のやりたい種目がないから」、「習い事がいいから」の割合が17.1%となっています。



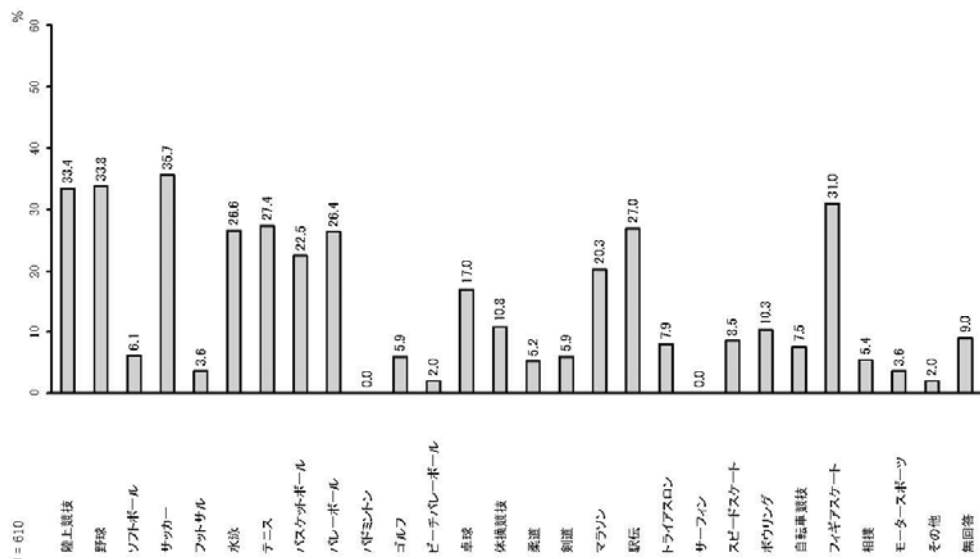
問6 今後やってみたいスポーツや、継続していきたいスポーツを教えてください。(○はいくつでも。選択しなくてもよい。)

「陸上競技」の割合が38.7%と最も高く、次いで「サッカー・フットサル」の割合が36.2%、「バスケットボール」の割合が33.1%となっています。



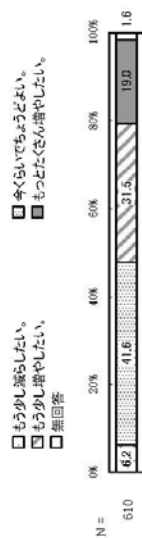
問7 あなたが、試合を実際に観戦したり、テレビで応援したいと思うスポーツを教えてください。(○はいくつでも。なければ選んでもよい。)

「サッカー」の割合が35.7%と最も高く、次いで「野球」の割合が33.8%、「陸上競技」の割合が33.4%となっています。



問 8 今後あなたは、今よりスポーツを行う時間（体育の授業と部活動以外）を増やしたいですか。減らしたいですか。（○はひとつ）

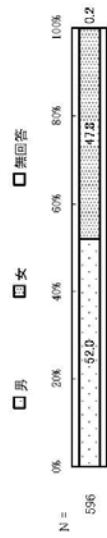
「今くらいでちょうどいい。」の割合が41.0%と最も高く、次いで「もう少し増やしたい。」の割合が31.5%、「もっとたくさん増やしたい。」の割合が19.0%となっています。



2 中学2年生調査

問 1 あなたの性別を教えてください。（○はひとつ）

「男」の割合が52.0%、「女」の割合が47.8%となっています。



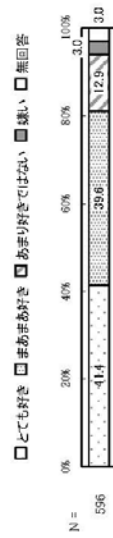
問 1-1 お住まいの地域を教えてください。

「旧田原」の割合が60.7%と最も高く、次いで「旧瀬美」の割合が31.0%となっています。



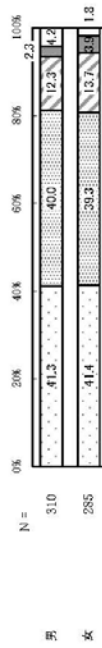
問 2 あなたはスポーツ・運動を見たり、行ったりすることが好きですか。（○はひとつ）

「とても好き」の割合が41.4%と最も高く、次いで「まあまあ好き」の割合が39.6%、「あまり好きではない」の割合が12.9%となっています。



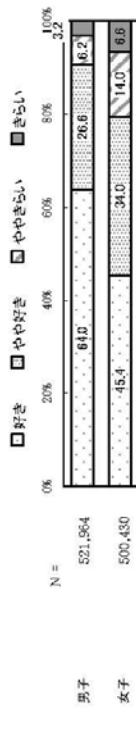
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



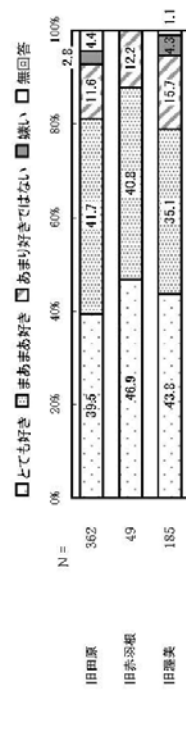
【全国調査との比較】

全国平均と比較すると、男子で、全国平均よりもスポーツについて「好き」「まあまあ好き」と答える割合が低くなっています。



【地区別】

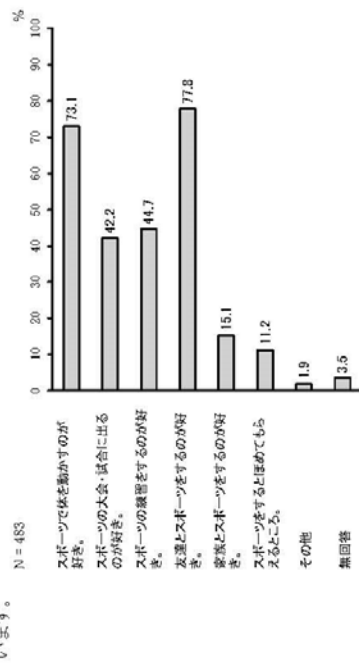
地区別で見ると、旧赤羽県で「とても好き」の割合が高く4割半ばとなっています。



問3 問2で「1、2」を選んだ方にお伺いします。スポーツのどこところが好きですか。(○はいくつでも)

【行う(やる)スポーツ】

「友達とスポーツをするのが好き。」の割合が77.8%と最も高く、次いで「スポーツで体を動かすのが好き。」の割合が73.1%、「スポーツの練習をするのが好き。」の割合が44.7%となっています。



【性別】

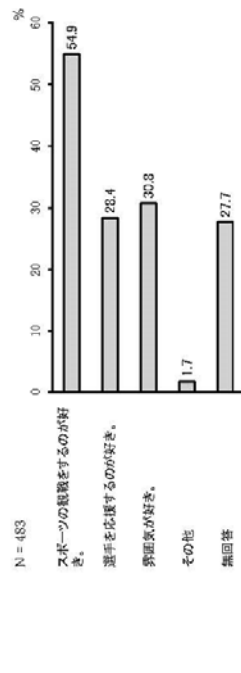
性別で見ると、女より男で「スポーツの練習をするのが好き。」「友達とスポーツをするのが好き。」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	かすみのが好きな体を動かすのが好き	合に出るのが好きな大会も試み	スポーツの練習をするのが好き	友達とスポーツをするのが好き	家族とスポーツをするのが好き	友達とスポーツをするところから始める	その他	無回答
男	252	75.0	42.9	48.0	81.3	13.9	9.9	1.6	1.6
女	230	70.9	41.3	40.9	73.9	16.5	12.6	2.2	5.7

【見る(観戦する)スポーツ】

「スポーツの観戦をするのが好き。」の割合が54.9%と最も高く、次いで「雰囲気が好き。」の割合が30.8%、「選手を応援するのが好き。」の割合が28.4%となっています。



【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。

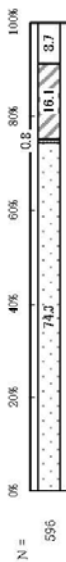
単位：%

区分	有効回答数（件）	スポーツの経験をするのが好き。	親や友達とやるのが好き。	公園や学校で遊ぶのが好き。	その他	無回答
男	252	55.0	30.2	32.1	2.0	26.6
女	230	53.9	26.5	29.6	1.3	28.7

問4 あなたは、現在運動部に所属していますか。(○はひとつ)

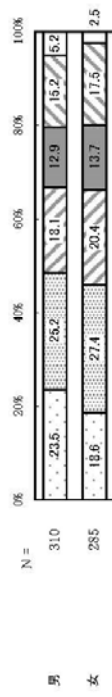
「現在、入っている。」の割合が74.3%と最も高く、次いで「今年、入っていたことはない。」の割合が16.1%となっています。

☐ 現在、入っている。
☐ 今年、入っていたことがある。(4月～12月に入っていた等)
☐ 今年、入っていたことはない。
☐ 無回答



【性別】

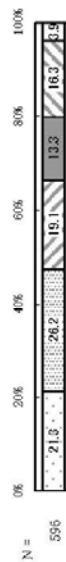
性別で見ると、大きな差異はみられません。



問5 あなたは、この1年間に学校の授業や部活動以外でスポーツをどれくらい行いましたか。(○はひとつ)

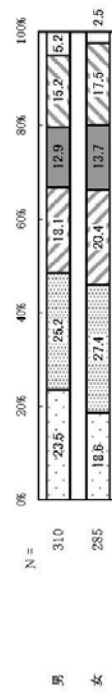
「週2回～3回」の割合が26.2%と最も高く、次いで「週4回以上」の割合が21.3%、「週1回未満」の割合が19.1%となっています。

☐ 週4回以上
☐ 週2回～3回
☐ 週1回未満
☐ まったくやっていない
☐ 無回答



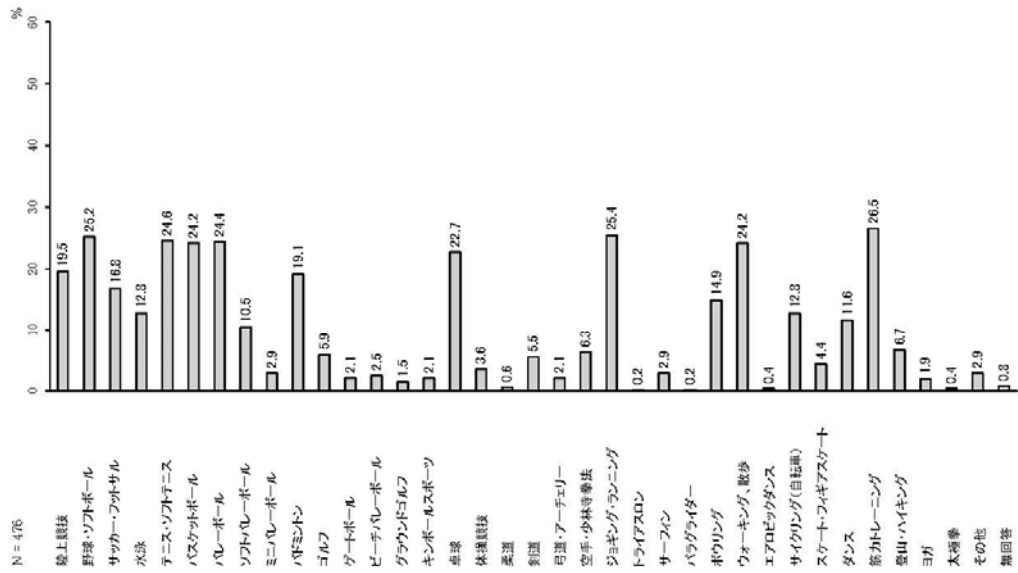
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



問5-1 問5で「1～4」をえらんだ人に聞きます。学校の授業や部活動以外で行ったスポーツはなんですか。(○はいくつでも)

「筋力トレーニング」の割合が26.5%と最も高く、次いで「ジョギング・ランニング」の割合が25.4%、「野球・ソフトボール」の割合が25.2%となっています。



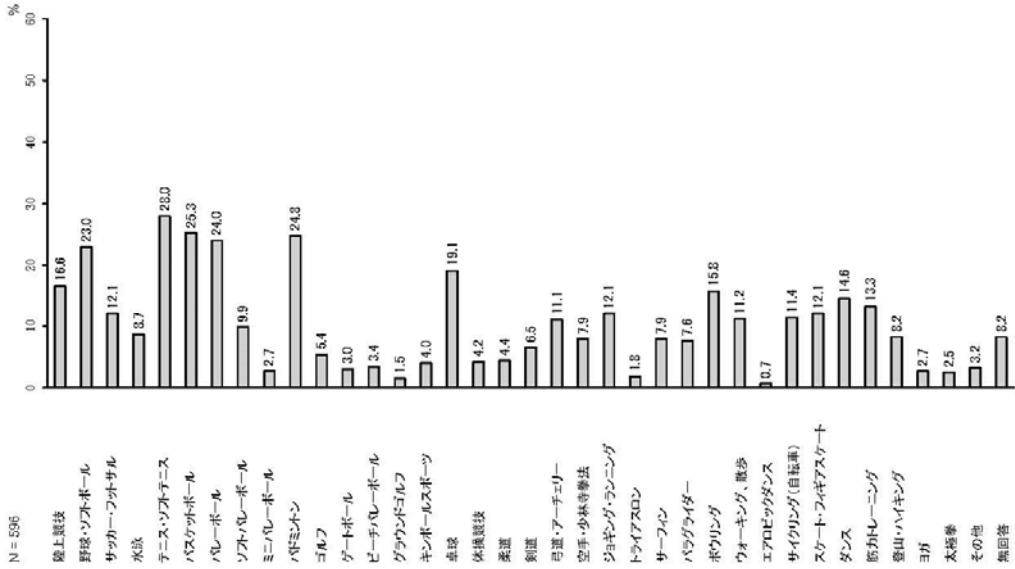
問5-2 問5で「5」をえらんだ人に聞きます。その理由はなんですか。(○はひとつ)

「運動・スポーツが嫌いだから」の割合が4.1%と最も高くなっています。



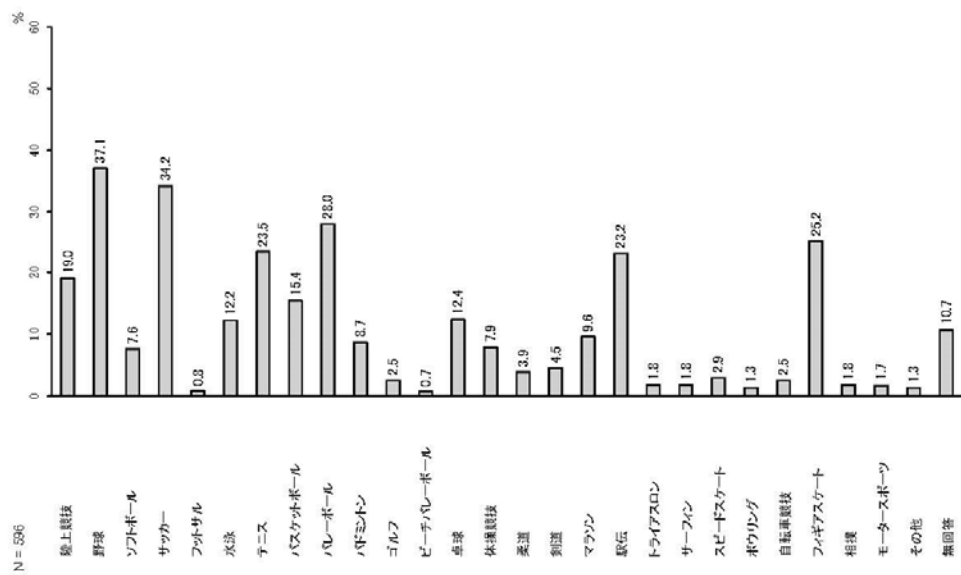
問6 今後やってみたいスポーツや、継続していききたいスポーツを教えてください。(○はいくつでも。選択しなくてもよい。)

「テニス・ソフトテニス」の割合が28.0%と最も高く、次いで「バスケットボール」の割合が25.3%、「バドミントン」の割合が24.8%となっています。



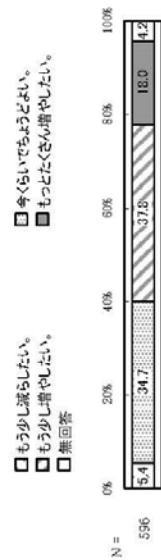
問7 あなたが、試合を実際に観戦したり、テレビで応援したいと思うスポーツを教えてください。○はいくつでも。なければ選ばなくてもよい。

「野球」の割合が37.1%と最も高く、次いで「サッカー」の割合が34.2%、「バレーボール」の割合が28.0%となっています。



問8 今後あなたは、今よりスポーツを行う時間（体育の授業と部活動以外）を増やしたいですか。減らしたいですか。（○はひとつ）

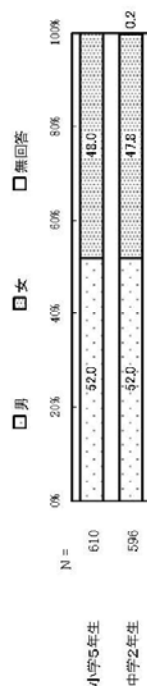
「もう少し増やしたい」の割合が37.8%と最も高く、次いで「今くらいでちょうどよい」の割合が34.7%、「もっとたくさん増やしたい」の割合が18.0%となっています。



3 小学生、中学生の比較

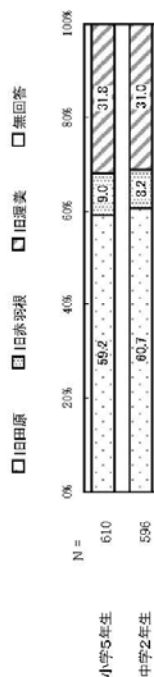
問1 あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

小学5年生、中学2年生を比較すると、大きな差異はみられません。



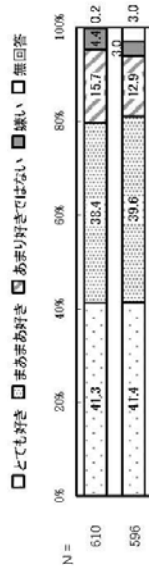
問1-1 お住まいの地域を教えてください。

小学5年生、中学2年生を比較すると、大きな差異はみられません。



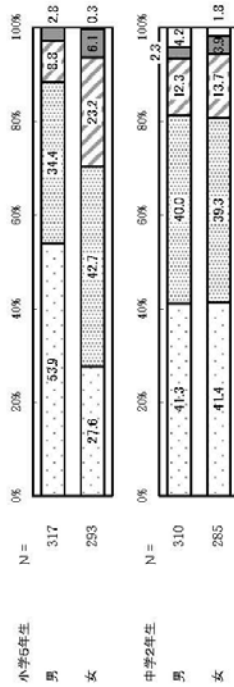
問2 あなたはスポーツ・運動を見たり、行ったりすることが好きですか。(○はひとつ)

小学5年生、中学2年生を比較すると、大きな差異はみられません。



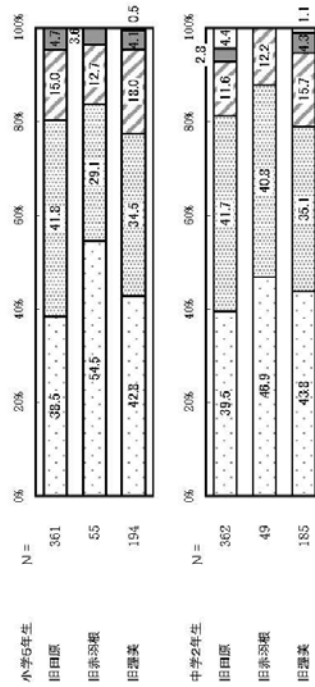
【性別】

性別で見ると、小学5年生の男で「とても好き」と「まあまあ好き」をあわせた“好き”の割合が高く、約9割となっています。



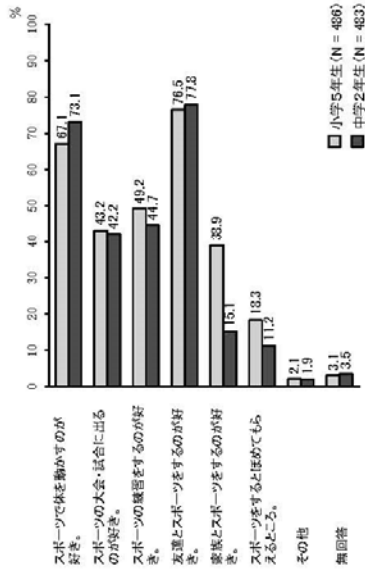
【地域別】

地区別で見ると、小学5年生、中学2年生ともに旧田原、旧赤羽根で“好き”の割合が高く、8割を超えています。



問3 【行う（やる）スポーツ】

小学5年生、中学2年生を比較すると、小学5年生で「家族とスポーツをするのが好き。」「スポーツをする」とほめてもらえるところ。」の割合が高くなっています。一方、中学2年生で「スポーツで体を動かすのが好き。」の割合が高くなっています。



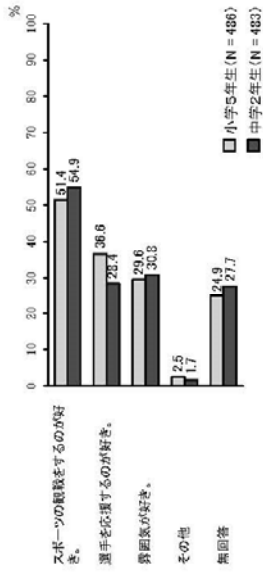
【性別】

性別で見ると、小学5年生の男で「スポーツの大会・試合に出るのが好き。」「スポーツの練習をするのが好き。」の割合が、小学5年生の女で「家族とスポーツをするのが好き。」の割合が、中学2年生の男で「友達とスポーツをするのが好き。」の割合が高くなっています。

区分	有効回答数（件）	単位：％						
		かすのが好むスポーツで体を動かす	合に出るのが好きなスポーツ	するのが好きなスポーツの練習	するのが好きなスポーツ	友達とスポーツをするのが好きなスポーツ	家族とスポーツをするのが好きなスポーツ	こぼるのスポーツをやる
小学5年生 男	280	71.4	52.9	53.6	76.4	35.7	18.9	2.5
小学5年生 女	206	61.2	30.1	42.2	76.7	43.2	17.5	1.5
中学2年生 男	252	75.0	42.9	45.0	81.3	13.9	9.9	1.6
中学2年生 女	230	70.9	41.3	40.9	73.9	16.5	12.6	2.2
無回答								5.7

問3 【見る（観戦する）スポーツ】

小学5年生、中学2年生を比較すると、小学5年生で「選手を応援するのが好き。」の割合が高くなっています。



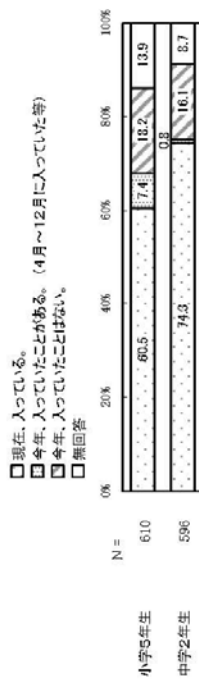
【性別】

性別で見ると、小学5年生の女で「スポーツの観戦をするのが好き。」の割合が低く、約4割となっています。

区分	有効回答数（件）	単位：％				
		スポーツの観戦をするのが好きなスポーツ	選手を応援するのが好きなスポーツ	観戦が好き	その他	無回答
小学5年生 男	280	58.2	36.1	31.4	2.1	23.2
小学5年生 女	206	42.2	37.4	27.2	2.9	27.2
中学2年生 男	252	56.0	30.2	32.1	2.0	26.6
中学2年生 女	230	53.9	25.5	29.6	1.3	28.7

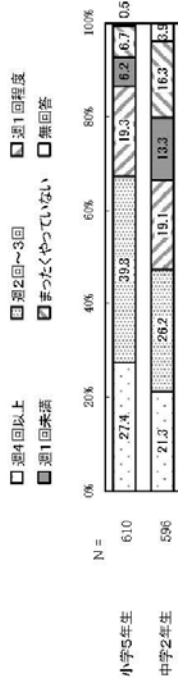
問4 あなたは、現在運動部に所属していますか。(○はひとつ)

小学5年生、中学2年生を比較すると、小学5年生で「今年、入っていたことがある。(4月～12月に入っていた等)」の割合が高くなっています。一方、中学2年生で「現在、入っている。」の割合が高くなっています。



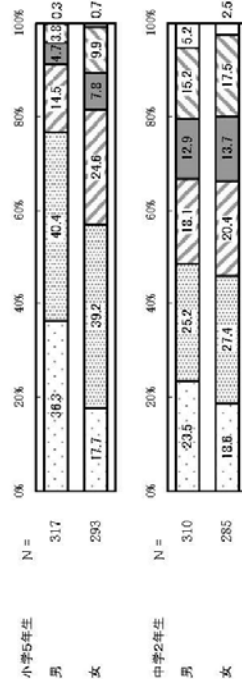
問5 あなたは、この1年間に学校の授業や部活動以外でスポーツをどれくらい行いましたか。(○はひとつ)

小学5年生、中学2年生を比較すると、小学5年生で「週4回以上」「週2回～3回」「週1回未満」の割合が高くなっています。一方、中学2年生で「週1回未満」「まったくやっていない」の割合が高くなっています。



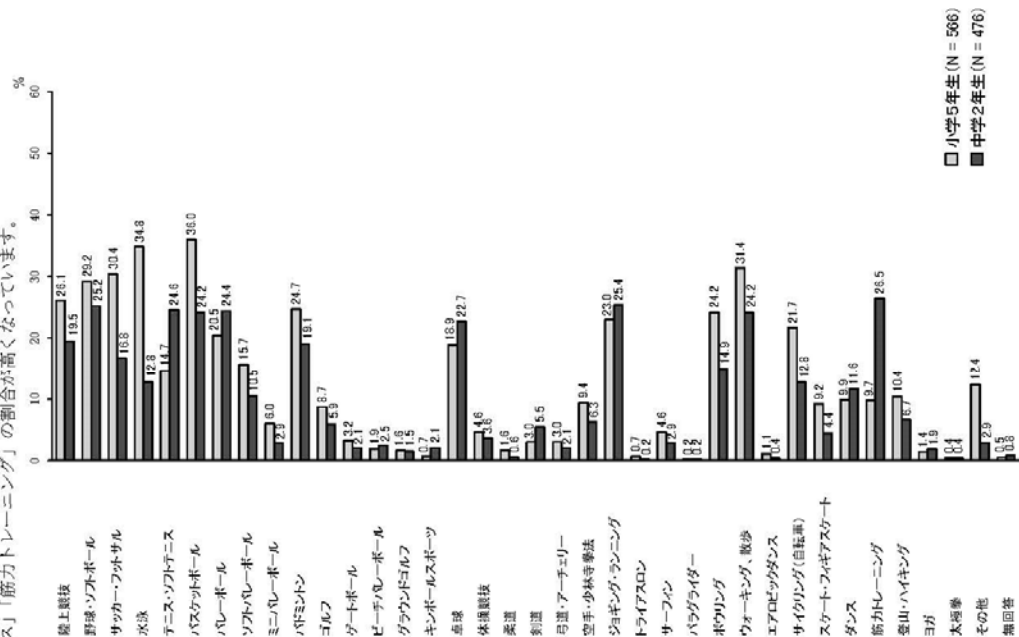
【性別】

性別で見ると、小学5年生の男、中学2年生の男で「週4回以上」の割合が高く、2割を超えています。



問5-1 問5で「1～4」をえらんだ人に聞きます。学校の授業や部活動以外で行ったスポーツはなんですか。(○はいくつでも)

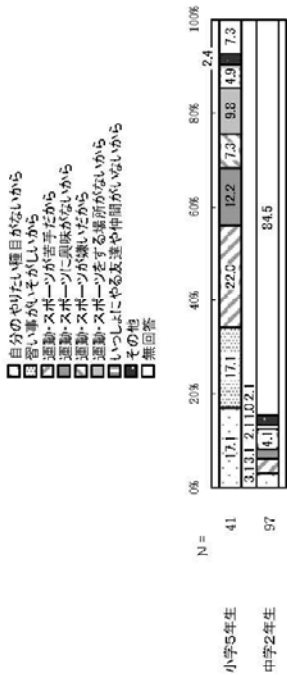
小学5年生、中学2年生を比較すると、小学5年生で「陸上競技」「サッカー・フットサル」「水泳」「バスケットボール」「ソフトボール」「バドミントン」「ボウリング」「ウォーキング、散歩」「サイクリング(自転車)」の割合が高くなっています。一方、中学2年生で「テニス・ソフトテニス」「筋力トレーニング」の割合が高くなっています。



☐ 小学5年生 (N = 566)
☐ 中学2年生 (N = 476)

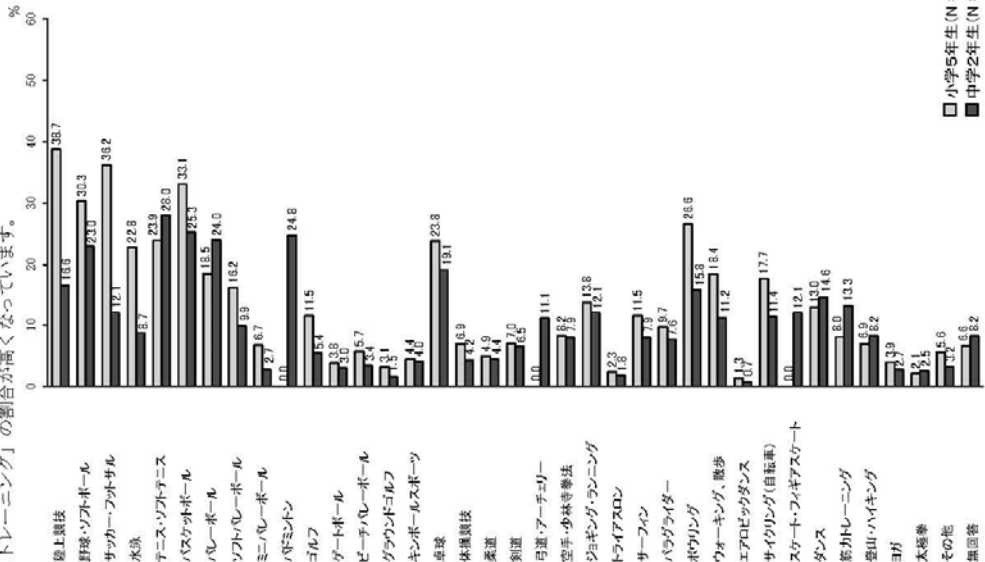
問5-2 問5で「5」をえらんだ人に聞きます。その理由はなんですか。(○はひとつ)

小学5年生、中学2年生の比較については、参考にとどめます。



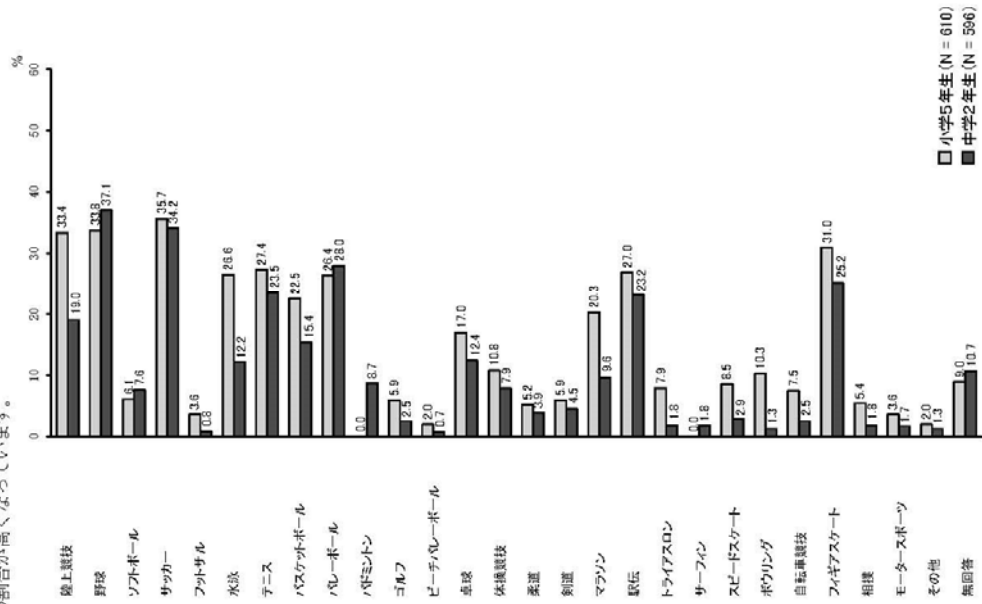
問6 今後やってみたいスポーツや、継続していききたいスポーツを教えてください。(○はいくつでも。選択しなくてもよい。)

小学5年生、中学2年生を比較すると、小学5年生で「陸上競技」「野球・ソフトボール」「サッカー・フットサル」「水泳」「バスケットボール」「ソフトバレーボール」「ゴルフ」「ボウリング」「ウォーキング、散歩」「サイクリング (自転車)」の割合が高くなっています。一方、中学2年生で「バレーボール」「バドミントン」「弓道・アーチェリー」「スケート・フィギュアスケート」「筋力トレーニング」の割合が高くなっています。



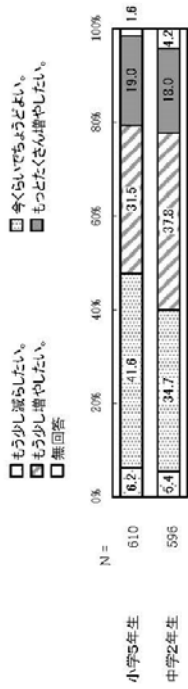
問7 あなたが、試合を実際に観戦したり、テレビで応援したいと思うスポーツを教えてください。○はいくつでも。なければ選ばなくてもよい。

小学5年生、中学2年生を比較すると、小学5年生で「陸上競技」「水泳」「バスケットボール」「マラソン」「トライアスロン」「スピードスケート」「ボウリング」「自転車競技」「フィギュアスケート」の割合が高くなっています。



問8 今後あなたは、今よりスポーツを行う時間（体育の授業と部活動以外）を増やしたいですか。減らしたいですか。（○はひとつ）

小学5年生、中学2年生を比較すると、小学5年生で「今くらいでちょうどよい。」の割合が高くなっています。一方、中学2年生で「もう少し増やしたい。」の割合が高くなっています。



2 策定経過

日 程	会 議 名 等	主 な 内 容
平成 26 年 12 月	小中学生に対するアンケート調査	アンケート調査を実施
平成 27 年 1 月	一般市民に対するアンケート調査	アンケート調査を実施
平成 27 年 6～7 月	団体ヒアリング調査	12 団体に対してヒアリング調査を実施
平成 27 年 6 月 10 日（水）	第 1 回田原市スポーツ推進計画 庁内ワーキング会議	①庁内WG会議の目的について ②計画の策定目的とスケジュールについて ③本市の現状と課題について ④骨子（案）について
平成 27 年 7 月 24 日（金）	第 1 回田原市スポーツ推進計画策定委員会	①計画策定の基本方針とスケジュール ②田原市のスポーツ振興に向けた課題 ③田原市のスポーツ振興に関する意見交換
平成 27 年 8 月 21 日（金）	第 2 回田原市スポーツ推進計画策定委員会	①計画体系図（案）について ②施策の方向性について ③田原市のスポーツ振興に関する意見交換 ④各施策のアクションプランについて
平成 27 年 10 月 14 日（水）	第 3 回田原市スポーツ推進計画策定委員会	①基本理念とスポーツの定義について ②計画の体系について ③計画の内容について ④各施策のアクションプランについて
平成 27 年 11 月 19 日（木）	第 2 回田原市スポーツ推進計画 庁内ワーキング会議	①策定委員会での検討状況について ②計画内容とアクションプラン（案）について
平成 27 年 12 月 24 日（木）	第 4 回田原市スポーツ推進計画策定委員会	①田原市スポーツ推進計画（案）について ②パブリックコメントについて
平成 28 年 3 月 9 日（水）	第 5 回田原市スポーツ推進計画策定委員会	①パブリックコメントの結果について ②田原市スポーツ推進計画の最終案について

3 田原市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 本市の生涯スポーツ社会の実現と市民の健康増進、スポーツ事業による地域活性化を実現するべく、長期的、総合的視野に立った田原市スポーツ推進計画（以下、「計画」という。）を策定するため、田原市スポーツ推進計画策定委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事項は次のとおりとする。

- (1) 計画の策定に係る協議及び連絡調整に関すること。
- (2) その他計画の策定及び推進に必要な事項。

(構成)

第3条 委員会は、委員14名以内で組織し、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係団体を代表する者
- (3) 民間事業者
- (4) 地域団体を代表する者
- (5) 関係行政機関の職員
- (6) 市長が必要と認めた者

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長、副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選によってこれを定める。
- 3 委員長は、会務を統括し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長が指名する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、委嘱の日から平成28年3月31日までとする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、必要に応じて委員長が召集し、委員長が議長となる。

- 2 委員会の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第7条 委員会は必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その説明又は意見を聴くことができる。

(庁内ワーキンググループ会議)

第8条 計画の策定に必要な関係各課等の調整事務を処理するため、庁内ワーキンググループ会議を設置することができる。

(庶務)

第9条 策定委員会の庶務は、教育委員会スポーツ課において処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営等に関し必要な事項は、委員長において定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成27年6月1日から施行する。
- 2 この要綱は、平成28年3月31日限りでその効力を失う。

4 委員名簿

No.	構成組織	氏名	団体・役職	備考
1	(1) 学識経験者	築瀬 歩	愛知産業大学 准教授	委員長
2		嶋津 隆文	松蔭大学 客員教授	アドバイザー
3	(2) 関係団体を代表する者	柳原 昭生	田原市スポーツ推進委員 委員長	副委員長
4		大谷 龍徳	田原市体育協会 会長	
5		岡田 達也	なのはなスポーツクラブ 事務局長	
6		高崎 吉郎	田原市スポーツ少年団 本部長	
7		加藤 昌高	渥美半島観光ビューロー 誘客部会長	
8		國岡 弘美	健康づくりリーダー 田原市代表	
9		小久保 智宏	田原市社会福祉協議会 総務課長	
10	(3) 民間事業者	笠原 盛泰	株式会社ハクヨプロデュースシス テム代表取締役社長	
11		内田 直将	トヨタ自動車陸上長距離部 事務局	
12	(4) 地域団体を代表する者	鈴木 昇	田原市コミュニティ協議会 (赤羽根校区代表)	
13	(5) 関係行政機関の職員	前田 和宏	田原市教育部長	
14		本田 雅彦	田原市 スポーツ顧問アドバイザー	

田原市スポーツ推進計画

平成 28 年 3 月

発行：田原市教育委員会スポーツ課
〒441-3492

愛知県田原市田原町南番場 30 番地 1

TEL 0531-23-3531

FAX 0531-22-3811

URL <http://www.city.tahara.aichi.jp>

e-mail sports@city.tahara.aichi.jp

